

臺灣總督府測候技術官養成委託生規則

第一條 臺灣總督府測候技術官養成委託生規則... 第二條 委託生ヲ命ゼラレタル者ハ保證人ヲ...

第五條 給費ノ額ハ... 第六條 委託生ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ...

第七條 委託生ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ... 第八條 委託生ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ...

第九條 委託生ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ... 第十條 委託生ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ...

本館 現住所 保證人 氏 名 印

本館 現住所 保證人 氏 名 印

醫學依託生規則

醫學依託生規則 昭和二年九月十四日...

樺太廳長官宛

樺太廳長官宛 醫學依託生規則...

樺太廳中等學校教員依託養成規程

樺太廳中等學校教員依託養成規程 大正十年十月二十八日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

學術研究員規程

學術研究員規程 大正九年十月十九日...

在ラス
 第十一條 朝鮮總督府在外研究員ヲ命セラレタル官吏ハ任地出發ノ日ヨリ歸任ノ日迄之ヲ定員外トス
 第十二條 朝鮮總督府在外研究員旅行中私事ノ爲滞在中ハトモトキハ第十一號書式ニ依リ許可ヲ受テヘシ但シ豫メ許可ヲ受ケルノ限ナキトキハ其ノ事由ヲ具シ第十二號書式ニ依リ追認ヲ受ケヘシ
 第十三條 朝鮮總督府在外研究員ハ滿期ノ翌日在留地ヲ出發歸朝スヘシ但シ已ムテ得サル事由ニ依リ出發シ難キトキハ當該國駐在

帝國大使、公使又ハ最寄駐在帝國領事ノ證明ヲ得テ十四日以内滞在スルコトヲ得前項但書ノ場合ニ於テハ第十三號書式ノ在留滿期後海外肩ヲ差出スヘシ
 第十四條 朝鮮總督府在外研究員ハ學費、旅費又ハ手當ノ送達ヲ受ケル爲メ宿所ヲ指定シテ第十四號書式ニ依リ肩書ヲ差出スヘシ
 第十五條 朝鮮總督府在外研究員歸朝シタルトキハ七日以内ニ第十五號書式ノ歸朝届及第十六號書式ノ在外研究員始末書ヲ差出スヘシ

第一號書式

警書
 某儀今般何國何國ニ於テ何年何月何日何港解何國何地ニ相向ヒテ遷奉可致仍テ警書及提出候也
 年 月 日
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第二號書式

出發(又ハ出發決定)届
 某儀何年何月何日何地(任地ナキ者ハ現住所)出發何年何月何日何港解何國何地ニ相向ヒテ右及御届候也
 年 月 日
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第三號書式

在留地到着届
 某儀何年何月何日何國何地ニ到着致候右及御届候也
 年 月 日
 宿所(又ハ郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(又ハ郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第四號書式

在留地退去届

朝鮮總督 何 某殿
 大使、公使又ハ領事 何 某殿
 各通
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第八號書式

滿期前歸朝届(診察書付在官書)
 某儀病氣ノ爲研究ニ堪ヘ難ク候ニ付滿期前歸朝御許可相成度此段相願候也
 年 月 日
 宿所(郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第九號書式

滿期前歸朝追認届(診察書付在官書)
 某儀病氣ノ爲研究ニ堪ヘ難ク候何年何月何日何地出發歸朝致候ニ付御追認相成度此段相願候也
 年 月 日
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第十號書式

自何年何月何日何地何學校若ハ何所ニ入り何年何月何日ヨリ何年何月何日迄
 修業所、教師何某氏ニ就キ何科目ヲ研究シ何年何月何日ヨリ現今ニ至ル迄教師何某氏ニ就キ何科目ヲ研究ス
 年 月 日
 宿所(郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第十一號書式

旅行
 何年何月何日何地出發何地方ニ旅行シ何年何月何日迄歸朝ナラシメ其ノ報告書別紙ノ如シ(別紙ニ報告書ヲ提出セシムルハ別紙ニ記入スヘシ)
 年 月 日
 宿所(郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第十二號書式

前二號ノ外要
 何年何月何日學費(手當又ハ旅費)何國受領等(其ノ他試験、學位、褒賞ニ關スル事項等記入ノコト)
 年 月 日
 宿所(又ハ郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(又ハ郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第十三號書式

旅行中私費滞在届
 某儀何年何月何日本邦出發何國何地ニ向テ決定ニ有之候處(又ハ何地出發歸朝ノ決定ニ有之候處)途中何地ニ於テ何何ノ爲何日間私費滞在致候候ニ付御許可相成度此段相願候也
 年 月 日
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第十五編 第二章 第一節 第二十六款 在外研究員及留學生

某儀何年何月何日何國何地ヲ退去シ何國何地ニ相向ヒテ右及御届候也
 年 月 日
 宿所(又ハ郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(又ハ郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第五號書式

旅費給與届
 某儀何年何月何日何國何地ニ移轉致候候ニ付旅費給與相成度此段相願候也
 年 月 日
 宿所(郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第六號書式

巡歴手當給與届
 某儀別紙ノ通巡歴致候候ニ付見積書ノ通手當給與相成度此段相願候也
 年 月 日
 宿所(又ハ郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(又ハ郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第七號書式

在留地追加届(在官者ハ當該官署ノ長官經由)
 某儀何何ノ爲必要有之候ニ付何國ヲ在留國中ニ御追加相成度此段相願候也
 年 月 日
 宿所(郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第十二號書式

旅行中私費滞在追認届
 某儀何年何月何日本邦(又ハ何地)出發何年何月何日何地ニ到着(又ハ歸朝)致シ候處途中何地ニ於テ何何ノ爲何日間私費滞在致シ候ニ付御追認相成度此段相願候也
 年 月 日
 宿所(郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第十三號書式

在留滿期後滞在届(大使、公使又ハ領事)
 某儀何年何月何日在留期間滿期ノ處何何ノ爲滿期後何日間滞在致シ候ニ付此段及御届候也
 年 月 日
 宿所(郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第十四號書式

學費(旅費又ハ手當)送付先届
 學費(手當又ハ歸朝旅費)送付先左記ノ通及御届候也
 年 月 日
 宿所(郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第十五號書式

(明瞭ニ記載スヘシ)
 某儀何年何月何日歸朝致候右及御届候也
 年 月 日
 宿所(郵便宛先)(原語併書)
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宿所(郵便宛先)(原語併書) 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

第十六號書式

在外研究員始末書
 何年何月何日何港解何洋ヲ經(何年何月何日迄何地ニ滞在)何年何月何日最初ノ在留地一往返發着
 朝鮮總督府在外研究員 何 某印

朝鮮總督府在外研究員 何 某印

何國何所ニ到者
何年何月何日滿期(病氣或ハ何何ノ事故ニ付歸朝ヲ命セラレ或ハ何何ノ事故ニ依リ歸朝
願濟)ニ依リ何年何月何日何所出資何所(何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何地
在)何年何月何日何港(本邦何港)ニ到者
一 修學狀況
何年何月何日何國何所ニ於テ教諭何某氏ニ從ヒ何年何月何日迄左ノ學科ヲ修修ス
學科 何何
何年何月何日ヨリ何何ノ爲何校ニ轉シ教諭何某氏ニ從ヒ何年何月何日迄左ノ學科(又ハ
事項)ヲ修修ス
學科 何何(又ハ事項)何何
何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何所ニ於テ(又ハ何地へ)巡歴(左ノ事項)ヲ研究(又ハ實
驗)ス
事項何何
一 右ノ外要ノ事項
年 月 日
朝鮮總督府在外研究員 何 某印

宮内省在外研究員令

大正十一年十一月一日
皇令第九號
(官内省)
宮内省在外研究員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム(官内省)
第一條 宮内省在外研究員令ニ依リ學術技術ヲ研究セ
シムル爲ニ在外研究員ヲ外國ニ派遣スルコト
ヲ得
第二條 在外研究員ハ宮内省職員中ヨリ選拔ニ
依リ宮内大臣ノ命ニ付ス
第三條 在外研究員ノ研究事項ハ宮内大臣ノ指
定期間其ノ他必要ナル事項ハ宮内大臣ノ指
定ス
第四條 在外研究員ニハ本令ノ定ムル所ニ依
リ學費金、巡歴手當及旅費ヲ支給ス
特別ノ事由アルトキハ前項ニ定ムル所ノ
外特別手當ヲ支給スルコトヲ得
第五條 學費金及巡歴手當ハ別表ニ依リ
第六條 學費金ハ最初ノ在留地到着ノ翌日ヨ
リ歸朝ノ途ニ就ク前日迄月割及日割ヲ以テ
之ヲ支給ス
在留期間轉移ノ場合ニ於テハ前在留地ヲ出
發シタル日ノ翌日ヨリ後在留地ニ付定メタ

宮内省在外研究員令施行規則

大正十一年十一月一日
(官内省)
宮内省在外研究員令施行規則左ノ通定ム
第一條 宮内省在外研究員令施行規則
ハ身體検査ヲ受ケルコトヲ得
第二條 在外研究員ヲ命セラレタル者ハ七日
以内ニ誓書(第一號書式)ヲ宮内大臣ニ差出
スヘシ
第三條 在外研究員ニシテ本邦出發前傷病ヲ
受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキハ直ニ宮内大
臣ニ届出テ更ニ身體検査ヲ受ケルコトヲ得
(第二號書式)ヲ宮内大臣ニ在留地ニ到者
シタルトキハ在留地到着届(第三號書式)
在留地ヲ離レルトキハ在留地退去届(第四
號書式)ヲ在留地ニ在宮内大臣當該國駐劄
帝國大使、公使又ハ最寄駐在帝國領事ニ差
出スヘシ
第五條 在外研究員在留地ヲ轉セムトスルト
キハ旅費給與願(第五號書式)ヲ學術研究
ノ爲各地ヲ巡歴セムトスル場合ニ於テ特
手當ノ支給ヲ請ハムトスル場合ニ於テハ費用見積
書ヲ添附シ巡歴手當給與願(第六號書式)ヲ
宮内大臣ニ差出スヘシ
第六條 在外研究員在外中學術研究上特ニ多
額ノ費用ヲ要スルトキハ不慮ノ事變若ハ
災害ニ遇ヒタルトキニ於テ特別手當ノ
支給ヲ請ハムトスル場合ニ於テハ其ノ事由
ヲ記載シタル書類及費用見積書ヲ添附シ特
別手當給與願(第六號書式ニ準ジ)ヲ宮内大
臣ニ差出スヘシ
第七條 在外研究員指定在留地以外ニ轉セム
トスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書類ヲ
添附シ在留地追加指定願(第七號書式)ヲ宮
内大臣ニ差出シ其ノ許可ヲ受ケルコトヲ得
第八條 在外研究員ハ自己ノ便宜ニ因リ滿期
前歸朝スルコトヲ得但シ傷病疾病ニ因リ
研究ニ堪ヘキトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附

Table with columns: 學費金年額, 巡歴手當年額, 死亡手當. Rows: 甲地方, 乙地方, 丙地方. Includes a note about the table's purpose.

シ歸朝願(第八號書式)ヲ宮内大臣ニ差出シ
其ノ許可ヲ受ケルコトヲ得
前項但書ノ場合ニ於テ急症ニシテ許可ヲ受
ケルノ暇ナキトキハ當該國駐劄帝國大使、
公使又ハ最寄駐在帝國領事ノ證明ヲ得歸朝
ノ後歸朝追認願(第九號書式)ヲ宮内大臣ニ
差出スヘシ
第九條 在外研究員ハ毎年四月及十月ニ於テ
其ノ研究事項ニ關スル申報書(第十號書式)
ヲ宮内大臣ニ差出スヘシ
第十條 在外研究員ノ學費支給期ハ毎年度ノ
始ニ於テ六月分四月及七月ニ於テ各三分
ヲ前拂ヲ以テ支給ス但シ特別ノ事由アルト
キハ此ノ限ニ在ラス
第十一條 在外研究員旅行中私事ノ爲滞在セ
ムトスルトキハ私費滞在願(第十一號書式)
ヲ宮内大臣ニ差出シ其ノ許可ヲ受ケルコトヲ得
但シ
由テ記載シタル書類ヲ添附シ私費滞在追認
願(第十二號書式)ヲ宮内大臣ニ差出スヘ
シ
第十二條 在外研究員學術研究上在留期間ノ
延期ヲ請ハムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載
シタル書類ヲ添附シ在留期間延期願(第十
三號書式)ヲ宮内大臣ニ差出シ其ノ許可ヲ
受ケルコトヲ得
第十三條 在外研究員ハ滿期ノ翌日在留地ヲ
出發歸朝スヘシ但シ已ムテ得サル事由ニ因

定シタル職務ニ從事スル義務ヲ負フモノト
ス
第十三條 在外研究員宮内大臣ノ命令ニ違背
シタルトキ又ハ成業ノ見込ナキニ至リタル
トキハ之ヲ免スルコトヲ得
第十四條 第十二條ノ義務ヲ履行セス又ハ前
條ノ規定ニ依リ研究員ヲ免セラレタル者ノ
受ケタル學費金、巡歴手當、特別手當及旅費
ハ之ヲ償還セシム但シ特別ノ事情アルトキ
ハ之ヲ免スルコトヲ得
(別表)
區分
學費金年額
巡歴手當年額
死亡手當
甲地方 乙地方 丙地方 甲地方 乙地方 丙地方
高等官及之ニ準スル 五千五百圓 四千五百圓 三千圓 二千圓 一千五百圓 一千圓
以上 以下 以上 以下 以上 以下
判任官及之ニ準スル 四千五百圓 三千七百圓 二千四百圓 一千九百圓 一千四百圓 一千圓
以上 以下 以上 以下 以上 以下
備考
甲地方トハ南北亞米利加、乙地方トハ歐羅巴亞弗利加大洋洲並支那及西比利亞以外ノ
亞細亞、丙地方トハ支那及西比利亞ヲ謂フ
(官内省)
宮内大臣何某殿
第三號書式
在留地到着届
何年何月何日何國何地ニ到者致シ候
年 月 日
宿所(又ハ郵便宛先)(原語並書) 某印
宮内省在外研究員 何
(羅馬字並書)
(官内省)
宮内大臣何某殿
第四號書式
在留地退去届
何年何月何日何國何地ニ向ヒ出發可致候
年 月 日
宿所(又ハ郵便宛先)(原語並書) 某印
宮内省在外研究員 何
(羅馬字並書)
(官内省)
宮内大臣何某殿
第五號書式
旅費給與願
何年何月何日何國何地ニ移轉致候ニ付相當ノ旅費御給與被成下度候
年 月 日
宿所(又ハ郵便宛先)(原語並書) 某印
宮内省在外研究員 何
(羅馬字並書)
(官内省)
宮内大臣何某殿
第六號書式
巡歴手當給與願
別紙見積書ノ通巡歴致候ニ付相當ノ手當御給與被成下度候
年 月 日
宿所(又ハ郵便宛先)(原語並書) 某印
宮内省在外研究員 何
(羅馬字並書)
(官内省)
宮内大臣何某殿
見積書
何年何月何日 何地出發
何年何月何日 何地著(經由又ハ滞在)
右ニ要スル費用 何圓

第一號書式
誓書
今般在外研究員ヲ命セラレ候ニ付テハ在外研究員ニ關スル御規則並遵守可致候
年 月 日
宿所
宮内省在外研究員 何 某印

第二號書式
出發決定届
何年何月何日何港出發何國何地ニ向ヒ出發可致候
年 月 日
宿所
宮内省在外研究員 何 某印

第十四條 不正ノ方法ニ因リ試験ヲ受ケムト企テタル者及試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ其期ノ試験ヲ受タルコトヲ得ズ試験合格ノ後モ是等ノ事實發覺シタルトキハ其合格ヲ無効トス

第十九條 外國留學生ノ旅費ハ外國留學地往來其他外國大區ノ命ニ依リ旅行シタルトキハ其旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ支給スルル規定ニ依リ旅費ヲ支給スル期間ハ學費支給セシム

附則 本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス 官立、公立學校外國人入學ニ關スル規程

文部省直轄學校外國人特別入學規程 明治三十四年十一月十一日 文部省直轄學校外國人特別入學規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ「清國」人ノ入學ヲ許可セントスルコトキハ其ノ入學願書ニ本邦所在ノ「清國」公館ノ紹介書ヲ添付セシム

第二條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ「清國」人ノ入學ニ對シ本人ノ志望ニ依リ其ノ學校所定ノ學科中一科目若ハ數科目ヲ關カシムルコトヲ得

附則 本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス 官立、公立學校外國人入學ニ關スル規程

文部省直轄學校外國人特別入學規程 明治三十四年十一月十一日 文部省直轄學校外國人特別入學規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 師範ノ心志剛勇ノ思想ノ懷クヘカサルルハ
 人々皆然リト雖モ特ニ教員タル者ハ自己ノ
 心上ニ於テ最モ剛勇ノ志ヲ去テセルハカ
 ス蓋シ幼童ノ習性ヲ養成シ身體ヲ發育スル
 ノ重任ニ肩リ以テ世ノ福ヲ増進スルノ實
 效ヲ奏スルハ固ヨリ剛勇ノ志ニシテ健全
 利ヲ事トスル徒ノ敢テ能クスヘキ所ニアラ
 シレハナリ

一 學務管理上ニ於テハカラサル快活ノ氣象ハ
 心神委靡セル人ノ能ク具スヘキ所ニアラ
 ス又生徒教授上ニ於テハカラサル許多ノ勞
 力ハ身體剛健ナル者ノ能ク耐スヘキ所ニ
 アラス是故ニ教員タル者ハ宜ク特ニ起居飲
 食等ノ常度ヲ守リ散漫及運動等ノ良規ニ循
 テ其身心ノ健康ヲ保全シ以テ其職務ヲ盡ス
 ノ地ヲ備フベシ

一 教員タル者ハ唯小學校教員中ニ獨ルル所ノ
 學科ニ通スルノミテ以テ足レリトモモ博
 識ノ外ノ學科ニ涉ラントテ要スルモ此ノ如
 クナラザレバ俟テ教授上ニ破綻ヲ生シテ生
 徒ノ信譽ヲ失ヒ違ニ其身ヲ學校ノ上ニ置ク
 能ハサルニ至ルベシ

一 教員タル者ハ常ニ整然タル秩序ニ由リ學
 務ヲ廣メ以テ其志ヲ練磨セシムルヲ務ムヘシ
 吾ラサレバ決シテ教授ノ實効ヲ奏スル根
 本ヲ立ツル能ハス蓋シ我カ練磨セシムルノ志
 ヲ以テ能ク他人ノ志ヲ練磨シ得ルモノハ
 未ダ曾テ之アラサルナリ

一 師範學校等ニ於テ習テ學業ヲ修シ所ノ教育法
 ハ概ネ其ノ一環子タルニ過キサルモノナリ故
 ニ教員タル者ハ徒ニ之ヲ附襲スルヲ以テ足
 レリトモモ宜ク常ニ自ら其得失利病ヲ考
 取リ以テ之ヲ活用セシムルヲ務ムヘシ

一 一人ノ心神及身體ノ組織作用ニ至テハ教員
 ル者最モ深ク意ヲ留メ講究ト經驗ト由テ
 其原理實際ニ精通セシムルヲ要スヘシ吾ラ
 レハ假令我々漢キトシテ教育ニ從事スルモ
 違ニ態度妄作ノ弊ヲ免ル、一、能ハサルナ
 リ

一 學校管理ノ事ハ之ヲ教授ノ事業ニ比スレハ
 更ニ困難ナリトモモ教員タルモノハ常ニ
 人情世變ヲ審ニシ道義公道ヲ辨シ且事ヲ處

スルノ方法ヲ務メテ之ノ順序ヲ詳練セ
 タルヘカラス

一 按テハ校内ノ秩序ヲ整肅ナラシムルニ止ラ
 ス徒テ生徒ノ禮儀ヲ勸導スルノ要具タリ故
 ニ教員タル者ハ能ク此旨趣ヲ體認シ以テ之
 ヲ執行セサルヘカラス

一 熱誠懇切剛勇ノ三者ハ亦教育上ニ於テハカ
 ラサルノ美事タリ故ニ教員タル者能ク此三
 者ヲ具備シテ其事ニ從フベキハ固ヨリ教育
 上ニ於テ不知不曉此等ノ美事ニ感化シ習慣自
 シテ不知不曉此等ノ美事ニ感化シ習慣自
 然ニ知ラシムルニ至ルヘシ

一 學校ヲ統率スルハ殊ニ剛毅、忍耐、威重、懇
 誠、熱心等ノ諸德ニ由ルヘシ蓋シ剛毅ニア
 ラザレバ難ニ難ニ難ニ難ニ難ニ難ニ難ニ難
 久ヲ持スル能ハス威重ニアラザレバ人ヲ服
 スル能ハス懇誠ニアラザレバ人ヲ信スル能
 スル能ハス熱心ニアラザレバ人ヲ愛スル能
 生徒若シ震動ヲ生シ學業ヲ廢ル等ノ事
 ラハ之ヲ處置スル極メテ適當詳密ニシテ備
 前ノ弊ナク苛罰ノ失ナカラシムルヲ要ス故ニ教
 員タル者ハ常ニ寬厚ノ量ヲ養ヒ中正ノ見
 持シ誠中政治及宗教上ニ涉リ執拗矯矯ノ言
 論ヲナス等ノ事アルヘカラス

一 人トシテ善良ノ性行ヲ有スヘキハ言フ俟
 スト雖モ教員タル者ニ至テハ最モ善良ノ性
 行ヲ有セサルヘカラス吾ラサレバ決シテ
 幼童ノ德性ヲ涵養シ善行ヲ誘導スルニ能
 ヲルヘシ蓋シ幼童ノ中心タル至道至沖ニシテ外
 物ノ爲ニ感染セラル、一、極メテ能クシテハ

一 教員タル者ノ品行ヲ向クシ學業ヲ廣メ經驗
 ヲ積ムヘキハ亦其職業ニ對シテ盡スヘキ
 務ト謂フヘシ蓋シ品行ヲ向ケタルハ其職業
 ノ品位ヲ貴クシ所以ニシテ學業ヲ廣メ經
 驗ヲ積ムハ其職業ノ光澤ヲ増ス所以ナリ

一 教員免許令 明治三十三年三月三十一日
 附則 大正五年第三五號
 改正 大正五年第三五號

一 特別ノ規定アル場合ヲ除ク外教員
 免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依
 リテ之ヲ授與スルルベシ

一 依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サルハ外本令
 ルコトヲ得ズ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依
 リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツル
 コトヲ得

一 第三條 教員免許狀ハ卒業後ノ目的ヲ以テ
 設置シタル官立學校ノ卒業生又ハ教員檢定
 ニ合格シタル者ニ文部大臣ノ授與ス

一 第四條 教員檢定ハ試驗檢定及無試驗檢定ト
 シテ之ヲ行フ

一 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢
 定ヲ受クルコトヲ得ズ

一 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢
 定ヲ受クルコトヲ得ズ

一 第七條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍
 及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

一 第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍
 及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

一 第九條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍
 及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

一 第十條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍
 及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

一 第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ
 之ヲ施行ス

一 第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シ
 タル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免
 許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中
 學師範學校卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタ
 ル教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

一 教員免許狀ヲ有セサル者教員
 ニ採用方 明治三十三年三月三十一日
 附則 大正五年第三五號
 改正 大正五年第三五號

一 第一條 師範學校中學校ニ於テ教員免許狀ヲ
 有スル者ヲ得難キ場合及高等女學校ニ於テ
 教員免許狀又ハ第二條ノ資格ヲ有スル者ヲ
 得難キ場合ハ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ
 教員ニ採用スルコトヲ得

一 第二條 師範學校中學校ノ畢業生又ハ柔術
 ノ教授ヲ擔任セシムル爲メ當分ノ内左ノ各號
 ノ一ニ該當スル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ
 得

一 文部大臣ノ指定シタル專門學校ノ卒業
 生

一 第三條 教員檢定ニ關スル規程第五條第一號若
 ハ第三號乃至第六號ノ一ニ該當スル者
 ニシテ主トシテ柔術又ハ柔術ノ教授ス
 ル學校ニ於テ三箇年以上修業シ文部大
 臣ニ於テ特ニ其ノ成績優良ナリト認定
 シタル者

一 第四條 高等女學校ニ於テ第二學年以下ノ教
 授ヲ擔任セシムル爲メ小學校本科正教員免許
 狀ヲ有スル者ヲ採用スルコトヲ得

一 第五條 第一條ニ依リ採用シタル教員ハ公立
 學校ニ在リテハ教諭助教諭又ハ顧問ト稱
 スルコトヲ得

一 第六條 中學校高等女學校ニ於テ新ニ採用セ
 ル者ノ教員免許狀ヲ有スル者ハ二分之一ヲ
 超過スル場合ハ文部大臣ノ認可ヲ受クル
 コトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルコトキ
 ハ公立學校ニ在リテハ管理官、私立學校ニ
 在リテハ設立者ニ於テ本人ノ氏名、履歷及
 分擔學科並該學校現在教員ノ氏名及資格
 ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一 第五條 第一條ニ掲ケタル學校及特別ノ規定
 アル學校ヲ除ク外公立學校ニ於テハ教員免
 許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコト
 ヲ得

一 第六條 本令ハ明治三十三年九月十日ヨリ施
 行ス

一 第七條 本令施行ノ際教員免許狀ヲ有セシ
 テ規定ニ依リ採用セザレバ者トシ本令
 第八條 明治三十三年文部令第二十號第七條
 明治三十二年文部令第二十二號同第四十
 三號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

一 教員免許狀效力範圍
 明治三十三年三月三十一日
 附則 大正五年第三五號
 改正 大正五年第三五號

一 第三條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行
 ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

一 第四條 試驗檢定ハ試驗檢定及試驗檢定ニ
 目ハ文部大臣ニ於テ之ヲ告示シ試驗施行ノ
 期日ハ教員檢定委員會長ニ於テ之ヲ公告ス

一 第五條 檢定ヲ受ケムル者ハ第一號書式
 ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテ
 ハ豫備試驗ヲ受ケヘキ者ハ其ノ受験地ノ地
 方廳ノ他ノ者ハ便宜ノ地方廳ヲ經由シ無
 試驗檢定ニ在リテハ地方廳若ハ當該學校ヲ
 經由シテ文部大臣ニ出願ス

一 第六條 第二號書式ノ願書及受験資格ニ關ス
 ル學校卒業證書若ハ教員免許狀ノ寫
 及第九號ニ該當スル者ニ在リテハ第三
 號書式ノ當該學校長證明書、同條第三
 號ニ該當スル者ニ在リテハ第四號書式

一 修身 英語 國語 漢文
 一 地理 佛語 調語 歷史
 一 博物 算學 物理 化學
 一 習字 國畫 法則及經濟 裁縫
 一 商業 音樂 家庭 農業
 一 手工 手工 手工

一 歷史ハ日本史東洋史、西洋史ノ二部ニ博物
 ハ動物、植物、礦物、生理及衛生ノ四部ニ圖
 畫ハ日本畫用畫器、西洋畫用畫器ノ二部ニ
 繪畫ハ體操、運動、柔術ノ三部ニ手藝ハ刺
 繡、造花、編物、染色、縫織ノ五部ニ分テ檢
 定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ分テ一學
 科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其
 ノ手藝科ニ關シテハ一學科目ト看做ス

一 手藝ハ染色若ハ縫織ヲ出願スル者、裁縫ト
 併セ出願スル者又ハ裁縫若ハ手藝ノ免許狀
 ヲ有スル者ノ外ニ二部以上ニ就キテ檢定ヲ出
 願スルニテアラザレバ試驗ヲ行ハズ但シ染
 色、縫織ニ就キテハ當分ノ內試驗檢定ヲ行
 ハス

一 前項ノ規定ニ依リ裁縫ト手藝ノ一部ト併
 セ出願スル場合ニ於テ其ノ手藝科ニ關シテ
 ハ一學科目ト看做ス

一 數學ハ算術、代數、幾何、三角法及高等數學
 初步ニ就キ檢定ス

一 第三條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行
 ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

一 第四條 試驗檢定ハ試驗檢定及試驗檢定ニ
 目ハ文部大臣ニ於テ之ヲ告示シ試驗施行ノ
 期日ハ教員檢定委員會長ニ於テ之ヲ公告ス

一 第五條 檢定ヲ受ケムル者ハ第一號書式
 ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテ
 ハ豫備試驗ヲ受ケヘキ者ハ其ノ受験地ノ地
 方廳ノ他ノ者ハ便宜ノ地方廳ヲ經由シ無
 試驗檢定ニ在リテハ地方廳若ハ當該學校ヲ
 經由シテ文部大臣ニ出願ス

一 第六條 第二號書式ノ願書及受験資格ニ關ス
 ル學校卒業證書若ハ教員免許狀ノ寫
 及第九號ニ該當スル者ニ在リテハ第三
 號書式ノ當該學校長證明書、同條第三
 號ニ該當スル者ニ在リテハ第四號書式

一 試驗檢定合格證明書、同條第六號ニ
 該當スル者ニシテ教員免許狀授與地方
 廳以外ノ地方廳ヲ經由スル場合ニ在リ
 テハ第五號書式ノ授與地方廳證明書、
 第十一條第一號第二號ニ該當スル者ニ
 在リテハ第六號書式ノ相當官署ノ證明
 書

一 第七號書式ノ學校醫ノ身體檢査書但シ
 學校醫ノ設置ナキ地ニ在リテハ醫師法
 ニ依リ醫師ノ身體檢査書ヲ以テスルモ
 妨ナシ

一 地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就
 キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス

一 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢
 定ヲ受クルコトヲ得但シ第二號、第四號及
 第九號ニ該當スル者ニ在リテハ一箇年以上
 在學シ卒業シタル者ニ限ル

一 中學校卒業生

一 高等女學校及高等女學校實科若ハ實科
 高等女學校卒業生

一 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢
 定ニ合格シタル者

一 專門學校入學者檢定規程第八條第一號
 ニ依リ專門學校入學ニ關シテ指定ヲ受ケ
 タル

一 徵兵令第十三條又ハ文官任用令第六條
 ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレ
 タル學校ヲ卒業シタル者

一 小學校本科正教員、尋常小學校本科正
 教員、小學校專科正教員若ハ小學校准
 教員ノ免許狀ヲ有スル者

一 教員免許令ニ依リ授與セラレタル教員
 免許狀ヲ有スル者

一 外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學
 校ニ卒業シタル者

一 文部大臣ニ於テ某學科目ニ關シテ適當ト
 認定シタル學校ヲ卒業シタル者

一 第一號及第二號ニ準スヘキ學歷アル者

一 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ文部大
 臣ノ適當ト認定シタル學科目ニ關シテ試驗檢
 定ヲ受クルコトヲ得

一 文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業生及

一 預科修了者

一 第五條第一號乃至第八號ニ該當スル者
 ニシテ卒業生若ハ教員無試驗檢定ニ關シ
 テ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立
 學校ニ入リ三箇年以上在學シ卒業シ
 タル者但シ體操科ヲ修ムル者ニ在リテ
 ハ二箇年以上トシ修業年限四箇年ノ高
 等女學校、高等女學校實科若ハ實科高
 等女學校ノ卒業生若ハ第五號第三號ニ該
 當スル者及第四號中修業年限四箇年ノ
 高等女學校卒業生ニ準スヘキ者ニ在リ
 テハ家事、裁縫、體操、手藝ノ一科目又
 ハ數科目ヲ修ムル場合ノ外四箇年以上
 トス

一 高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者
 第五條第一號乃至第八號ニ該當スル者
 ニシテ外國ノ大學又ハ之ニ準スヘキ學
 校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受
 領シタル者

一 相當ノ學歷ヲ有シ師範學校、中學校、高
 等女學校及之ト同等以上ノ學校ニ於テ
 五箇年以上檢定ヲ受ケントスル學科目
 ノ教授ヲ擔任シ其ノ成績優良ナル者

一 第八條 試驗檢定ヲ分テ豫備試驗及本試驗
 トス但シ學科目ノ種類ニ依リ豫備試驗ヲ行
 ハサルコトアルヘシ

一 豫備試驗ヲ施行スル學科目ニ在リテハ豫備
 試驗ニ合格シタル者ニテ本試驗ヲ
 受クルコトヲ得

一 國語科ノ豫備試驗ニ於テハ漢文、漢文科ノ
 豫備試驗ニ於テハ國語科ノ併セ課ス

一 豫備試驗ニ合格シタル者ハ次ノ試驗檢定ニ
 同一ノ學科目ニ付出席スル場合ニ限リ豫備試
 驗ヲ免ス

一 第二條第三項ノ規定ニ依リ裁縫ト手藝ノ一
 部ト併セ出願シタル者ニ對シテ手藝ノ本
 試驗ハ裁縫ト本試驗ニ合格スルニテアラザレ
 ハ之ヲ行ハズ

一 第九條 試驗ハ受験人出願ノ學科目ニ就キ其
 ノ教員タラントスル學校ノ學科目ヲ教授ス
 ルニ足ルヘキ程度ヲ標準トシ國民道徳要

一 明治三十三年文部令第十號教員檢定ニ關ス
 ル規程ヲ改正スルコト左ノ如シ

一 教員檢定ニ關スル規程

一 第一條 教員檢定ハ受験人ノ學力、性行、身體
 ニ就キ之ヲ行フ

一 第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

一 第十五號 學事 第一章 學事 第二十八號 教員 檢定及免許狀 表編 表成

三九五

領、教育大意及教授法ヲ併セテ之ヲ行フモ
ノトス但シ教員免許令ニ依リ授與セラレタ
ル教員免許狀ヲ有スル者若シ小學校本科正
教員ニ對シテハ本國國民進徳要領及教育大
意、修身科出願者ニ對シテハ國民進徳要領、
教育科出願者ニ對シテハ教育大意ノ試験ヲ
行ハス

第十條 豫備試驗ハ圖書經由ノ地方廳所在地
ニ於テ之ヲ行フ
前項試驗ノ施行ハ東京府ヲ除クノ外地方長
官之ヲ監督ス
本試驗ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長
ニ於テ之ヲ公告ス

第十一條 體操科中體操ノ試験檢定ヲ出願シ
タル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ
就キテハ特ニ兵式ニ關スル教練ノ試験ヲ行
ハス

一 陸軍歩兵科士官
ニ服シタル者

二 陸軍歩兵科下士任官後滿四年以上現役
ニ服シタル者

三 女子

體操科中柔術及柔術ノ試験ハ女子ニ對シテ
ハ之ヲ行ハス

第十二條 日本史東洋史料ノ檢定ヲ受ケタル
者ニシテ日本史、東洋史ノ一ニ關シ成績佳
良ナルトキハ教員檢定委員會長ハ其ノ部
分ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルヘシ

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ同一
學科目ニ就キ試験檢定ヲ出願シタルトキハ
其ノ證明書ニ記載セラル部分ニ就キ本試驗
ヲ行フ

第十三條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケムト
シタル者及試験ニ關スル規定ニ違背シタル
者ハ試験ヲ受ケルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタル
トキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ

第十四條 本令ハ明治四十二年三月一日ヨリ
之ヲ施行ス

第十五條 明治三十二年文部省令第二十五號
第二條ニ依リ許可ヲ受ケタル學校ニ在リ
テ學スル生徒ニ對シテハ其ノ修業年限ハ第七
條第二號ニ依リテ定ムルコトヲ得

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第五
條及第六條ノ規定ニ拘ラス試験檢定ヲ受ケ
ルコトヲ得但シ第一號ニ該當スル者ニ關シ
テハ本令施行後三箇年間ニ限ル

一 明治四十年四月二十五日現ニ師範學
校中學校高等女學校又ハ預備兵令第十三
條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラ
レタル實業學校ノ教員ノ職ニ在リタル
者

二 前號ニ該當スル者ニシテ試験檢定ヲ受
ケ教員免許狀ヲ授與セラレタル者

第十七條 明治四十年文部省令第十三號ハ之
ヲ廢止ス

附 則(明治四十三年文部省令第三十
二號)

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行
ス

本令施行前高等女學校ノ校章事務ヲ卒業シ
タル者又ハ本令施行ノ際現ニ高等女學校ノ校
章事務科ニ在學スル者ノ檢定ニ關シテハ仍從
前ノ規定ニ依ル

明治四十五年四月以前ノ各種學校卒業者ニシ
テ文部大臣ニ於テ第五條第二號及第六條第二
號ニ該當スル者ト同等ノ學力アリト認定シタ
ル者ハ明治四十八年三月マテ試験檢定ヲ受
ケルコトヲ得

附 則(大正九年文部省令第九號)

本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前舊制代數幾何ノ免許狀ヲ授與セラ
レタル者ニ對シテ數學科ノ試験檢定ハ三角法
及高等數學初步、三角法若ハ解析幾何ノ免許
狀ヲ授與セラレタル者ニ對シテ數學科ノ試験
檢定ハ高等數學初步ニ就キ本試驗ヲ行フ

前項ノ本試驗ニ合格シタル者ニ對シテハ數學
科ノ免許狀ヲ授與ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ國語、漢文ノ一ニ關シ成績
佳良ノ證明書ヲ授與セラレタル者ニ對シテハ
國語科若ハ漢文科ノ免許狀ヲ授與ス
(書式略ス)

●教員檢定ニ關スル規程第五條
第九號ノ認定ニ關スル規則

改正 大正一〇年第一五號
文部省令第二九號

明治四十一年文部省令第三十二號教員檢定ニ
關スル規程第六條第二號ニ依リ認定ニ關スル
規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 教員檢定ニ關スル規程第五條第九號
ニ依リ文部大臣ノ認定ヲ受ケムトスルコトキ
其ノ學校設立者ニ於テ左ノ事項ヲ記載シ
タル書類ヲ添ヘ申請スルヘシ但シ特別ノ規定
ニ依リ文部大臣ニ開申シ若ハ其ノ認可ヲ得
タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 名稱

二 位置

三 學期

四 學校長教員ノ姓名、出身別、分擔學科

五 生徒定員、現在生徒學年及學級別員數

六 卒業生ノ員數(畢業生)及卒業後ノ情況

七 校地、校舍ノ圖面

八 經費及維持ノ方法

九 學校財產ノ總額

十 教科書、教授用具、器械及標本目錄

第二條 認定ヲ爲スヘキ學校ハ設立後五箇年
ヲ經過シ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ
所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教
員及設備ヲ具ヘ左ノ各號ノ一ニ該當スルモ
ノニ限ル

一 高等小學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ
學力ヲ有スル者ヲ入學資格トスル學校
ニ在リテハ修業年限四箇年以上

二 高等小學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ

ニ在リテハ修業年限二箇年以上

第三條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第一條第
一號、第二號、第七號及第八號ノ事項ニ變更
アリタルトキハ文部大臣ニ開申シ第三號ノ
變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケテハシ

第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條第
一號第二號ノ要件ニ該當セサル生徒ヲ入學
セシムルコトキハ其ノ生徒ニ特別ノ名稱ヲ附
シ且其ノ學籍簿ヲ別冊トナスヘシ但シ認定
ノ效力ハ本文ノ生徒ニ及ハス

第五條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ認定ノ效
力ヲ受クル生徒ヲ卒業セシメタルトキハ直
ニ其ノ族籍氏名及生年月ヲ文部大臣ニ開申
スヘシ

第六條 認定ヲ受ケタル學校ニシテ此ノ規則
ニ違背シ又ハ其ノ成績不良ナリト認めタル
トキハ文部大臣ハ認定ヲ取消スコトアルヘ
シ

第七條 此ノ規則ニ依リ提出スヘキ書類ハ地
方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキ
ハ其ノ書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ提
出スヘシ

附 則(大正十年文部省令第十五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ認定ヲ受ケタル學校ハ其ノ
認定ヲ受ケタル時ニ過リ之ヲ本令ニ依リ認定
セラレタルモノト看做ス

●師範學校、中學校、高等女學校
教員無試驗檢定許可規程

昭和二年一月二十七日
文部省令第四號

師範學校、中學校、高等女學校教員無試驗檢定
許可規程左ノ通定ム

師範學校、中學校、高等女學校教員無試驗
檢定許可規程

第一條 教員檢定ニ關スル規程第七條第二號

●實業學校教員檢定ニ關スル規程

大正十一年一月二十日
文部省令第四號

改正 大正一二年第二八號、一二年第一
九號

實業學校教員檢定ニ關スル規程左ノ通定ム

實業學校教員檢定ニ關スル規程

第一條 實業學校教員檢定ハ受檢者ノ學力、
品行及身體ニ就キ之ヲ行フ

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目ハ實業ニ關ス
ル學科目ニ就キ之ヲ定ム文部大臣告示ス

第三條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行
ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限ハ文部大臣之ヲ告示シ
試驗施行ノ期日ハ教員檢定委員會長之ヲ公
告ス

第四條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式
ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ(試驗檢定ニ在リテ
ハ其ノ住所、地方廳ノ經由無試験檢定
ニ在リテハ其ノ住所、地方廳又ハ當該學
校ヲ經由シテ文部大臣ニ出願スヘシ)

一 第一號書式ノ願書

二 受檢資格ニ關スル學校卒業證書、教員免
許狀又ハ認可指令ノ寫

三 第五條第一號、第二號、第四號、第五號及
第九號ニ該當スル者ニ在リテハ第三號書
式ノ當該學校長證明書、同條第三號ニ該
當スル者ニ在リテハ第四號書式ノ試驗檢
定合格證明書、同條第六號ニ該當スル者
ニシテ教員免許狀授與地方廳以外ノ地方
廳ヲ經由スル場合ニ在リテハ第五號書式
ノ授與地方廳證明書

四 第六號書式ノ醫師法ニ依リ醫師ノ身體檢
査書

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ品行ニ就
キ意見ヲ具申スヘシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢
定ヲ受ケルコトヲ得

一 實業學校又ハ實業補習學校教員養成所ヲ

ニ依リ許可ヲ受ケムトスルコトキハ公立學校
ニ在リテハ管理責任者ニ於テ、私立學校ニ在リ
テハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣
ニ申請スヘシ

一 名稱

二 位置

三 學期

四 無試験檢定ノ取扱ヲ受ケムトスル學科
及教員免許狀ヲ受ケムトスル學科目
五 生徒定員及現在生徒數(學科別、學年別
及學級別)

六 當該學科ノ卒業者數(年別)及卒業後
ノ情況

七 學校長及當該學科主任教員ノ履歷書、
擔任學科目、擔任時期及專任兼任ノ區
別ヲ記シタル願書

八 校地、校舍及寄宿舎ノ圖面

九 教科書及參考書ノ目錄

十 教授用具、器械及標本ノ目錄

十一 經費及維持ノ方法

十二 學校財產ノ總額

第二條 許可ヲ受ケムトスル學校ハ其ノ管理及維
持ノ方法確實ニシテ相當ノ教員及設備ヲ具
ヘ更ニ左ノ各號ニ該當シ其ノ成績優良ナル
モノトアルヘシ

一 前條第四號ノ學科目ノ課程ハ高等師範
學校又ハ女子高等師範學校ノ當該學科
目ノ課程ト同等以上ニシテ別ニ相當補
助學科目ヲ具フルコト

二 教員養成上必要ナル施設ヲ有スルコト

三 當該學科ノ授業開始後相當ノ期間ヲ經
過シタルコト

第三條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テ卒業試驗
ヲ施行セムトスルコトキハ公立學校ニ在リテ
ハ管理責任者ニ於テ、私立學校ニ在リテハ設立
者ニ於テ試驗ノ日時及試験ノ方法ヲ具シ三
十日日前ニ文部大臣ニ開申スヘシ

第四條 文部大臣ハ教員檢定委員會又ハ其ノ他
ノ委員ヲシテ卒業試驗ニ立會ハシムルコト

第十五條 勸業 第一章 勸業 第二十八條 勸業 檢定及免許狀 資格 獎勵

アルヘシ

前項ノ委員又ハ其ノ他ノ委員ハ卒業試驗問
題及答案ヲ査閲ス但シ委員又ハ吏員ニ於テ
試驗問題、試驗ノ方法不適當ト認めムルトキ
ハ之ヲ變更シ又ハ變更セシムルコトヲ得

第五條 文部大臣ハ必要ニ應ジ教員檢定委員
又ハ其ノ他ノ吏員ヲ派遣シテ生徒ノ學力、
教授訓練ノ情況等ヲ檢閲セシムルコトアル
ヘシ

第六條 學校長ハ卒業試驗合格者ノ本籍、氏
名、生年月日、各學年各學科目ノ點數席次、
各學年ノ授業總時數、出席時數及缺席時數
ヲ具シ試驗終了後速滞ナク文部大臣ニ開申
スヘシ

第七條 卒業試驗合格者中授業總時數ノ四分
ノ一以上授業ヲ受ケタル者ハ教員檢定ニ
關スル規程第七條ノ取扱ヲ爲スノ限ニアラ
ズ

第八條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テ第一條第
一號乃至第三號、第五號中生徒定員及第八
號ノ事項ヲ變更セムトスルコトキハ文部大臣
ノ認可ヲ受ケテ第七號、第九號中教科書及第
十一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ速滞ナク
文部大臣ニ開申スヘシ但シ他ノ規定ニ依リ
文部大臣ニ開申シ若ハ其ノ認可ヲ受ケタル
事項ハ此ノ限ニアラス

第九條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テ教員檢定
ニ關スル規程第五條第一號乃至第八號ニ該
當スル者ノ入學ヲ許可シタルトキハ入學ノ
際左ノ書類ヲ提出セシムルコトヲ要ス

一 履歷書

二 戶籍抄本

三 教員檢定ニ關スル規程第五條第一號、
第二號、第四號、第五號及第八號該當者
ニ在リテハ卒業ニ關スル當該學校長ノ
證明書

四 教員檢定ニ關スル規程第五條第三號該
當者ニ在リテハ合格證明書

五 教員檢定ニ關スル規程第五條第六號該

當者ニ在リテハ免許狀授與ニ關スル當
該地方長官ノ證明書

六 教員檢定ニ關スル規程第五條第七號該
當者ニ在リテハ免許狀授與ニ關スル證
明書

師範學校卒業者ニ在リテハ前項ノ外地方長
官ノ入學承認書又ハ服務義務終了證明書ヲ
添付セシムルコトヲ要ス

第十條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テハ左ノ書
類ヲ具ヘ之ヲ保存スヘシ

一 其ノ學校ニ關係アル官廳ノ令通及往復
書類

二 學期

三 日課表、各教員擔任學科目及時間表、教
科書配當表

四 職員名簿及履歷書

五 生徒學籍簿

六 學年試驗問題、答案及成績表

七 職員出勤簿、生徒出席簿

八 資產原簿、出納簿及經費ノ豫算決算ニ
關スル帳簿

九 圖書、器具、器械、標本目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ本籍、住所、氏名、生
年月日、入學及卒業ノ年月日、入學前ノ學歷
等ヲ記載スヘシ

第十一條 許可ヲ受ケタル學校ニシテ左ノ各
號ノ一ニ該當スルコトキハ文部大臣ハ其ノ許
可ヲ取消スコトアルヘシ

一 本令ノ規定ニ違背シタルトキ

二 教授訓練不適當ナルトキ

三 管理及維持ノ方法不確實ナルトキ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年文部省令第二十五號ハ之ヲ廢止
ス

從前ノ規程ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル
學校ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做
ス

從前ノ規程ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル
學校ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做
ス

三九六

卒業シタル者
二 中學校、高等女學校、高等女學校實科又ハ
實科高等女學校卒業シタル者
三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定
ニ合格シタル者
四 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ
依リ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル
者
五 徵兵令第十三條又ハ文官任用令第六條ニ
依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル
學校ヲ卒業シタル者
六 小學校本科正教員、尋常小學校本科正教
員、小學校本科正教員又ハ小學校准教員
ノ免許狀ヲ有スル者
七 教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者
又ハ本令施行前實業學校教員資格ニ關シ
文部大臣ノ認可ヲ受ケタル者
八 外國ニ於テ實業學校、師範學校、中學校又
ハ高等女學校ニ準シテ卒業シタル者
九 文部大臣ニ於テ適當ト認定シタル學校ヲ
卒業シタル者
第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ無試験
檢定ヲ受ケルコトヲ得但シ第三號又ハ第四
號ニ該當スル者ハ實習科目ノ檢定ニ關リ之
ヲ受ケルコトヲ得
一 相當ノ學歷ヲ有シ實業學校又ハ之ト同等
以上ノ學校ニ於テ五年以上檢定ヲ受ケム
トスル科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル
者
二 實業補習學校教員養成所ヲ卒業シ三年以
上教諭ノ職ニ在リ且檢定ヲ受ケムトスル
科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者
三 實業學校ヲ卒業シ五年以上檢定ヲ受ケム
トスル科目ニ關スル實地ノ經驗ヲ有シ
技術優良ナル者
四 五年以上實地ノ經驗ヲ有シ實業學校ニ於
テ三年以上檢定ヲ受ケムトスル科目ノ

實習教授ヲ擔任シ成績優良ナル者
第五條 第一號乃至第八號ニ該當スル者ニ
シテ教員無試験檢定ニ關シ文部大臣ノ許
可ヲ受ケタル學校ヲ卒業シ成績優良ナル
者
六 實業專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ
卒業シ實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校
ニ於テ三年以上檢定ヲ受ケムトスル科目
目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者
第七條 試驗檢定ヲ分テテ豫備試驗及本試驗
トス但シ豫備試驗ハ便宜之ヲ行ハサルコト
アルヘシ
豫備試驗ヲ施行スル科目ニ在リテハ豫備
試驗ニ合格シタル者ニアラザレハ本試驗ヲ
受ケルコトヲ得ス
豫備試驗ニ合格シタル者ハ次に試驗檢定ニ
關シ一科目目ニ就キ出願スル場合ニ限り豫備
試驗ヲ免ス
第七條ノ二 豫備試驗ハ圖書經由ノ地方廳所
在地ニ於テ之ヲ行フ
前項試驗ノ施行ハ東京府ヲ除クノ外地方長
官ノ監督ス
本試驗ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長
ニ於テ之ヲ公告ス
第八條 不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケムトシ
タル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違背シタル
者ハ當該檢定ヲ受ケルコトヲ得ス
檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタル
トキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ
第九條 本令中實業學校ニハ實業補習學校ヲ
包含セズ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第一號書式(用紙美濃紙)

收入 本籍地
現住所
受檢資格
印紙
學科目
氏名
年月日生
私費實業學校教員志願ニ付前記學科目ニ就
キ(試驗、無試驗)檢定相受度書類ヲ具シ此
段相願候也
年月日
氏名
(記載注意)
一 族稱ハ華士族ニ限リ記載スヘシ
二 受檢資格ハ最主要ノ事項ノミヲ記
載スヘシ
三 出願者氏名ノ漢字ニハ假假名ヲ附
スヘシ
(注意)
一 學業ハ受檢資格ニ關係アル事項ニ
限リ記載スヘシ
二 卒業證書、教員免許狀、教員認可指
令ハ別紙ニ其ノ寫ヲ添付スヘシ
三 業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ
記載スヘシ
四 賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ
限リ記載スヘシ
五 身上ニ關スル事項ハ族稱氏名ノ變
更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ
第三號書式
證明書
本籍 氏名
年月日生
右ハ年月日本校何科何學年ニ入學シ年月
日同科ヲ卒業セシ者ナルコトヲ證明ス
年月日
何學校長 氏名
(注意)
學科ノ區別ナキ場合ニ在リテハ科名ヲ
記載スルニ及ハス
第四號書式
證明書
本籍 氏名
年月日生
右ハ年月日本校ニ於テ施行ノ專門學校入學
者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格セシ者ナ
ルコトヲ證明ス
年月日
何學校長 氏名
第五號書式
證明書
本籍 氏名
年月日生
右ハ年月日當廳ニ於テ何教員免許狀ヲ授與

九 教科書及參考書目録
一〇 教授用器具、機械及標本目録
一一 經費及維持ノ方法
一二 學校財產ノ總額
一三 許可ヲ受ケタル學校ニ於テ第一條第
一號乃至第四號、第五號中生徒定員及第八
號ノ事項ヲ變更セムトスルコトキハ文部大臣
ノ認可ヲ受ケ第七號、第九號中教科書及第
十一號ノ事項ニ關シテハ其ノ認可ヲ受ケ文部
大臣ニ開申シ若ハ其ノ認可ヲ受ケタル事項
ハ此ノ限ニ在ラス
第三條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テ卒業試驗
ヲ施行スルコトキハ其ノ設立者ニ於テ試驗ノ
期日ヲ定メ三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘ
シ
第四條 文部大臣ハ教員檢定委員又ハ其ノ他
ノ者ヲシテ卒業試驗問題及答ヲ查閱シ試
驗場ニ參列セシムルコトアルヘシ
前項ノ委員又ハ其ノ他ノ者ニ於テ試驗問題
又ハ試驗ノ方法不適當ト認ムルコトキハ之
ヲ變更シ又ハ變更セシムルコトヲ得
第五條 學校長ハ卒業試驗合格者ノ族稱、氏
名、生年月、各學科目ノ點數及各學年ニ於テ
授業ヲ受ケタル日數ヲ具シ試驗後遅滞ナク
文部大臣ニ開申スヘシ
第六條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テハ左ノ書
類ヲ具フヘシ
一 其ノ學校ニ關係アル官廳ノ令達及往復
書類
二 日課表、各教員受持學科及時間表、教科
書配當表
三 職員名簿及履歷書
四 學生名簿
五 學生試驗問題及成績表
六 學年試驗問題及成績表
七 職員出勤簿、生徒毎時出席簿
八 資產原簿、出納簿及經費ノ豫算決算ニ
關スル帳簿
九 圖書、器具、機械、標本目録
十 學生名簿、族稱、氏名、住所、生
年月、入學及卒業年月日、入學前ノ學歷等
ヲ記載スヘシ
第七條 許可ヲ受ケタル學校ニシテ左ノ各號
ノ一ニ該當スルコトキハ文部大臣ハ其ノ許可
ヲ取消スコトアルヘシ
一 此ノ規則ニ違背シタルコトキ
二 教授管理不適當ナルコトキ
三 維持方法不適當ナルコトキ
第八條 此ノ規則ニ依リ提出スヘキ書類ハ地
方長官ヲ經由スヘシ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
高等學校教員規程ノ通定
高等學校教員規程
第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ
定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ
之ヲ授與ス
第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高
等學校高等科教員養成ニ關スル規定ニ依リ
教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合
格シタル者ト看做ス文部省外國留學生規程
ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有
スル者亦同シ
第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀
ハ當該學科目ニ關シ高等學校高等科教員免
許狀タルノ效力ヲ有ス
第四條 教員檢定ハ受檢者ノ學力、性行、身體
ニ就キ之ヲ行フ
第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ
修身 國語 漢文 英語 佛語
地理 日本史及東洋史 西洋史
法則及經濟 數學 物理 化學
植物 動物 地質及礦物 圖畫
前項ノ學科目ニ就キ試驗檢定ヲ行フ場合ニ
於テ第九條第六號ノ受檢者ニ對シテハ檢定
ヲ受ケントスル學科目ニ併シ本人ノ選擇ニ
依リ英語、佛語、國語ノ中一科目ニ就キ其ノ
學力ヲ試驗スルモノトス但シ本人ハ英語、

セシ者ナルコトヲ證明ス
年月日
地方長官 氏名
第六號書式(用紙美濃紙)

一 中心視力
二 眼力
三 耳疾
四 呼吸器
五 皮膚
六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七 右柱在現在ノ疾病又ハ時形

九 教科書及參考書目録
一〇 教授用器具、機械及標本目録
一一 經費及維持ノ方法
一二 學校財產ノ總額
一三 許可ヲ受ケタル學校ニ於テ第一條第
一號乃至第四號、第五號中生徒定員及第八
號ノ事項ヲ變更セムトスルコトキハ文部大臣
ノ認可ヲ受ケ第七號、第九號中教科書及第
十一號ノ事項ニ關シテハ其ノ認可ヲ受ケ文部
大臣ニ開申シ若ハ其ノ認可ヲ受ケタル事項
ハ此ノ限ニ在ラス
第三條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テ卒業試驗
ヲ施行スルコトキハ其ノ設立者ニ於テ試驗ノ
期日ヲ定メ三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘ
シ
第四條 文部大臣ハ教員檢定委員又ハ其ノ他
ノ者ヲシテ卒業試驗問題及答ヲ查閱シ試
驗場ニ參列セシムルコトアルヘシ
前項ノ委員又ハ其ノ他ノ者ニ於テ試驗問題
又ハ試驗ノ方法不適當ト認ムルコトキハ之
ヲ變更シ又ハ變更セシムルコトヲ得
第五條 學校長ハ卒業試驗合格者ノ族稱、氏
名、生年月、各學科目ノ點數及各學年ニ於テ
授業ヲ受ケタル日數ヲ具シ試驗後遅滞ナク
文部大臣ニ開申スヘシ
第六條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テハ左ノ書
類ヲ具フヘシ
一 其ノ學校ニ關係アル官廳ノ令達及往復
書類
二 日課表、各教員受持學科及時間表、教科
書配當表
三 職員名簿及履歷書
四 學生名簿
五 學生試驗問題及成績表
六 學年試驗問題及成績表
七 職員出勤簿、生徒毎時出席簿
八 資產原簿、出納簿及經費ノ豫算決算ニ
關スル帳簿
九 圖書、器具、機械、標本目録
十 學生名簿、族稱、氏名、住所、生
年月、入學及卒業年月日、入學前ノ學歷等
ヲ記載スヘシ
第七條 許可ヲ受ケタル學校ニシテ左ノ各號
ノ一ニ該當スルコトキハ文部大臣ハ其ノ許可
ヲ取消スコトアルヘシ
一 此ノ規則ニ違背シタルコトキ
二 教授管理不適當ナルコトキ
三 維持方法不適當ナルコトキ
第八條 此ノ規則ニ依リ提出スヘキ書類ハ地
方長官ヲ經由スヘシ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
高等學校教員規程ノ通定
高等學校教員規程
第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ
定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ
之ヲ授與ス
第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高
等學校高等科教員養成ニ關スル規定ニ依リ
教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合
格シタル者ト看做ス文部省外國留學生規程
ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有
スル者亦同シ
第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀
ハ當該學科目ニ關シ高等學校高等科教員免
許狀タルノ效力ヲ有ス
第四條 教員檢定ハ受檢者ノ學力、性行、身體
ニ就キ之ヲ行フ
第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ
修身 國語 漢文 英語 佛語
地理 日本史及東洋史 西洋史
法則及經濟 數學 物理 化學
植物 動物 地質及礦物 圖畫
前項ノ學科目ニ就キ試驗檢定ヲ行フ場合ニ
於テ第九條第六號ノ受檢者ニ對シテハ檢定
ヲ受ケントスル學科目ニ併シ本人ノ選擇ニ
依リ英語、佛語、國語ノ中一科目ニ就キ其ノ
學力ヲ試驗スルモノトス但シ本人ハ英語、

高等學校教員規程
第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ
定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ
之ヲ授與ス
第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高
等學校高等科教員養成ニ關スル規定ニ依リ
教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合
格シタル者ト看做ス文部省外國留學生規程
ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有
スル者亦同シ
第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀
ハ當該學科目ニ關シ高等學校高等科教員免
許狀タルノ效力ヲ有ス
第四條 教員檢定ハ受檢者ノ學力、性行、身體
ニ就キ之ヲ行フ
第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ
修身 國語 漢文 英語 佛語
地理 日本史及東洋史 西洋史
法則及經濟 數學 物理 化學
植物 動物 地質及礦物 圖畫
前項ノ學科目ニ就キ試驗檢定ヲ行フ場合ニ
於テ第九條第六號ノ受檢者ニ對シテハ檢定
ヲ受ケントスル學科目ニ併シ本人ノ選擇ニ
依リ英語、佛語、國語ノ中一科目ニ就キ其ノ
學力ヲ試驗スルモノトス但シ本人ハ英語、

一 體格
二 身長
三 體重
四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五 右柱在現在ノ疾病又ハ時形
六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
一百 一應在現在ノ疾病又ハ時形

一 體格
二 身長
三 體重
四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五 右柱在現在ノ疾病又ハ時形
六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
一百 一應在現在ノ疾病又ハ時形

一 體格
二 身長
三 體重
四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五 右柱在現在ノ疾病又ハ時形
六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
一百 一應在現在ノ疾病又ハ時形

一 體格
二 身長
三 體重
四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五 右柱在現在ノ疾病又ハ時形
六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
二十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
三十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
四十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
五十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
六十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
七十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
八十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十一 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十二 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十三 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十四 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十五 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十六 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十七 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十八 一應在現在ノ疾病又ハ時形
九十九 一應在現在ノ疾病又ハ時形
一百 一應在現在ノ疾病又ハ時形

佛蘭又ハ調停ニ付中學校教員免許狀ヲ有スルルキハ檢定ヲ受ケントスル學科目カ英
語、算術、國語ノ中一ナルトキハ此ノ限ニ在
ラス

第六條 試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テハ受驗者
出願ノ學科目ノ試驗ニ附隨シ其ノ教授法ヲ
試驗スルモノトス

第七條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行
ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ
試驗檢定ノ出願期限及試驗ヲ行フヘキ學科
目ハ支那大臣之ヲ告示シ試驗施行ノ期日及
試驗ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長之
ヲ通告ス

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ(圖書(第一
號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試験檢定ニ在リ
テハ住居地ノ地方官ヲ經由シ無試験檢定ニ
在リテハ住居地ノ地方官若ハ當該學校ヲ經
由シ支那大臣ニ出願スヘシ)

一 履歷書(第二號書式)及學業證書若ハ
免許狀ノ寫

二 第九條第三號乃至第五號ニ該當スル
者ニ在リテハ當該學校長ノ證明書
(第三號書式)

三 醫師ノ身體檢査書(第四號書式)

四 戸籍抄本

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ行性ニ就
キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス

第九條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ試験檢
定ヲ受ケタルコトヲ得

一 大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ
試驗ニ合格シタル者又ハ大學ニ於テ
高等師範學校ヲ卒業シタル者但シ修
業年限二年ノモノヲ除ク

二 專門學校本科又ハ神官學校本科ヲ
卒業シタル者

三 高等學校、大學預科又ハ學習院高等
科及元高等學校ヲ卒業シタル者

四 當該學科目ニ關シ中學校教員免許狀
ヲ有スル者

五 外國ニ於テ高等學校ニ學スヘキ學校
ヲ卒業シタル者

八 外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學
校ニ入リ學位若ハ卒業證書ヲ有スル
者

九 五年以上大學、大學預科、高等學校、
專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教
員ヲ卒業シタル者

第十條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ支那大
臣ノ通告ト認メタル學科目ニ關シ無試験檢
定ヲ受ケタルコトヲ得

一 前條第一項第一號、第二號及第九號ニ
該當スル者

二 高等師範學校專攻科若ハ之ニ準スヘキ
學校ヲ卒業シタル者

三 元東京高等商業學校專攻科ヲ卒業シタ
ル者

四 本邦ニ於テ高等學校若ハ之ニ準スヘキ
學校ヲ卒業シタル者又ハ外國ニ於
テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入リ學
位又ハ卒業證書ヲ有スル者

第十一條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケント
スル者及試験ニ關シテ規定ニ違背シタル
者ハ試験ヲ受ケタルコトヲ得ス

第十二條 高等學校專攻科教員ニ付テハ免許
狀ヲ要セス

第十三條 高等師範學校ニ於テ專攻科教員ヲ
採用セントスルキハ擔任學科目、本人ノ
履歷書及戸籍抄本ヲ具シ支那大臣ノ認可ヲ
受クヘシ

第十四條 高等師範學校高等科ニ於テハ教員數ノ
三分ノ一以內ヲ限リ高等科教員免許狀ヲ有
セザル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第十五條 體操ニ關シテハ高等科教員免許狀
ヲ要セス

第十六條 高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任
スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高等科
教員免許狀ヲ有スル者トシテ充ツルコト
ヲ得

第十七條 公立及私立ノ高等學校ニ於テ第十
三條ノ規定ニ依リ高等科教員免許狀ヲ有セ
ザル者ヲ教員ニ採用セントスルキハ擔任
學科目、本人ノ履歷書及戸籍抄本ヲ具シ支
那大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ體操ヲ擔任スル教員ノ採用ニ

第十七條 高等學校專攻科ニ於テハ教員數ノ
三分ノ一以內ヲ限リ第三條ノ教員免許狀ヲ
有セザル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ後三年間ハ支那大臣ノ認可ヲ受ケ
テ施行スル高等科教員免許狀ヲ有
セザル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

本令施行前支那省直轄學校ノ勸任又ハ委任ノ
教員タルシ者ハ高等科教員免許狀ヲ有スル者
ト看做ス

第一號書式(用紙表裏紙)

高等師範高等科教員檢定願

本報 氏 名 年月日生

現住所 氏 名 年月日生

受驗資格 氏 名 年月日生

印紙

學科目 氏 名 年月日生

第五條第二項ノ選報外國語
私儀高等學校高等科教員志願ニ付前記學科
目ノ試驗無試験檢定相受度此段相願候也

年月日 右 氏 名印

支那大臣宛

(記載注意)

一 族稱ハ華士族ニ限リ記載スヘシ

二 受驗資格ハ最重要ノ事項ノミヲ記
載スヘシ

三 出願者氏名ノ漢字ニハ假名ヲ附
シテ示ス

第二號書式(用紙表裏紙)

履歷書

氏 名 年月日生

學業 氏 名 年月日生

何學校何科第何學年ニ入學、年
月日卒業

何教員免許狀受領
年月日

業務

一年月日 何官職拜命若ハ何業ニ從事、年
月日何事由ニ依リ選官職若ハ職
業ニ就

一年月日 何事由ニ依リ何官若ハ何業ヲ受
任シ、年
月日 何事由ニ依リ何ト改任名等
以上

一年月日 何事由ニ依リ何ト改任名等
以上

(記載注意)

一 學業ハ受驗資格ニ關係アル事項ニ
限リ記載スヘシ

二 教員免許狀ハ別紙ニ其ノ寫ヲ添付
スヘシ

三 業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ
記載スヘシ

四 賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ
限リ記載スヘシ

五 身上ニ關スル事項ハ族稱氏名等ノ
變更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ

第三號書式

證明書

本報 氏 名 年月日生

何學校、館所、長 氏 名 年月日生

身體檢査書

現住所 氏 名 年月日生

一體格

一 身長

一 體重

一 胸圍

一 中心腕力

一 色盲

一 聾

一 耳疾

一 呼吸器

一 神經系

一 皮膚

一 言語

一 既往現在ノ疾病又ハ時形
有檢査後遺相遺相之候也

年月日 檢査

現住所 醫師 氏 名印

(記載注意)

檢査ノ表記及身長體重胸圍腕力等ノ檢
査方法ハ明治三十三年支那省令第四號
學生在徒及幼兒身體檢査規程ニ準據ス
ヘシ

スル者ハ實業補習學校ノ教員タルコトヲ得

一 實業補習學校教員養成所卒業者

二 小學校本科正教員又ハ小學校專科正教
員ノ免許狀ヲ有スル者

三 支那大臣ノ指定シタル者

第二條ノ二 實業ニ關シテ特別ノ知識經驗ヲ
有スル者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ實業補習
學校ノ教員タルコトヲ得

第三條 第二條ノ二ノ認可ヲ受ケントスル者
ハ其ノ從事セントスル學科ノ種類、程度、學
科並ニ擔任ノ學科目ヲ記載シタル願書ニ履
歷書ヲ添ヘ當該官廳ニ申請スヘシ

第四條 特別ノ必要アルトキハ公立實業學校
ニ在リテハ地方長官、私立實業學校ニ在リ
テハ設立者ニ於テ第一條乃至第二條ノ二ノ
資格ヲ有セザル者ヲ教員トシテ採用スルコ
トヲ得

前項ニ依リ採用シタル教員ハ公立實業學校
ニ在リテハ教諭及助教諭ト稱スルコトヲ得
ス

第四條ノ二 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ニア
ラサレハ公立實業補習學校ノ助教諭ト稱スル
コトヲ得ス

一 一級ノ實業學校ノ教員タルコトヲ得ル
資格ヲ有スル者

二 修業年限二年ノ實業補習學校教員養成
所ヲ卒業シタル者

三 前條以外ノ實業補習學校教員養成所ヲ
卒業シタル者ニシテ三年以上助教諭ノ
職ニ在リタルモノ

四 小學校本科正教員又ハ小學校專科正教
員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ六年以上
助教諭ノ職ニ在リタルモノ

五 實業補習學校以外ノ公立學校ノ助教諭又ハ助
教諭ノ職ニ在リタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラ
ズ公立實業補習學校ノ助教諭ト稱スルコトヲ
得

第五條 職業學校及實業補習學校以外ノ實業
學校ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セザル教員ノ
數ノ三分ノ一以上ヲ超過スル場

合及職業學校ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セザ
ル教員ノ數ノ三分ノ一以上ヲ超過スル場合
ニハ公立實業學校ニ在リテハ地方長官、私
立實業學校ニ在リテハ設立者ニ於テ支那大
臣ノ認可ヲ受ケタルコトヲ要ス

前項ニ依リ認可ヲ受ケントスルキハ當該
學校現在教員ノ氏名、履歷、資格、從事ノ學
科、擔任ノ學科目及詳細ナル事由ヲ記載シ
タル書類ヲ添付スヘシ

實業補習學校ニ於テ第四條第一項ニ依リ採
用スル教員數ノ制限ニ關シテハ地方長官ノ
定ムル所ニ依ルヘシ

第六條 本令ニ依リ支那大臣ニ提出スヘキ書
類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第七條 本令ハ實業專門學校ニ關シテハ之ヲ
適用セス

附則

第八條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施
行ス

第九條 本令公布ノ際現ニ公立實業學校ノ教
諭、助教諭又ハ調停ノ職ニ在リテ第一條又
ハ第二條ノ資格ヲ有セザル者ニ對シテハ第
四條第二項ノ規定ヲ適用セス

第十條 本令公布ノ際現ニ實業學校ノ教員タル
者ハ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セザル
モノ引續キ同一學校ニ在職スル場合ニ限リ本
令施行ノ日ヨリ一箇年間第五條ノ關係ニ於
テ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有スル教員ノ
數ニ算入ス

附則(大正九年支那省令第三十四號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年支那省令第九十二號公立私立實
業學校教員令ヲ得ル者ノ指定第二條各
項ノ一ニ該當シ本令施行ノ際現ニ實業學校ノ
助教諭又ハ助教諭ノ職ニ在リタル者ハ實業學校教員
ノ資格ヲ有スルモノトス

本令施行ノ際現ニ實業補習學校ノ調停ノ職ニ
在リタル者ハ實業補習學校教員ノ資格ヲ有スルモノ
トス

ノトス

本令施行ノ際現ニ實業補習學校調停ノ職ニ在
ル者ニシテ第二條ノ資格ヲ有スルモノヲ付テ
ハ第四條ノ二ノ適用ニ關シテ助教諭ノ在職年數
ヲ相當科目タルコトヲ得

大正十一年三月三十一日マテニ設置セラレタ
ル實業補習學校教員養成所ニ準スヘキ施設ニ
シテ支那大臣ノ指定シタルモノハ本令ノ適用
ニ關シ實業補習學校教員養成所ト看做ス

附則(大正十一年支那省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ支那大臣ノ認可シタル者ノ
公立私立實業學校教員資格ニ關シテハ從前ノ
例ニ依ル

●東亞同文書院教員資格ニ關ス
ル規程

大正十一年十一月一日

東亞同文書院教員資格ニ關スル規程左ノ通相
定ム

一 學位ヲ有スル者

一 帝國大學若ハ官立大學卒業者又ハ帝國大學
若ハ官立大學ニ於テ試驗ニ合格シタル者
タルコトヲ得ル者

一 官立學校ヲ卒業シタル者タルコトヲ得ル
者

一 外務大臣ノ認可シタル者

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●日露協會學校教員資格ニ關ス
ル規程

大正十一年九月十一日

日露協會學校教員資格ニ關スル規程左ノ通相
定ム

一 日露協會學校教員資格ニ關スル規程

日露協會學校ノ教員タルコトヲ得ヘキ者左ノ
如シ

一 學位ヲ有スル者

一 帝國大學若ハ官立大學卒業者又ハ帝國大

●公立私立實業學校教員資格ニ
關スル規程

明治三十二年勅令第二十九號實業學校令第十
五條ニ基キ公立私立實業學校教員資格ニ關ス
ル規程ヲ定ムルコトヲ左ノ如シ

公立私立實業學校教員資格ニ關スル規
程

第一條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ實業學
校ノ教員タルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者

二 大學ヲ卒業シタル者、大學ニ於テ試驗
ニ合格シタル者タルコトヲ得ル者又
ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱ス
ルコトヲ得ル者

三 支那大臣ノ指定シタル者

四 教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル
者

第二條 一級ノ實業學校ノ教員タルコトヲ得
ル資格ヲ有スル者ノ外左ノ各條ノ一ニ該當
スル者ハ實業學校ノ教員タルコトヲ得

●東亞同文書院教員資格ニ關ス
ル規程

大正十一年十一月一日

東亞同文書院教員資格ニ關スル規程左ノ通相
定ム

一 學位ヲ有スル者

一 帝國大學若ハ官立大學卒業者又ハ帝國大學
若ハ官立大學ニ於テ試驗ニ合格シタル者
タルコトヲ得ル者

一 官立學校ヲ卒業シタル者タルコトヲ得ル
者

一 外務大臣ノ認可シタル者

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●日露協會學校教員資格ニ關ス
ル規程

大正十一年九月十一日

日露協會學校教員資格ニ關スル規程左ノ通相
定ム

一 日露協會學校教員資格ニ關スル規程

日露協會學校ノ教員タルコトヲ得ヘキ者左ノ
如シ

一 學位ヲ有スル者

一 帝國大學若ハ官立大學卒業者又ハ帝國大

●公立私立實業學校教員資格ニ
關スル規程

明治三十二年勅令第二十九號實業學校令第十
五條ニ基キ公立私立實業學校教員資格ニ關ス
ル規程ヲ定ムルコトヲ左ノ如シ

公立私立實業學校教員資格ニ關スル規
程

第一條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ實業學
校ノ教員タルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者

二 大學ヲ卒業シタル者、大學ニ於テ試驗
ニ合格シタル者タルコトヲ得ル者又
ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱ス
ルコトヲ得ル者

三 支那大臣ノ指定シタル者

四 教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル
者

第二條 一級ノ實業學校ノ教員タルコトヲ得
ル資格ヲ有スル者ノ外左ノ各條ノ一ニ該當
スル者ハ實業學校ノ教員タルコトヲ得

●東亞同文書院教員資格ニ關ス
ル規程

大正十一年十一月一日

東亞同文書院教員資格ニ關スル規程左ノ通相
定ム

一 學位ヲ有スル者

一 帝國大學若ハ官立大學卒業者又ハ帝國大學
若ハ官立大學ニ於テ試驗ニ合格シタル者
タルコトヲ得ル者

一 官立學校ヲ卒業シタル者タルコトヲ得ル
者

一 外務大臣ノ認可シタル者

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●日露協會學校教員資格ニ關ス
ル規程

大正十一年九月十一日

日露協會學校教員資格ニ關スル規程左ノ通相
定ム

一 日露協會學校教員資格ニ關スル規程

日露協會學校ノ教員タルコトヲ得ヘキ者左ノ
如シ

一 學位ヲ有スル者

一 帝國大學若ハ官立大學卒業者又ハ帝國大

●小學校及普通學校教員試驗規則

大正五年十月九日
教育令第八十八號
大正七年第七二號 八年第六九號
一 年第五八號 二年第六七號 一四年
第一條 小學校及普通學校教員試驗規則
第二條 試驗之施行スル各道ニ小學
第三條 試驗ハ毎年少クとも一回之ヲ行ヒ其
第四條 左ノ各道ノ一ニ該當スル者ハ試驗ヲ
受タルコトヲ得ス
一 畿内以上ノ刑ニ處セラレタル者
二 破産又ハ家産分數ノ宣告ヲ受ケ其ノ確
定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スル
ニ至ル迄ノ者
三 懲戒ニ依リ免官又ハ免職ニ處セラレ二
年ヲ經過セタル者
四 教員免許狀檢査ノ處分ヲ受ケ三年ヲ經
過セタル者
第五條 試驗ヲ受ケムトスル者ハ願書(第一
號書式)ニ左ノ事項ヲ添(受驗地ノ屬スル
道)ノ小學校及普通學校教員試驗委員長ニ送
附スル
一 履歷書(第二號書式)ニ教員免許狀又ハ
卒業證書ヲ有スル者ハ其ノ寫
二 戶籍原本又ハ民籍原本
三 前條第一號第二號ニ該當セザルコトニ
付相當官署ノ證明書
第六條 受驗出願者ハ手数料トシテ一回ヲ收
入印紙ヲ用テ願書ニ貼付シテ納付スル
既ニ納付シタル手数料ハ之ヲ還付セズ

第七條 試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ハ
受驗ヲ停止シ又ハ其ノ試驗ヲ無効トシ何期
間ヲ定メテ試驗ヲ受タルコトヲ許ササルコ
トアルヘシ
第八條 第一號試驗ノ試驗科目及其ノ程度ハ
男子ニ在リテハ師範學校ノ男生徒、女子ニ
在リテハ師範學校ノ女生徒ニ課スル學科目
及其ノ程度ニ準ズ但シ小學校教員ノ資格ヲ
得ムトスル者ニ在リテハ英語及朝鮮語普
通學校教員ノ資格ヲ得ムトスル者ニ在リテ
ハ英語ハ之ヲ缺クコトヲ得
第九條 第二號試驗ノ試驗科目及其ノ程度ハ
男子ニ在リテハ師範學校科ノ男生徒、女
子ニ在リテハ師範學校科ノ女生徒ニ課ス
ル學科目及其ノ程度ニ準ズ但シ小學校教員
ノ資格ヲ得ムトスル者ニ在リテハ朝鮮語ハ
之ヲ缺クコトヲ得
第十條 第三號試驗ノ試驗科目及其ノ程度ハ
左ノ如シ
修身 修身ノ要旨
教育學及教授法、朝鮮教育法
規ノ大意並教育實習
國語 讀方、解釋、書取、作文、會話、
習字
朝鮮語及 讀方、解釋、作文
漢文 本邦地理、外國地理
地理 本邦地理、外國地理
算術 算術、珠算
理科 植物、動物、物理及化學(礦物
ヲ含ム)、生理衛生ノ大意並實
驗
體操、教練、遊戲
音樂 自來畫
手工 歌、單音唱歌
圖畫 單音唱歌
實業 農業又ハ商業ノ初步
裁縫 普通衣類ノ裁縫
實業ハ農業及商業ノ内一科目ヲ選擇スル
コトヲ得

第十一條 第三種ノ試驗ハ國語ヲ常用セザル
者ニ限リ之ヲ受タルコトヲ得
第十二條 左ノ各道ノ一ニ該當スル者ニ付試
驗ヲ行フ場合ニ於テ第八條乃至第十條ニ規
定シタル試驗科目ニ關シ其ノ試驗ノ程度以
上ノ學力アリト認メタルトキハ其ノ試驗ヲ
省略スルコトヲ得
一 中學校ヲ卒業シタル者
二 高等女學校ヲ卒業シタル者
三 高等普通學校ヲ卒業シタル者
四 女子高等普通學校ヲ卒業シタル者
前各道ノ外ニ上ト同等以上ト認メタル學
校ヲ卒業シタル者
五 小學校本科正教員又ハ尋常小學校本科
正教員ノ免許狀ヲ有スル者
六 小學校及普通學校教員試驗委員長
七 教員免許令ニ依リ授與セラレタル教員
第一號書式(用紙美濃紙)
小學校及普通學校教員試驗願
書
收入
第一種(第二種、第三種)試驗
選擇科目(何)
候補前記願書ノ試驗相受度別紙履歷書、戶籍原本(民籍原本)等相添此段相願核也
年月日
小學校及普通學校教員試驗委員長
履歷書
學業
一年月日 何學校ニ入學何年月何日卒業(第何學年修了)(證書寫別紙ノ通)
一年月日 何免許狀ヲ受ケ(免許狀寫別紙ノ通)
一年月日 何處何業ニ就キ何學科學修
職 業
一年月日 何道(府縣)何郡何學校調査(願書寫別紙)奉願

免許狀ヲ有スル者
八 第三種ノ試驗ニ及第シタル者ニシテ第
二種ノ試驗ヲ受タル者又ハ第二種ノ試
驗ニ及第シタル者ニシテ第一種ノ試驗
ヲ受タル者
第十三條 試驗ニ及第シタル者ニハ證明書ヲ
授與ス
試驗ニ及第シタル者ノ氏名ハ朝鮮總督府官
報ニ之ヲ公告ス
第十四條 試驗ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試驗
ニ合格セザルモノ一科目又ハ數科目ニ付成績
住良ナルトキハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明
書ヲ授與スルコトアルヘシ
前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試驗
ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル
科目ノ試驗ヲ缺クコトヲ得
附則
本令ハ大正五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●私立學校教員ノ資格及員數ニ
關スル規程

大正十一年三月二十八日
教育令第八十八號
第一條 私立學校教員ノ資格及員數ニ關スル規
程ニ依リ之ヲ施行スル
第二條 小學校ノ教員ハ左ノ各道ノ一ニ該當
スル者タルコトヲ要ス
一 小學校ノ正教員ノ免許狀ヲ有スル者
二 小學校令施行規則第七條第一項第一
號乃至第五號ノ一ニ該當スル者
三 小學校及普通學校教員試驗規則ニ依リ
第一號試驗ニ合格シタル者
四 教員養成所ノ目的トシテ朝鮮ノ官公立學
校ヲ卒業シタル者(其ノ畢業證書ノ寫又ハ
京畿道及全羅道及慶尚道及忠清道及江原道
年長及普通學校教員試驗規則ニ依リ之ヲ
受タル者ヲ指ス)
五 大正十一年朝鮮總督府令第七十二號第三
條ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者又ハ
同第八條ノ規定ニ依リ指定セラレタル
者
六 朝鮮總督ノ指定シタル者
前項第二號ノ場合ニ於テ小學校令施行規則
第七條第一項第四號若ハ第五號ニ該當ス
ル者又ハ前項第五號ニ該當スル者ハ卒業若
ハ合格後二年以上小學校若ハ普通學校ノ教
育ニ從事シタル者又ハ高等女學校ヲ卒業シ
修業年限一年以上ノ補習科ニ於テ修身、教
育、國語及漢文、國算、音樂、體育、美術、
手工、理科ノ科目ヲ履修シ卒業シタル者ニ
限ル

●私立學校教員資格認定ニ關スル
規程

大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第一條 私立學校教員資格認定ニ關スル規
程ニ依リ之ヲ施行ス
第二條 認定ヲ爲スル學科目左ノ如シ
修身 教育 國語 漢文 朝鮮語 朝鮮語
英語 歷史 地理 數學 物理 化學
博物 理科 法制及習字 國算 家事
裁縫 體操 音樂 簿記 農業 商業
手工
歷史 日本史 東洋史 西洋史ノ二部ニ博物

●私立學校教員資格認定ニ關スル
規程

第三條 普通學校ノ教員ハ左ノ各道ノ一ニ該
當スル者タルコトヲ要ス
一 前條ノ規定ニ依リ小學校教員ノ資格ヲ
有スル者
二 小學校及普通學校教員試驗規則ニ依リ
第一號試驗ニ合格シタル者
三 高等普通學校又ハ女子高等普通學校ノ
師範科ヲ卒業シタル者
四 第二項各道ノ一ニ該當スル者ニシテ三
年以上普通學校又ハ小學校ノ教育ニ從
事シ道知事ニ於テ其ノ成績優良ト認メ
普通學校ノ教員タルコトヲ認シタル
者
五 朝鮮總督ノ指定シタル者
前項第四號ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ履歷
書ヲ具シ申請スルヘシ
第一項ノ資格ヲ有スル者ノ外左ノ各道ノ一
ニ該當スル者ハ第四學年以下ノ教授ヲ擔任
スル教員タルコトヲ得
一 小學校及普通學校教員試驗規則ニ依リ
第一號試驗ニ合格シタル者
二 高等普通學校ノ教員養成所卒業シタル
者
三 京城高等普通學校附設臨時教員養成所
ノ大正二年以前ノ卒業者及同第一部ノ
卒業者
四 小學校ノ准教員ノ免許狀ヲ有スル者
五 朝鮮總督ノ指定シタル者
第六條 小學校又ハ普通學校ニ於テハ一學級
毎ニ教員一人以上ヲ置クヘシ
特別ノ事情アル場合ニ於テハ道知事ノ認可
ヲ受ケ前項ノ數ヲ減スルコトヲ得
第七條 小學校又ハ普通學校ニ於テハ第二條又
ハ第三條ニ該當スル教員ヲ得ル場合ニ於テ

●私立學校教員資格認定ニ關スル
規程

女子高等普通學校又ハ實業學校ニ於テ第六
條又ハ第七條ニ該當スル教員ヲ得難キ場合
ニ於テハ之ニ該當セザル者ヲ以テ代用スル
コトヲ得
前項ノ規定ニ依リ採用スル教員ハ其ノ學校
ノ程度ニ應ズル學力ヲ有シ且國語ニ通達ス
ルコトヲ要ス但シ專ラ朝鮮語、漢文、外國語
又ハ特種ノ技術ヲ教授スル者ニ限リ國語ニ
通達セザルモノ之ヲ妨ケス
第十條 中學校、高等普通學校、高等女學校、
女子高等普通學校又ハ職業學校及實業補習
學校以外ノ實業學校ニ於テハ新ニ採用セム
トスル者ヲ加算シ前條第一項ノ規定ニ依リ
採用スル教員ノ數ハ第六條又ハ第七條ニ依
リ採用スル教員ノ數ノ二分ノ一ヲ超ムルコト
ヲ得ス
第十一條 特別ノ事情アル場合ニ於テハ一定
ノ期間ヲ限リ第五條第三項又ハ前條ノ制限
ヲ超ニテ第五條第一項又ハ第九條第一項ノ規
定ニ依リ教員ヲ採用スルコトヲ得
第十二條 職業學校又ハ實業補習學校ニ於テ
第九條第一項ノ規定ニ依リ採用スル教員數
ノ制限ニ關シテハ道知事ノ定ムル所ニ依リ
第十三條 本令ハ實業專門學校ニ關シテハ之
ヲ適用セズ
附則
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

算術 算數、分數、小數、諸等數、歩合算、比

例、求積 日本歴史ノ大要 日本地理及外國地理ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要 博物、物理、化學ノ大要 國畫 自在畫

音樂 唱歌、樂器使用法 體操、體操及遊戯 體育 體育、體操、體操及遊戯

手工 手工ノ大要 農業 農業ノ大要 商業 商業ノ大要

前項ノ科目中農業及商業ハ男子ニ限リ、藝術ハ女子ニ限ル

公學校甲種准教員受驗者中國語ヲ常用スル者ニ付テハ第一項ノ科目ノ外臺灣語ヲ加フ

公學校乙種准教員受驗者中國語ヲ常用スル者ニ付テハ第一項ノ科目ノ外臺灣語ヲ加フ

第十條 公學校專科正教員及公學校專科正教員ノ試驗科目ハ音樂、體操、裁縫、手工、農業、商業、家事、國畫、臺灣語、外國語ノ一科日又ハ數科トス

第十三條 第八條乃至第十二條ノ臺灣語ハ受驗者ノ志望ニ依リ、臺灣語ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條 國語ヲ常用スル者ニシテ第七條ノ規定ニ依リ無試驗檢定ニ合格シ公學校教員免許狀ヲ授與セラレタル者ハ臺灣語ニ關シ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ試驗檢定ヲ行フトキハ教員檢定委員會ニ於テ

第一條 公學校專科正教員及公學校專科正教員ノ檢定ノ程度ハ從前ノ規定ニ從ヒ、再檢定ノ程度ハ從前ノ規定ニ從ヒ、再檢定ノ程度ハ從前ノ規定ニ從ヒ

第二條 公學校專科正教員及公學校專科正教員ノ檢定ノ程度ハ從前ノ規定ニ從ヒ、再檢定ノ程度ハ從前ノ規定ニ從ヒ、再檢定ノ程度ハ從前ノ規定ニ從ヒ

第三條 高等女學校ニハ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セラルル者ハ臺灣語教員免許狀ニ依リ授與セラレタル者ニ限リ、第一學年ノ教授ヲ擔任セラルル者ハ臺灣語教員免許狀ニ依リ授與セラレタル者ニ限リ

第四條 中學校又ハ高等女學校ニ於テ相當ノ教員免許狀ヲ有スル者又ハ前二條ニ該當スル者ヲ得テキルハ其ノ他ノ者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

第五條 中學校又ハ高等女學校ニ於テ前二條ニ依リ採用シタル者ハ其ノ他ノ者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

第六條 中學校又ハ高等女學校ニ於テ前二條ニ依リ採用シタル者ハ其ノ他ノ者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

第七條 特別ノ事情ニ因リ前項ノ規定ニ依リ難キトキハ州知事又ハ廳長ニ於テ新ニ採用セムトスル者及現在在職ノ官職氏名、學科、科目、擔任時數、學歷及免許資格表ヲ添附シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケル

第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

檢定ヲ出願シタルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ行ハス

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則第十四條ニ依リ證明書ヲ受ケタル者ニシテ本令ニ依リ同種ノ試驗檢定ヲ出願シタルトキ亦前項ノ同シ

第十七條 試驗檢定ハ毎年一回以上之ヲ行ヒ無試驗檢定ノ場合ハ隨時之ヲ行フ

第十八條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ檢定手数料金三圓ヲ收入印紙ヲ用キ願書ニ貼附シテ納付スル

第十九條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書類ヲ具備スル

一 檢定願書(別記第一號書式) 二 履歷書(別記第二號書式)及受驗資格ニ關スル教員免許狀、卒業證書、修了證書等ノ寫

三 身分ニ關スル證明書(第三號書式) 四 内地人ニ在リテハ戸籍抄本、本島人ニ在リテハ口調査簿抄本

五 身體檢査書(第四號書式) 六 檢定官特選以上ノ官職ニ在ル者及第七條第一項第七號ニ該當スル者ノ出願ニハ前項第三號及第四號ノ書類ヲ關コトヲ得

第二十條 左ニ掲ケタル者ニ付テハ當該學校長ニ於テ教員免許狀ノ授與ヲ臺灣總督ニ申請スル

一 臺灣總督府師範學校卒業シタル者 二 臺灣公立高等女學校ニ附置シタル師範學校ノ演習科卒業シタル者

第二十一條 教員免許狀ヲ授與シタル者ノ種別、授與年月日及氏名ハ府報ニ之ヲ公示ス

第二十二條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ本籍地若ハ本居地、氏名、族稱ヲ變更シ又ハ其ノ免許狀ヲ毀損、失シタルトキ又ハ其ノ事由ヲ具シ書換ハ再渡リ臺灣總督ニ出願スル

第二十三條 臺灣總督府認可シタル者 第三條 第一條第五號又ハ第二條第四號ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ從事セムトスル學科ノ種類、程度、學科及擔任ノ科目ヲ記載シタル履歷書ニ屬屬書ヲ添(臺灣總督ニ申請スル)

第四條 特別ノ必要アルトキハ知事ニ於テ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セタル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

第五條 依リ採用シタル教員ハ助教職ニ任ズルコトヲ得

第六條 實業補習學校以外ノ實業學校ニ於テ新ニ採用セムトスル者ハ加算第一條ノ資格ヲ有セタル者ノ數ハ之ヲ有スル者ノ二分一ヲ超過スルコトヲ得

第七條 特別ノ事情ニ因リ前項ノ規定ニ依リ難キトキハ知事又ハ廳長ニ於テ新ニ採用セムトスル者及現在在職ノ官職氏名、學科、科目、擔任時數、學歷及資格表ヲ添附シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケル

第八條 本令ハ實業專門學校ニハ之ヲ適用セ

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

有セザル者ハ其ノ學校在職中ニ限リ第一條
第五號又ハ第二條第四號ノ認可ヲ受ケタルモ
ノト看做ス
臺灣公立簡易實業學校教諭又ハ明治四十年文
部省令第二十八號公立私立實業補習學校教員
資格ニ關スル規程ノ公立實業補習學校ノ助教
諭若ハ調導ノ職ニ在リタル者ニ付テハ第五條
ノ適用ニ關シ助教諭ノ在職年數ヲ相當額ニ
ルコトヲ得

●小學校教員檢定細則

本令施行ノ際現ニ第六條ニ載ルル實業學校
ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ知事ニ
於テ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ當分ノ内其ノ制限
ニ依ラサルコトヲ得

第一條 小學校教員檢定細則
試驗檢定ハ毎年八月之ヲ行ヒ出願ノ期限試
驗ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ
臨時ニ之ヲ行フコトアルヘシ
棒太廳中學校附設小學校教員講習所卒業
シタル者又ハ棒太廳高等女學校補習科兩
部ヲ修業シタル者ニシテ卒業後又ハ修業後
直ニ無試驗檢定ヲ出願スル場合ニ限リ前項
ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第四條 小學校專科正教員ノ試驗ハ尋常小學
校准教員ノ試驗程度ニ依リ修身、國語、算術
ノ學力ヲ試驗シタル上之ヲ行フ但シ小學校
教員檢定委員會ニ於テ履歷ニ依リ本文ノ學
科ニ就キ普通ノ學力ヲ有スト認定シタル者
ニ對シテハ其ノ試驗ヲ行ハス
專科正教員學科目申商業ハ商業ト英語トニ
分テ之ヲ行フ
第五條 試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試
驗ニ合格セザルモ某科目ニ關シ成績優良ナ
ルトキハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授
與ス
第五條ノ二 檢定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ手
續料ヲ納付スヘシ
小學校專科正教員 三三
尋常小學校專科正教員 三三
小學校專科正教員 三三
尋常小學校專科正教員 三三
尋常小學校專科正教員 三三
尋常小學校專科正教員 三三
第六條 免許狀ノ書換又ハ再渡ヲ出願スル者
ハ手續料一圓ヲ納ムヘシ
第七條 前二條ノ手續料ハ收入印紙ヲ用キ之
ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ
何等ノ事由アルモ之ヲ還付セズ
附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(第一號書式)
小學校教員試驗(無試驗)檢定願
本籍地
住 所
名(現ニ小學校教員ノ職ニ在
ル者ニ限リ) 氏 名
生年月日
檢定ノ種類
筆記試驗受檢者現職
私職小學校教員志望ニ候間前記ノ資格ニ就
キ何科(專科)ニ試驗(無試驗)檢定相受ケ度
別紙履歷書、身檢検査書、戶籍抄本及身元證
明書相添ヘ此段相願候也
年 月 日

(第二號書式)
棒太廳長官氏名
履歷書
住 所
氏 名
生年月日
一 免許狀及卒業證書(寫ヲ添附スヘシ)
一 業務
一 賞罰(賞罰ノ事由種類ヲ記載スヘシ)
右之通候也
年 月 日
(第三號書式)
身檢検査書
住 所
何 氏 名
生年月日
一 體格
一 身長
一 體重
一 胸圍
一 視力
一 色盲
一 聽力
一 呼吸器
一 神經系
一 皮膚
一 言語
一 既往現在ノ疾病又ハ畸形
一 右検査處相違無之候也
年 月 日
身檢検査書記載方心得
檢査ノ表記及身長、體重、胸圍、聽力等
ノ檢査方法ハ明治三十三年文部省令第
四號學生身檢検査規程ニ準スヘシ
但シ検査器械ハメートル式ニ從ヒ衡ハ
キログラム度ハセンチメートルヲ以テ

單位トシ以下四捨五入法ヲ用キ小數一
位ヲ作ルヘシ
體格ノ強健ト稱スルモノハ發育營養共
ニ佳良ニシテ其ノ身長センチメートル
ヲ以テ體重キログラムヲ除シタル商
〇.三以上且無病健全ノ者ヲ指ス
中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシ
テ其ノ身長センチメートルヲ以テ體重
キログラムヲ除シタル商〇.二六以上
且無病ノ者ヲ指ス
薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不充分ナ
ルカ或ハ身長センチメートルヲ以テ體
重キログラムヲ除シタル商〇.二六未
滿ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲、扁平胸、
狭小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係ア
ル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス
一 視力ハスネルン氏ノ試驗力表ニ依リ
テ兩眼ニ就キ中心視力ヲ検査シシテ
記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニ在リテハ
二十尺ノ距離ニ於テ二十號ノ明視シ得
ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ
一 色盲ト稱スル者ハ其ノ患アル者ハ何
色盲ト記載スヘシ
一 呼吸器ハ理學ノ診斷ノ成績ヲ記載スヘ
シ
一 神經系ハ中腦若ハ末梢神經ニ障害ノ有
無ヲ記載スヘシ
一 皮膚ハ主トシテ傳染性皮膚病ノ有無ヲ
記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮
膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ
一 言語ハ明瞭、吃、啞聲等ヲ記載スヘシ
一 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、
肋膜炎、關節炎、會患、肺病、心臟病、
腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載ス
ヘシ特ニ肺結核ノ有無ハ必之ヲ記載ス
必要ノ場合ニハ略檢査及ビルケル氏
皮膚反應試驗ヲ用キテ參考ニ資スルヲ
要ス
●棒太廳中學校附設小學校教員
講習所規則
棒太廳令第二十二號
大正十一年四月棒太廳令第二十七號棒太廳中學

校附設小學校教員講習所規則左ノ通改正ス
棒太廳中學校附設小學校教員講習所規則
第一章 目的及生徒數變更ノ要旨
第一條 本所ハ男子ニシテ小學校教員タルヘ
キ者ヲ養成スル所トス
第二條 本所ニ於テハ師範學校規程第一條ニ
準シテ生徒ヲ數變スヘシ
第二章 修業年限
第三條 本所ノ修業年限ハ之ヲ一年トシ本科
及研究科ノ二科ニ分ツ
第三章 學科及其ノ程度

第四條 本科ノ學科目ハ修身、教育、國語及漢
文、歴史、地理、數學、博物、物理及化學、法制
及經濟、圖畫、手工、音樂、體操、農業又ハ商
業トス
第五條 本科ノ學科目ノ程度ハ師範學校規程
第三十條乃至第三十六條、第三十八條及第
三十九條ノ規定ニ依ル
第六條 本科ノ學科課程及毎週教授時數ハ左
表ニ依ル但シ必要アルトキハ學校長ハ毎週
教授時數ノ總計ヲ增減セサル範圍内ニ於テ
之ヲ變更スルコトヲ得

體操及技能ノ實習ハ前表教授時數外ニ於テ
之ヲ課スルコトヲ得
教育實習ハ卒業ニ近キ時期ニ於テ約八週專
ラ課スヘシ
第七條 研究科ハ本科ノ學科目又ハ之ニ關聯
スル科目ニ付精深ナル程度ニ於テ學修ヲナ
サシムルヲ以テ目的トス

第八條 研究科ノ學科目ハ修身、哲學、教育、
國語及漢文、農業又ハ商業、體操トス
前項學科目ノ外英語、歴史及地理、數學、博
物、物理及化學、圖畫及手工、音樂ノ中ヨリ
其ノ數科目ヲ選修セシム
第九條 研究科ノ學科課程及毎週教授時數ハ
左表ニ依ル

學科	時間	教授
修身	二	道徳ノ原理、社會生活ノ原理、教師ノ心得、教授法
國語及漢文	三	國語ノ原理、現代思想ノ批判、教育學、教授法及保育法、近世教育史、教育制
歴史	二	本邦現代史、教授法
地理	二	日本國勢地理、教授法
數學	二	算術、教授法
博物	二	植物、動物、地質、教授法
物理及化學	二	補習、實驗、教授法
法制及經濟	二	法制及經濟
農業	三	耕種、養蠶、畜産、土壤及肥料、林業、農業經濟
商業	三	實習及實驗、教授法
圖畫	三	寫生畫、考案畫、黑板練習、教授法
手工	三	木工、小學校ニ於ケル各種ノ細工、教授法
音樂	三	基本練習、歌曲、樂典大要、樂器使用法、教授法
體操	三	體操、遊戯及競技、教授法、樂器及柔術
計	三	

學科	時間	教授
英語	二	讀方及譯解
歴史及地理	二	國史、日本ヲ中心トシタル經濟地理、歴史及地理教授ノ研究
數學	二	代數及幾何三角、解析幾何大意、微積分大意、數學教授ノ研究
博物	二	植物、動物生物通論、礦物及地質實驗、理科教授ノ研究
物理及化學	二	物理實驗、化學實驗、理科教授ニ必要ナル物理及化學教授ノ研究
圖畫及手工	二	寫生畫、考案畫、美術史ノ大要、鑑賞及研究、圖畫教授ノ研究
音樂	二	木工、金工、樂圖及設計、工業大意、手工教授ノ研究
體操	二	基本練習、歌曲、理論樂器、唱歌教授ノ研究
計	二	

第七條 刑除 本部ニ入學シ得ル者ハ左ノ各款ノ一ニ該當シ最終出身學校長ノ薦舉ヲ得タル者トス

第八條 入學ヲ許可セラレタル者ハ本人ノ身上ニ關シ一切ノ事件ヲ引受クルニ足ルヘキ保證人ヲ定メ入學ノ際誓約書(第一號書式)ヲ提出スヘシ

第九條 保證人死去シタルトキハ本人ハ遺言ヲ新ニ保證人ヲ定メ連署ノ上同書ヲ提出スヘシ

第十條 生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ退學スルコトヲ得ス

第十一條 生徒ニシテ退學ヲ命セラレタル者ニハ在學中給與シタル學費及授業費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

第十二條 學堂長ハ全學科ヲ修了シタル者ニ卒業證書(第二號書式)ヲ授與ス

第十三條 卒業シタル者ハ卒業後二年間關東長官ノ指定スル職務ニ従事スルノ義務ヲ有ス

第十四條 卒業後左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ在學中給與シタル學費及授業費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシム

第十五條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙美濃紙)

今假令附屬小學校教員養成部ニ入學ヲ許シ得ルニ就テハ在學中御規則等遵守可致ハ勿論成業ノ上ハ御指定ノ義務ニ違背スルカ如キコト有之間數萬一不都合ノ行爲有之候節ハ本人又ハ保證人ニ於テ何時タリトモ御指定通給費及授業費償還可致此段誓約候也

年月日 本籍 現住所 本人 本籍 現住所 保證人 旅順師範學堂長 殿

旅順師範學堂附屬小學校教員養成部生徒學費支給規則

旅順師範學堂附屬小學校教員養成部生徒學費支給規則

生徒ニハ本規則ニ依リ學費、旅費其ノ他ノ費用ヲ支給ス

第二條 學費ハ入學ノ日ヨリ成業ノ日迄月額二十五圓ヲ支給ス但シ在學日數十五日ニ滿タサル月ニ在リテハ半額トス

第三條 學費ハ毎月十日迄ニ之ヲ支給ス但シ必要ト認ムルトキハ三箇月分以内ニ於テ前渡ヲ爲スコトアルヘシ

第四條 生徒入學ノトキハ支度料金七十圓ヲ支給ス

第五條 生徒入學、修學其ノ他特ニ命シタル用務ノ爲旅行スルトキハ旅費ヲ支給ス

第六條 生徒在學中疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ治療ヲ要スルトキハ學堂長ノ證明ニ依リ必要ナル治療費ヲ支給ス

第七條 生徒死亡シタルトキハ遺族又ハ孤獨ヲ行フ者ニ葬儀料金五十圓ヲ支給ス

第八條 關東州公學堂職員ニシテ許可ヲ受ケ本部ニ入學シタル者ニハ本令ヲ適用セス但シ第二條ノ學費ノ一部ヲ支給スルコトアルヘシ

第九條 關東州普通學堂及關東州公學堂教員檢定規則ニ依リ之ヲ施行ス

第十條 關東州普通學堂及關東州公學堂教員檢定規則ニ依リ之ヲ施行ス

第十一條 關東州普通學堂及關東州公學堂教員檢定規則ニ依リ之ヲ施行ス

第十二條 關東州普通學堂及關東州公學堂教員檢定規則ニ依リ之ヲ施行ス

第十三條 關東州普通學堂及關東州公學堂教員檢定規則ニ依リ之ヲ施行ス

第十四條 關東州普通學堂及關東州公學堂教員檢定規則ニ依リ之ヲ施行ス

第十五條 關東州普通學堂及關東州公學堂教員檢定規則ニ依リ之ヲ施行ス

第十六條 關東州普通學堂及關東州公學堂教員檢定規則ニ依リ之ヲ施行ス

第十七條 關東州普通學堂及關東州公學堂教員檢定規則ニ依リ之ヲ施行ス

第十八條 關東州普通學堂及關東州公學堂教員檢定規則ニ依リ之ヲ施行ス

前項第一號ニ該當スル者ニ對シ第二種ノ檢定ヲ行フ場合ハ特ニ教育學、教授法及教育實習ニ就キ行フ試驗ニ合格シタル者ニ限ル

第七條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ第四種ノ無試驗檢定ヲ受ケタルコトヲ得

一 修業年限五年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ト認ムヘキ實業學校ヲ卒業シタル者

二 修業年限三年ノ實業學校ヲ卒業シタル者ニシテ五年以上檢定ヲ受ケタル者

三 其ノ他關東長官ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

前項第一號ニ依リ檢定科目ハ當該學校ニ於テ專攻シタル實業科目ニシテ且當該科目ノ教授法及教育實習ニ就キ行フ試驗ニ合格シタル者ニ限ル

第八條 旅順師範學堂ヲ卒業シタル者ニハ無試驗檢定ニ依リ第二種教員ノ資格ヲ授與ス

第九條 第一種試驗檢定ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

修身 道德ノ要旨 教育學ノ理論及教授法、教育法規、學校管理法、教育實習

第二號書式

旅順師範學堂附屬小學校教員養成部生徒學費支給規則

旅順師範學堂附屬小學校教員養成部生徒學費支給規則

旅順師範學堂附屬小學校教員養成部生徒學費支給規則

旅順師範學堂附屬小學校教員養成部生徒學費支給規則

旅順師範學堂附屬小學校教員養成部生徒學費支給規則

旅順師範學堂附屬小學校教員養成部生徒學費支給規則

旅順師範學堂附屬小學校教員養成部生徒學費支給規則

旅順師範學堂附屬小學校教員養成部生徒學費支給規則

第三種試驗檢定ノ試驗科目及其ノ程度

修身 道德ノ要旨 教育學及教授法、學校管理法、教育實習

支那文 讀方、解釋、作文、文法、大要

日本語 讀方、解釋、作文、文法、大要

算術 算術(珠算ヲ含ム)、代數、幾何

地理及歴史 支那地理及歴史、日本地理及歴史、世界地理及歴史、地理學通論、大要

博物 生理及衛生、動物、植物、礦物、博物通論、大要

物理及化學 物理、化學及其ノ實驗

習字 習字、行書、草書

第四種試驗檢定ノ試驗科目及其ノ程度

算術 算術(珠算ヲ含ム)、代數、幾何

地理及歴史 支那地理及歴史、日本地理及歴史、世界地理及歴史、地理學通論、大要

博物 生理及衛生、動物、植物、礦物、博物通論、大要

物理及化學 物理、化學及其ノ實驗

習字 習字、行書、草書

商業 商業要項、商業簿記、商業實習

手 工 諸種ノ細工

音樂 音樂、樂器使用法、樂典、初歩

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ三年以内ニ更ニ試験ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試験ハ之ヲ開クコトヲ得

第十九條 第二條ノ規定ヲ施行スル爲左ノ委員ヲ置キ關東長官之ヲ命ス
常任檢定委員
臨時檢定委員
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(第一號書式)(用紙美濃紙)
教員檢定願

収入
本籍 氏名 年月日生
現住所 氏名 年月日生

選科科目何キ
何キ科ヲ開ク
私學普通學堂(第一種受檢者ハ公學堂ヲ加フ)教員志願ニ付願書ノ通無試験(試験檢定相受度別紙書類相添ヘ此段相願候也
年月日 右氏 名
關東長官宛
(第二號書式)(用紙美濃紙)
願書
本籍 氏名 年月日生
現住所 氏名 年月日生

學業
年月日 何學堂ニ入學年月日何科卒業(修了又ハ修學年修了)其ノ寫別紙ノ通
年月日 何種教員檢定合格證書ヲ受ケ其ノ寫別紙ノ通
年月日 何處何某ニ就キ何學科ヲ學習シ

第四條 各刊別發行者ノ毎年發行スヘキ圖書ノ種類及冊數ハ文部大臣之ヲ指定ス但シ指定以前ニ於テ製造ニ着手セントスルトキハ其ノ種類及冊數ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケルヘシ
刊別發行者前項ノ指定ヲ受ケタルトキハ共同販賣所ト協議ノ上更ニ之ヲ各冊ニ分配シタル圖書ヲ製シ文部省ニ提出スヘシ
第五條 刊別發行者ニ於テ毎年發行スヘキ圖書ノ冊數ヲ變更セントスルトキハ事情ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケルヘシ
第六條 製版、印刷、製本ニ關スル總テノ工場及事務所所在地ハ東京、大阪ニ限ル工場及事務所ノ設置又ハ變更ハ選擇ナク文部省ニ届出ツヘシ
第七條 刊別發行者ハ其ノ製造シタル圖書ノ全部ヲ共同販賣所ニ賣渡スヘシ
前項ノ賣渡ニ關スル契約ハ文部大臣ノ承認ヲ受ケルヘシ
第八條 共同販賣所ハ道府縣内ニ少クとも一箇ノ共同販賣支所又ハ特約販賣所ヲ設ケ其ノ下ニ若干ノ取次販賣所ヲ置キ各其ノ供給區域ヲ劃定シ圖書供給ノ普及ヲ圖ルヘシ
前項ノ供給區域及販賣ニ關スル契約ハ文部大臣ノ承認ヲ受ケルヘシ
第九條 共同販賣所ハ圖書ヲ檢査シ此ノ規程第十條乃至第十六條ニ違背セリト認ムルモノハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス
第十條 圖書ハ用紙白色ニシテ墨キ光澤ナク其ノ質強固ニシテ糊糊ナラス印刷鮮明ニシテ製本堅牢ナルコトヲ要ス
第十一條 圖書ノ定價及用紙ノ標準ハ別ニ之ヲ告示ス
第十二條 刊別發行者ハ各圖書ノ見本三冊ヲ

文部省ニ提出シ檢査ヲ受ケルヘシ
圖書ハ前項ノ檢査ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス
第十三條 圖書ノ文字ノ大小、圖畫、卷數、枚數、頁數、行數及每行ノ字數其ノ他圖書ノ種類ニ依リ特ニ定ムル事項ハ文部省ノ見本ト同一ナルコトヲ要ス
第十四條 文部省ニ於テ圖書ノ見本ニ修正ヲ加ヘタルトキハ特ニ定ムル期限後ハ從前ノ見本ニ依リテ刊別發行者ニ圖書ヲ販賣スルコトヲ得ス
修正圖書ハ第十二條ノ規定ニ準ジ檢査ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス
第十五條 圖書ノ用紙、印刷及製本ハ第十二條第一項ノ檢査ヲ經タル見本ト同一ナルコトヲ要ス
第十六條 圖書ニハ各冊尾ニ第十二條第一項ノ檢査年月日及定價ヲ記載スヘシ
第十七條 刊別發行者ハ刊別發行許可手数料トシテ發行圖書一冊毎ニ金四厘ヲ納付スヘシ
第十八條 圖書ハ定價ヲ超エテ販賣スルコトヲ得ス
第十九條 刊別發行者ハ文部大臣ヨリ發行冊數ノ指定若ハ承認ヲ受ケタルトキハ速ニ圖書製造ノ功程ニ關スル檢査計畫書ヲ提出スヘシ
前項ノ檢査計畫書ヲ不適當ナリト認ムルトキハ文部大臣ハ之ヲ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第一條 文部省ニ於テ著作權ヲ有スル左記小學校教科用圖書ハ此ノ規程ニ依リ其ノ刊別發行ヲ日本書籍株式會社、東京書籍株式會社、大阪書籍株式會社ニ其ノ販賣ヲ株式會社ニ委託シ共同販賣所ニ許可ス
一 修身
二 國語
三 歴史
四 地理
五 算術
六 圖畫
七 理科
八 家事
各會社ニ刊別發行ヲ許可スル圖書ノ割合ハ各種各書ニ就キ日本書籍株式會社、東京書籍株式會社ハ各十分ノ四、大阪書籍株式會社ハ十分ノ二トス
文部大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ前項ノ割合ヲ臨時變更スルコトアルヘシ
臨時ノ必要ニ依リ刊別發行者ニ於テ第二項ノ割合ヲ變更セントスルトキハ事情ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケルヘシ
第二條 刊別發行許可ノ期間ハ大正十四年度所用分ヨリ以後六箇年トス但シ刊別發行者ニ於テ此ノ規程ニ違背シタルトキ若ハ其ノ信用缺乏シ又ハ其ノ業務株主ノ行動等ニシテ不都合アル場合ハ期限内ト雖モ許可ヲ取消スルコトアルヘシ
刊別發行者ハ許可滿期ノ場合ニ於テ繼續許可ヲ出願スルコトヲ得
第三條 前條第一項但書ノ規定ハ共同販賣所ニ之ヲ準用ス
第三條ノ二 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可以外ノ業務ヲ行フコトヲ得ス但シ特ニ文部大臣ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニテ

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

第二十九號 教科用圖書
第二十九條 教科用圖書刊別發行ニ關スル規程ヲ定ムルコトヲ命ス

(乙) 檢定進項

Table with columns: 圖書名稱, 卷冊數, 著譯者, 住所氏名, 發行所, 住所氏名, 修正發行年月日, 目的トスル學校種類, 右ハ年月日附檢定願出候處年月日ノ御指示ニ基キ今般修正發行致候間尙御檢定相成度...

(丙) 檢定書式

Table with columns: 圖書名稱, 卷冊數, 著譯者及發行所住所氏名, 修正發行年月日, 目的トスル學校種類, 修正事項, 右ハ年月日檢定願出候處修正發行致候間尙御檢定相成度該圖書... 都及手数料金、... 相添ハ此段相願候也

教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ 文法上許容スヘキ事項

- 一 「居リ」根ム「死」ヲ四段活用ノ動詞トシテ用ルモ妨ナシ
二 「シタ」シキ活用ノ終止言ヲ「アシ」ニイマシシキ下用ルモ習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
三 過去ノ動詞「キ」ノ連體言「シ」ヲ終止言ニ用ルモ妨ナシ
四 「コトナリ」(異)「コトナレリ」「コトナリテ」「コトナリタリ」ト用ルモ妨ナシ

- 五 「ハ、セ、ス」トイフベキ場合ニ「セ」ヲ略スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
六 「ハ、セ、ル」トイフベキ場合ニ「ハ、セ」ト用ルモ習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
七 「得シム」トイフベキ場合ニ「得セシム」ト用ルモ妨ナシ
八 佐行四段活用ノ動詞ヲ助動詞「シヨシカ」ニ連ネテ「暮シシ時」過シシカバ「ナド

- 九 唯一通ノ通告ヲ爲セシ止マレリ 攻撃開始ヨリ陷落マデ僅ニ五箇月ヲ費セテ之を「ハ」ハ動詞、助動詞ノ連體言ヲ受ケテ名詞ニ連續スルモ妨ナシ
十 花ヲ見ルノ記 學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ市町村會ノ議決ニ依ルノ限リニアラズ展ノて之を「ヤ」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ
十一 父ニ似タルヤ母ニ似タルヤ 如何ニ批評セラルトモ 強ヒテ之ヲ連奉セシムルトモ
十二 之を「ハ」ハ動詞、使役ノ助動詞、及、受身ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
十三 出づルト見エテ 嗚呼セラル、ト思ヒテ 終日業務ヲ取扱ハケルトイフ 高貴其德ヲ稱ハケルトイフ
十四 語句ヲ列舉スル場合ニ用ルベキニ「ハ」ハ動詞、生ゼザルトキニ限リ最終ノ語句ノ下ニ之ヲ省クモ妨ナシ
十五 宗教ト道德ノ關係 京都ト神戸ト長崎ト行ク 最終「ト」ヲ省クハ誤解ヲ生ズベキ例 史記ト漢書ト列傳ト讀ムベシ

- 十六 「トイフ」トイフ語ノ代リニ「ナル」ヲ用ルモ習慣アル場合ハ之ニ從フモ妨ナシ
十七 如何ニ批評セラルトモ 強ヒテ之ヲ連奉セシムルトモ
十八 如何ニ批評セラルトモ 強ヒテ之ヲ連奉セシムルトモ
十九 如何ニ批評セラルトモ 強ヒテ之ヲ連奉セシムルトモ
二十 如何ニ批評セラルトモ 強ヒテ之ヲ連奉セシムルトモ

實業補習學校教科用圖書採用檢定方

一 實業補習學校ニ於テ教科用圖書ヲ用フル場合ニハ普通教科目ニ係ルモノハ小學校用又ハ特ニ實業補習學校用トシテ文部大臣ノ檢定ヲ受ケタルモノトシテ其ノ實業教科目ニ係ルモノハ檢定ヲ受ケタルモノトシテ...

二 前項ニ實業補習學校用トシテ檢定ヲ受ケタル圖書ニ關シテハ明治二十年文部省令第二號教科用圖書檢定期間ヲ適用ス
三 實業補習學校ノ教科用圖書ハ府縣ニ於ケル審査規定ヲ要セズ
四 小學校教科用圖書發行所採定圖書供給ヲ怠リ又ハ之ヲ拒否シタルトキ處分方

五 「ハ、セ、ス」トイフベキ場合ニ「セ」ヲ略スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
六 「ハ、セ、ル」トイフベキ場合ニ「ハ、セ」ト用ルモ習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
七 「得シム」トイフベキ場合ニ「得セシム」ト用ルモ妨ナシ
八 佐行四段活用ノ動詞ヲ助動詞「シヨシカ」ニ連ネテ「暮シシ時」過シシカバ「ナド

九 唯一通ノ通告ヲ爲セシ止マレリ 攻撃開始ヨリ陷落マデ僅ニ五箇月ヲ費セテ之を「ハ」ハ動詞、助動詞ノ連體言ヲ受ケテ名詞ニ連續スルモ妨ナシ
十 花ヲ見ルノ記 學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ市町村會ノ議決ニ依ルノ限リニアラズ展ノて之を「ヤ」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ
十一 父ニ似タルヤ母ニ似タルヤ 如何ニ批評セラルトモ 強ヒテ之ヲ連奉セシムルトモ
十二 之を「ハ」ハ動詞、使役ノ助動詞、及、受身ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
十三 出づルト見エテ 嗚呼セラル、ト思ヒテ 終日業務ヲ取扱ハケルトイフ 高貴其德ヲ稱ハケルトイフ
十四 語句ヲ列舉スル場合ニ用ルベキニ「ハ」ハ動詞、生ゼザルトキニ限リ最終ノ語句ノ下ニ之ヲ省クモ妨ナシ
十五 宗教ト道德ノ關係 京都ト神戸ト長崎ト行ク 最終「ト」ヲ省クハ誤解ヲ生ズベキ例 史記ト漢書ト列傳ト讀ムベシ

一 實業補習學校ニ於テ教科用圖書ヲ用フル場合ニハ普通教科目ニ係ルモノハ小學校用又ハ特ニ實業補習學校用トシテ文部大臣ノ檢定ヲ受ケタルモノトシテ其ノ實業教科目ニ係ルモノハ檢定ヲ受ケタルモノトシテ...

二 前項ニ實業補習學校用トシテ檢定ヲ受ケタル圖書ニ關シテハ明治二十年文部省令第二號教科用圖書檢定期間ヲ適用ス
三 實業補習學校ノ教科用圖書ハ府縣ニ於ケル審査規定ヲ要セズ
四 小學校教科用圖書發行所採定圖書供給ヲ怠リ又ハ之ヲ拒否シタルトキ處分方

五 「ハ、セ、ス」トイフベキ場合ニ「セ」ヲ略スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
六 「ハ、セ、ル」トイフベキ場合ニ「ハ、セ」ト用ルモ習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
七 「得シム」トイフベキ場合ニ「得セシム」ト用ルモ妨ナシ
八 佐行四段活用ノ動詞ヲ助動詞「シヨシカ」ニ連ネテ「暮シシ時」過シシカバ「ナド

九 唯一通ノ通告ヲ爲セシ止マレリ 攻撃開始ヨリ陷落マデ僅ニ五箇月ヲ費セテ之を「ハ」ハ動詞、助動詞ノ連體言ヲ受ケテ名詞ニ連續スルモ妨ナシ
十 花ヲ見ルノ記 學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ市町村會ノ議決ニ依ルノ限リニアラズ展ノて之を「ヤ」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ
十一 父ニ似タルヤ母ニ似タルヤ 如何ニ批評セラルトモ 強ヒテ之ヲ連奉セシムルトモ
十二 之を「ハ」ハ動詞、使役ノ助動詞、及、受身ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
十三 出づルト見エテ 嗚呼セラル、ト思ヒテ 終日業務ヲ取扱ハケルトイフ 高貴其德ヲ稱ハケルトイフ
十四 語句ヲ列舉スル場合ニ用ルベキニ「ハ」ハ動詞、生ゼザルトキニ限リ最終ノ語句ノ下ニ之ヲ省クモ妨ナシ
十五 宗教ト道德ノ關係 京都ト神戸ト長崎ト行ク 最終「ト」ヲ省クハ誤解ヲ生ズベキ例 史記ト漢書ト列傳ト讀ムベシ

教科用圖書檢定期間 明治三十五年二月十四日 文部省令第四號
教科用圖書檢定期間 明治三十五年六月二十日 文部省令第四號
教科用圖書檢定期間 明治三十五年六月二十日 文部省令第四號
教科用圖書檢定期間 明治三十五年六月二十日 文部省令第四號

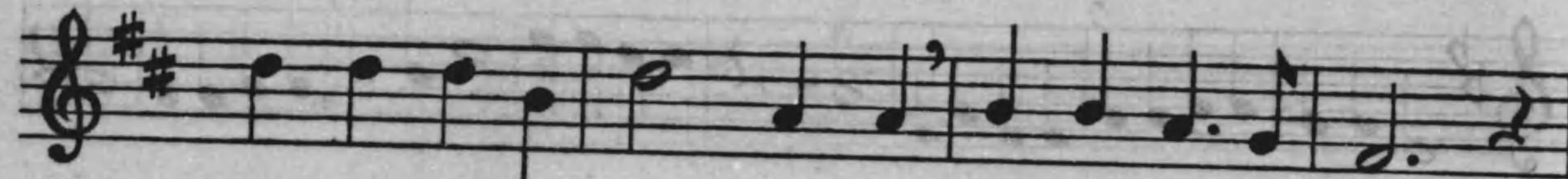
一月一日



トシノハロメノメメシトテ
としひのひーかりましいでて



ナハリナキヨノメアササ
よしにかがやくげさのそら



マツタケタテカドゴトニ
きーみがみかげにたぐへつ



イハフクフコソタノシケレ
あふぎみるこそたふとけれ

御 ぎ 見 る こ そ	君 が み か げ に	四 方 に 輝 く	朝 日 の ひ か り	第二章	い そ ふ 今 見 こ そ	松 竹 た た て よ	終 り な き 世 の	年 の と り め の	第一章	一 月 一 日	上 千 家 眞 行 作 曲
な み と け れ	比 へ つ と	今 朝 の そ ら	ま し い で て		た の し り れ	門 ご と に	め で た さ な	例 と			

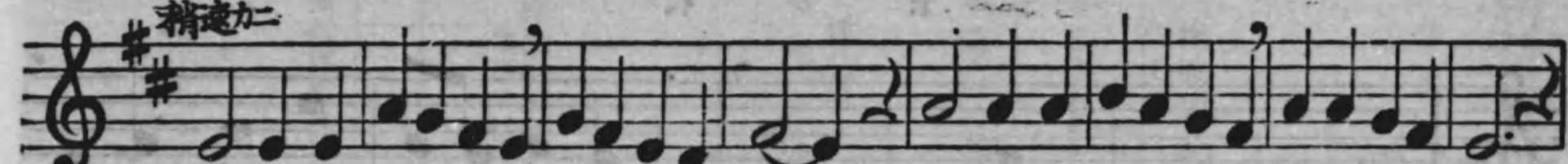
勅語奉答



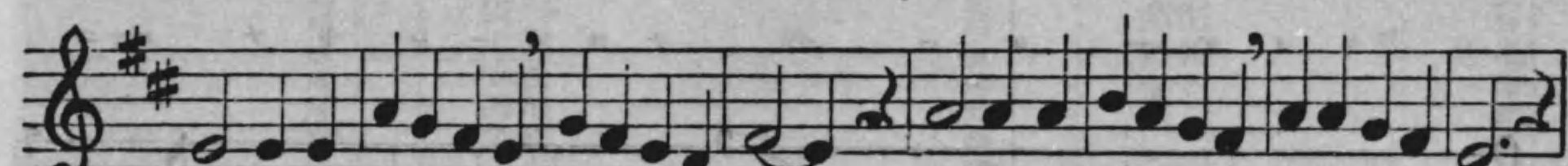
アヤニカシコキスメラギノー アヤニタフトキスメラギノ



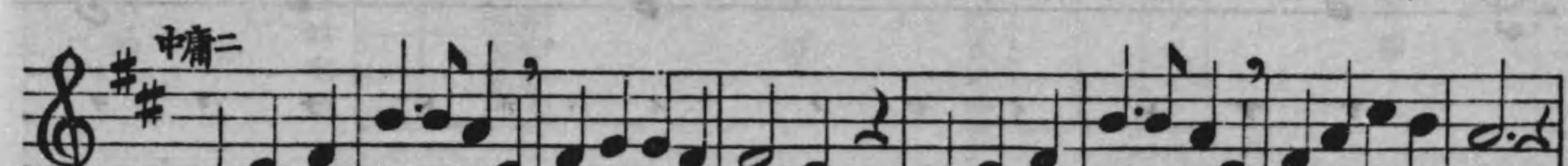
アヤニタフトクカシコクモー タダシタマヘリオホミコト



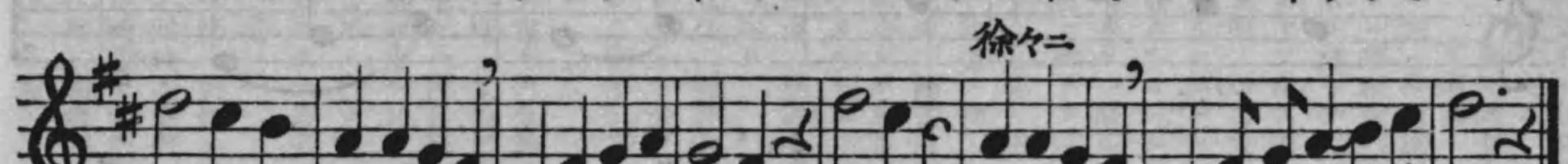
コレゾメアタキヒノモトノー タニノチシヘノモトキナル



コレゾメアタキヒノモトノー ヒトノチシヘノカガミナル



アヤニカシコキスメラギノー ミコトノママニイソシメテ



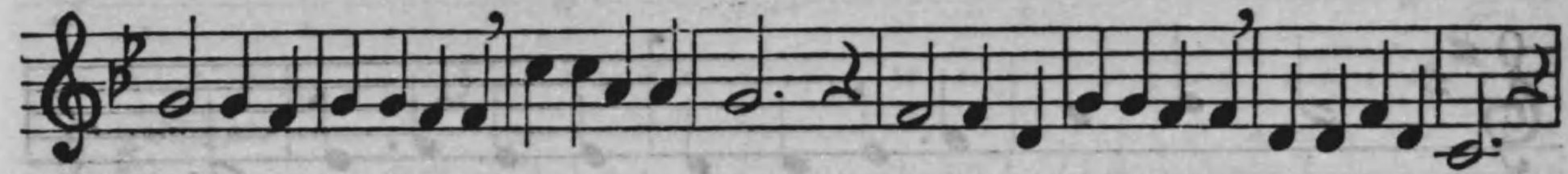
アヤニタフトキスメラギノー オホミココロニコタヘマツラム

大 御 心 に	あ や に 輝 く に	勅 語 の ま ま に	あ や に 長 き の	人 の 教 の	是 ぞ め で た き の	國 の 教 の	是 ぞ め で た き の	下 に 賜 へ り	あ や に 輝 く に	あ や に 長 き の	勅 語 奉 答 小 山 作 之 助 作 曲
答 へ ま つ ら む	天 の 皇 の	勅 語 み の	天 の 皇 な る	皇 の 本 の	日 の 本 の	基 の 本 の	日 の 本 の	大 に 賜 も の	長 く 皇 の	天 の 皇 の	

元 始 祭



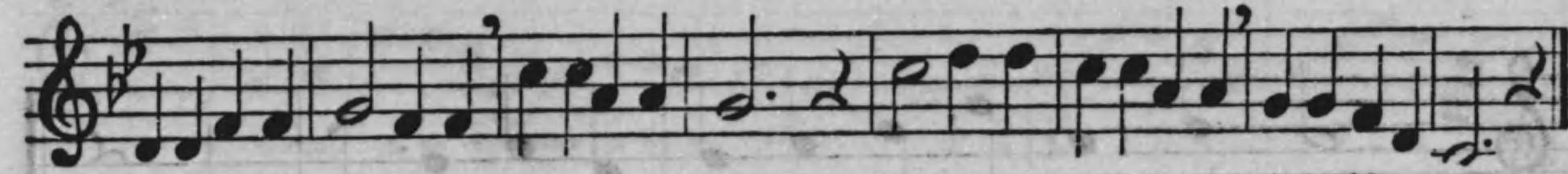
アマツ ヒツギノキハミナタ アマツ シルシノラゴキナタ



トシノハジメニスメガミタ マツリマスコソカシコタレ



モノタミクササチナビキ ノドケキソラチウチアアキ



トサカ ノホルヒノミハタ タテテイハハ×イヘンナキ

元 始 祭 鈴木重樹作曲

天 津 日 嗣 の 際 限 な く

天 津 重 の 動 き な く

年 の そ の じ め に 皇 神 を

祭 り ま す こ そ か い こ け れ

四 方 の 民 く さ う ち 靡 き

長 雨 け き 空 を う ち 仰 ぎ

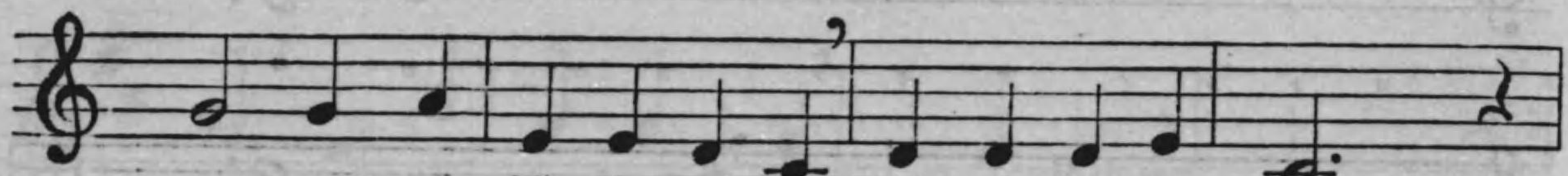
豊 稔 の ぼ る 日 の 御 旗

た て 眺 め ぬ 家 ぞ な き

紀 元 節



クモニラソビエルタカチホノ
うまばらなはいつせるはかにやすの
一・二・三・四



カケホオロシニタサモキ
けののろもよりになほひろな
たいちよ



ナビキフシケンアホミヨチ
めぐみとの井のなだしにしらあみてか
く



ア フ グ ケ フ コ ソ タ ノ シ ケ レ
二 二 二 二 二 二 二 二 二 二
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

紀 元 節 高崎正風作曲

第一章

雲に響ゆる高千穂の高根たろに草も木もなびき
ふーけん大御世を仰ぐ今日こそたのしけれ

第二章

海原なせる植安の池の水もより翳ひろきめぐみ
の波に浴み世をあふぐけふこそたのしけれ

第三章

天津ひつぎの高みくら千代よろづよに動きなきもとあ
定めそのかみを仰ぐけふこそたのしけれ

第四章

空にかやく日のもとの高の國にたぐひなき國のみ
そいらたてし世をあふぐけふこそたのしけれ

天 長 節

ク フ ノ キ ヒ ハ オ ホ キ ミ ノ
け ふ の よ き ひ と み ひ か り の

サ マ レ タ マ ヒ シ キ ヒ ナ リ
さ り で た ま ひ と き ひ な り

ヒ カ リ ア マ ネ キ キ ミ ガ タ
め ぐ み あ ま れ き き み が と な

イ ハ ヘ モ ロ ビ ト モ ロ ト ニ
い と へ も ろ び と も ろ と も に

いそへ 諸人
めぐみ 通れき
いそへ 諸人
ひかり 通れき
さし出た まひ
今日の吉き日
うまれた まひ
今日の吉き日
大君

もろとも
君が代
もろとも
君が代
吉き日
御ひかり
吉き日
の

天 長 節 奥黒川 好義 作曲

神 嘗 祭

イ ス ミ ヤ イ オ ホ マ ヘ ニ
コ ト シ ノ ア キ ノ カ ケ デ カ
ミ キ ミ タ グ ラ フ タ マ ツ リ
イ ハ フ ア シ タ ノ ア サ ヒ カ ゲ
ナ ビ ク ミ ハ ム モ カ ガ ヤ キ テ
ニ ギ ハ フ ミ コ ソ メ デ タ ケ レ

服ふ 御代こそ
舞く 御旗も
祝ふ あしたの
御酒 御席を
今年 秋の
五十 鈴の宮の
大前

め だ け れ
か や き て
朝 日 か げ
た て ま つ り
大 前
に

神 嘗 祭 辻木村 高正 作曲

一、亞細亞の東日出づる處
 古き天地とさせる露を
 歡あまなく道明らけく
 二、惠の波は八洲に傳り
 神の依させる御業を弘め
 外つ國國の史にも著く
 三、秋の空すみ菊の香高き
 定めましける御意を崇め
 代代木の葉の代長へに

四、君の現れまして
 大御光に照なくはらひ
 治めたまへる御代章
 御被成の風は海原越えて
 民の榮行く力を展ばし
 留めたまへる方名長
 今日の上き日を待ことばきて
 諭しましける御勅を守り
 仰ぎまつらん大帝

M.M. ♩ = 96.
mf

一、ア ジル ヤー ノ ヒ ア ガ ー シ ヒ イ ア ル ト コ ロ
 二、め ぐ み の の な よ み さ 一 は り や し わ ま さ に あ ま る
 三、ア キ ダ ニ ノ ソ マ ラ シ ケ ミ ル キ タ ノ リ カ ア カ ガ キメ

新 嘗 祭

タ ミ ヤ ス カ レ ト キ サ ラ ギ ノ
 ト シ ゴ ヒ マ ツ リ シ ル シ ア リ
 チ マ チ ノ フ ダ ニ ウ チ ナ ビ ク
 タ リ ホ ノ イ ネ ノ ウ マ シ イ ネ
 ミ ケ ニ ツ ク リ タ タ マ ツ ル
 ニ ヒ ナ メ マ ツ リ タ フ ト シ ヤ

新嘗祭
 御饗につくりて
 垂穂の穂の
 千町の小田に
 新しと年祭
 民やすかれと
 二ヵ月
 の

新嘗祭
 小中村清塚作歌
 高節作曲

ヲ受クヘシ
非常變災其ノ他急迫ノ場合ニ際シ前項ノ認
可ヲ受クル限ナキトキハ圖書館長ニ於テ臨
時休館ヲ爲スコトヲ得
第六條 圖書館ニハ圖書ヲ寄贈シ又ハ其ノ保
管ヲ委託スルコトヲ得
第七條 閱覽人ニシテ圖書ヲ紛失シ汚損又ハ
毀壞シタルトキハ圖書館長ノ指定ニ依リ現
品又ハ相當ノ代金ヲ以テ之ヲ賠償スヘシ
前項ノ賠償ヲ完了セサル間ハ圖書ヲ閱覽ス
ルコトヲ得ス
第八條 館員ノ指示ニ從ハサル者其ノ他不良
ノ行爲アリト認メタル者ハ圖書館長ニ於
テ退館ヲ命ジ又ハ期間ヲ定メテ登館ヲ禁止
スルコトヲ得
第九條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ臺灣
總督ノ認可ヲ受ケ圖書館長ノ決定ム
第十條 館内圖書ヲ爲スコトヲ得ル者ハ年
十二年以上ノ者トス但シ年七年以上十二
年未滿ノ者ハ兒童室ニ於テ一定ノ圖書ヲ閱
覽スルコトヲ得
傳染性ノ疾患アリト認ムル者又ハ館内ノ風
紀ヲ紊シ若ハ掃蕩ヲ怠ル者又ハ館内ノ風
者ハ登館ヲ許サス
第十一條 閱覽人ニ於テ圖書請求券ヲ紛失シ
爲ニ圖書館ニ損害ヲ生セシメタルトキハ賠
償ノ責ニ任スヘシ
第十三條 第三章 館外圖書
第十二條 年十二年以上ニシテ臺北市及其
ノ接近街庄ニ居住シ左記各條ノ一ニ該當ス
ル者ハ圖書館長ノ許可ヲ受ケ圖書ヲ館外ニ
携出シテ閱覽スルコトヲ得
一 携出圖書價以上ノ郵便貯金又ハ銀行
預金ノ通帳ヲ六個月以上寄託スル者
二 優待券ヲ有スル者
三 前條ニ該當スル者ヲ保證人ニ立ツル者
特別ノ事情アルトキハ圖書館長ニ於テ身元
確實ナリト認メタル者ニ限リ前項ノ資格ニ
拘ハラス一時限リ携出ヲ許可スルコトヲ
得
第十三條 圖書ヲ携出ヲ許可シタル者ハ圖書
館長ニ於テ携出證ヲ交付スヘシ

第十四條 左ノ圖書ハ之ヲ携出スルコトヲ得
一 貴重圖書、寫本、墨帖及目錄類
二 官公報
三 辭書及之ニ類スル圖書
四 新聞紙及未裝釘ノ雜誌
五 新著圖書
六 館内圖書者ノ求覽外キ圖書
七 委託者ノ承諾ナキ圖書
前項以外ノ圖書トモ圖書館ノ都合ニ依リ
圖書館長ニ於テ携出ヲ許可セサルコトヲ
得
第十五條 官立、公立ノ學校又ハ官公署ヨリ
參考圖書借覽ノ申出アルトキハ圖書館長ハ
前三條ノ規定ニ拘ハラス特ニ携出ヲ許可ス
ルコトヲ得
第十六條 携出證及携出圖書ハ之ヲ他人ニ轉
貸スルコトヲ得ス
第十七條 圖書ノ返却ヲ怠リタルトキハ圖書
館長ハ爾後携出證ノ效力ヲ制限シ又ハ無効
トスルコトヲ得
第十八條 携出證ヲ紛失シ爲ニ圖書館ニ損害
ヲ生セシメタルトキハ其ノ記名人又ハ保證
人ニ於テ賠償ノ責ニ任スヘシ
第十九條 圖書寄贈セムトスル者ハ寄贈申
込書ニ書名、頁數及住所氏名等ヲ詳細ニ圖
書館長ニ申込ムヘシ
第二十條 圖書寄贈セムトスル者ハ寄贈申
込書ニ書名、頁數及住所氏名等ヲ詳細ニ圖
書館長ニ申込ムヘシ
第二十一條 圖書寄贈セムトスル者ハ寄贈申
込書ニ書名、頁數、期限、價格及住
所氏名等ヲ詳細ニ圖書館長ニ申込ムヘシ
圖書ノ受託ハ圖書館長ノ取扱フ
第二十二條 圖書ノ委託ヲ受ケタルトキハ圖
書館長ニ於テ受託證ヲ交付スヘシ
第二十三條 委託圖書ニシテ水火、盜難其ノ
他避テヘカラサル事故ニ依リ毀損又ハ滅失

スルコトアルモ圖書館ハ其ノ責ニ任セス
第二十四條 第二十條ノ規定ハ圖書ノ委託及
返付ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六章 巡回圖書庫
第二十五條 左記各條ノ一ニ該當スル箇所ニ
ハ巡回圖書庫ヲ廻付スルコトヲ得
一 郡役所、市役所及支廳
二 公立圖書館又ハ管理確實ナリト認ムル
私立圖書館(支庫)
三 其ノ他圖書館長ニ於テ必要ト認メタル
箇所
第二十六條 巡回圖書庫ノ廻付ヲ受ケムトスル
トキハ郡守、市尹若ハ支廳長又ハ前條第二
條及第三條ノ箇所ニ在リテハ其ノ責任者ニ
於テ閱覽及携出ニ關スル手續ヲ定メ州又ハ
廳ヲ經由シテ圖書館長ニ請求スヘシ
前項ノ手續ヲ變更シタルトキハ其ノ旨圖書
館長ニ通知スヘシ
第二十七條 巡回圖書庫ノ廻付ヲ受ケタルトキ
ハ前條ニ依リ其ノ廻付ヲ請求シタル者ニ於
テ之ヲ管理スヘシ
郡守、市尹及支廳長ハ管内適當ノ箇所ニ保
管者ヲ定メ巡回圖書庫閱覽所ヲ設ケルコト
ヲ得
前項ノ場合ニ於テハ其ノ旨圖書館長ニ通知
スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
第二十八條 巡回圖書庫ノ廻付期間ハ土地ノ狀
況ニ依リ其ノ都府圖書館長ノ決定ム
第二十九條 圖書ヲ紛失、汚損又ハ毀壞シタ
ルトキハ第二十六條ニ依リ巡回圖書庫ノ廻付
ヲ請求シタル者ニ於テ本令第七條ノ例ニ依
リ賠償スヘシ
第三十條 第二十條ノ規定ハ巡回圖書庫ノ廻付
ノ場合ニ之ヲ準用ス
附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正四年府令第十一號臺灣總督府圖書館規則
及同年告示第九十六號臺灣總督府圖書館圖書

閱覽時間ノ件ハ之ヲ廢止ス
●公立私立圖書館規則
大正十二年四月六日
臺灣總督府令第四十三號
公立、私立圖書館規則左ノ通相定ム
第一條 州、廳地方費、市街庄、市街庄組合若
ハ街庄組合又ハ私人ハ圖書ヲ蒐集シ公衆ノ
閱覽ニ供セムカ爲メ圖書館ヲ設置スルコトヲ
得
第二條 圖書館ノ設置廢止ハ設立者ニ於テ州
立又ハ廳地方費立ニ在リテハ臺灣總督、其
ノ他ノ公立、私立ニ在リテハ州知事又ハ廳
長ノ認可ヲ受ケヘシ
第三條 圖書館ノ設置ニ付認可ヲ受ケムトス
ルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ
一 名稱
二 位置ハ州廳都市街庄區大字字地番ヲ
記スヘシ
三 館則
四 開館年月日
五 敷地、建物ノ坪數及圖面
六 經費及維持方法
前項第一號乃至第四號又ハ主要建物ヲ變更
セムトスルトキハ設立者ニ於テ其ノ事由ヲ
具シ認可ヲ受ケヘシ
第四條 館則ハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
一 目的
二 開館日、休館日及開館時間ニ關スル事
項
三 圖書閱覽及閱覽料ニ關スル事項
四 其ノ他必要ナル事項
第五條 圖書館ニ於テハ圖書閱覽料ヲ徵收ス
ルコトヲ得
第六條 私立圖書館ノ經費豫算ハ毎年四月ヨ
リ翌年三月迄ニ至ル一年分ニ付其ノ年三月
末日迄ニ設立者ニ於テ州知事又ハ廳長ニ報
告スヘシ

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第三十一款 學位學士院
美術院 經學院

●學位令
大正九年七月六日
勅令第二百號
朕親臨閣下ノ諮詢ヲ經テ學位令ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム(大正九年七月六日)
學位令
第一條 學位ハ博士トス
第二條 學位ハ大學ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ
經テ之ヲ授與ス
第三條 博士ノ種類ハ大學ニ於テ之ヲ定メ文
部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
第四條 學位ヲ授與セラルヘキ者ハ大學學部
研究所ニ於テ二年以上研究ニ從事シ論文ヲ
提出シテ學部教員會ノ審査ニ合格シタル者
又ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ學部教員
會ニ於テ之ノ同等以上ノ學力アリト認メタ
ル者トス
第五條 學部教員會ハ前條ノ論文審査ニ付其
ノ提出者ニ對シ試問ヲ行フコトヲ得
第六條 大學ニ於テ學位授與ノ認可ヲ申請ス
ルトキハ論文及其ノ審査ノ要領ヲ添附スヘ
シ
第七條 學位ヲ授與セラレタル者ハ授與ノ日
ヨリ六月内ニ其ノ提出ニ係ル論文ヲ印刷公
表スヘシ但シ學位授與前既ニ印刷公表セラ
レタルモノナルトキ又ハ文部大臣ニ於テ其
ノ印刷公表ヲ相當ナラスト認メタルモノナ
ルトキハ此ノ限ニ在ラス
第八條 大學ハ論文ノ審査ニ付手数料ヲ徵收
スルコトヲ得
第九條 學部教員會ニ於ケル論文審査ノ手續
其ノ他學位ニ關スル規程ハ大學ニ於テ之ヲ
定メ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第十條 學位ヲ有スル者其ノ榮譽ヲ汚辱スル
行爲アルトキハ大學ニ於テ學位ニ關スル規
程ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經テ學位ノ授與
ヲ取消スコトヲ得
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十一年勅令第三百四十四號學位令及博
士會規則ハ之ヲ廢止ス但シ舊令ニ依リ授與シ
タル學位ハ仍其ノ效力ヲ有ス
本令施行前論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シタル
者ニ對シテハ舊令ニ依リ學位ヲ授與ス
舊令ニ依リ學位ヲ有スル者其ノ榮譽ヲ汚辱ス
ル行爲アルトキハ文部大臣其ノ學位ヲ撤奪ス
ルコトヲ得
●帝國學士院規程
明治三十一年六月十三日
勅令第二百九十九號
改正 大正一十四年第二〇〇號、第二七三
號
昭和三年第一八二號
帝國學士院規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム(大正九年七月六日)
帝國學士院規程
第一條 帝國學士院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ
學術ノ發達ヲ圖リ數化ヲ裨補スルヲ以テ目
的トス
第二條 帝國學士院會員ハ帝國學士院ニ於テ
碩學中ヨリ推選シ勸導ヲ以テ之ヲ命ス
第三條 外國人ニシテ帝國ニ於ケル學術ノ發
達ニ關シ特別ノ功勞アル者ハ帝國學士院ニ
於テ之ヲ客員ト爲スコトヲ得
第四條 帝國學士院ハ左ノ二部ニ分チ會員ハ
各專攻ノ學科ニ依リテ之ニ分屬ス
第一部 文學及社會的諸學科
第二部 理學及其ノ應用諸學科
第五條 帝國學士院會員ノ定員ハ百人トス
第六條 帝國學士院ハ會議ヲ開キ學術及數化
ニ關スル事項ヲ審議ス
第七條 帝國學士院會員ハ專攻ノ學科ニ付論

文ヲ提出シ又ハ報告ヲ爲スモノトス
第八條 帝國學士院ハ學術ニ關スル論文、考
察、資料等ヲ蒐集スルコトヲ得
第九條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ
テ爲シ又ハ其ノ會員トナルコトヲ得
第十條 文部大臣ハ學術及數化ニ關スル事項
ニ付帝國學士院ニ諮詢スルコトヲ得
第十一條 帝國學士院ハ少クモ毎年一回院
務ニ關スル報告書ヲ文部大臣ニ提出スヘシ
第十二條 帝國學士院ハ院長一人、幹事一人
及部長二人ヲ置ク
第十三條 院長ハ幹事會ニ於テ、部長ハ部會ニ於
テ會員中ヨリ之ヲ互選ス
第十四條 院長、幹事及部長ノ任期ハ三年トス
第十五條 院長ハ院務ヲ總理シ總會ニ於テ其
ノ議長ト爲ル
第十六條 院長ハ幹事會ニ於テ其ノ職務ヲ代理シ
院務及幹事會ニ事故アルトキハ院長ノ指名
シタル會員其ノ職務ヲ代理ス
第十七條 部長ハ院務ヲ承ケ院務ヲ掌理ス
第十八條 部長ハ院務ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部會
ニ於テ其ノ議長トナル
第十九條 院長、幹事及部長ニハ手當ヲ給ス
ルコトヲ得
第二十條 滿六十歲以上ノ會員ニハ特ニ年金
ヲ給スルコトヲ得
第二十一條 帝國學士院ニ書記四人ヲ置キ文部
省所屬ノ列任官ヲ以テ之ニ充ツ
第二十二條 書記ハ幹事及部長ノ命ヲ承ケ庶務ニ
從事ス
第二十三條 書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得
第二十四條 學術上ノ調査ノ爲會員中ニ於テ抽
當者ヲ定メタルトキハ手當ヲ給スルコトヲ
得
第二十五條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受
ケ會則ヲ定ムルコトヲ得
附則

●帝國美術院規程
大正八年九月六日
勅令第二百五十八號
改正 大正九年第三八六號、一二年第三
九〇號、一四年第二五三號
昭和三年第二二號
帝國美術院規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム(大正九年七月六日)
帝國美術院規程
第一條 帝國美術院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ
美術ノ發達ヲ裨補スルヲ以テ目的トス
第二條 帝國美術院ハ文部大臣ノ諮詢ニ應ジ
美術ニ關スル意見ヲ開申ス
第三條 帝國美術院ハ美術ニ關スル重要ノ事項ニ付
文部大臣ニ建議スルコトヲ得
第四條 帝國美術院ハ院長一人及會員二十五
人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
第五條 院長及會員ハ美術ニ關シ學問、歴史、
藝術ニ於テ之ヲ命ス
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
●帝國美術院規程
大正八年九月六日
勅令第二百五十八號
改正 大正九年第三八六號、一二年第三
九〇號、一四年第二五三號
昭和三年第二二號
帝國美術院規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム(大正九年七月六日)
帝國美術院規程
第一條 帝國美術院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ
美術ノ發達ヲ裨補スルヲ以テ目的トス
第二條 帝國美術院ハ美術ニ關スル重要ノ事項ニ付
文部大臣ニ建議スルコトヲ得
第三條 帝國美術院ハ院長一人及會員二十五
人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
第四條 院長及會員ハ美術ニ關シ學問、歴史、
藝術ニ於テ之ヲ命ス
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

院長及會員ハ勸任官ノ待遇ヲ受ケ
第四條ノ二 外國人ニシテ帝國ニ於ケル美術
ノ發達ニ關シ特別ノ功勞アル者ハ帝國美術
院ニ於テ之ヲ名譽會員ト爲スコトヲ得
第五條 院長ハ院務ヲ總理ス
第六條 帝國美術院ニ幹事ヲ置テ文部省內ノ
高等官中ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ
於テ之ヲ命ス
第七條 帝國美術院ニ書記ヲ置テ文部省內ノ
幹事ハ院長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
第八條 帝國美術院ニ書記ヲ置テ文部省內ノ
列任官中ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ
於テ之ヲ命ス
第九條 帝國美術院ハ定期又ハ臨時ニ美術展
覽會ヲ開ク
第十條 美術展覽會ノ出品ヲ審査セシムル爲
メ美術展覽會審査員ヲ置テ
第十一條 美術展覽會審査員ハ會員ヲ以テ之ニ充ツル
メ外美術展覽會開會毎ニ院長ノ推薦ニ基キ
文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
第十二條 帝國美術院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ
帝國美術院ニ關スル規則ヲ定ムルコトヲ
得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
美術審査委員會官制ハ之ヲ廢止ス

●經學院規程

經學院規程 昭和十四年六月十五日
經學院規程左ノ通定ム
第一條 經學院ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬シ經學
ノ研究ヲ爲シ風氣教化ヲ裨補スルコトヲ目
的トス
第二條 經學院ハ之ヲ京城ニ置ク
第三條 朝鮮總督ハ各道ニ於テ學識優著アル
者ヲ講士ニ舉ケ經學院ニ列セシム
第四條 經學院ハ毎年春秋二回文廟ノ祭祀ヲ
舉行ス
第五條 祭祀ハ朝鮮總督ノ指揮ヲ承ケ大提學之ヲ行
ヒ經學院講士之ニ列ス
第六條 經學院ニ左ノ職員ヲ置ク

大提學 一人
副提學 二人
祭酒 五人
司成 若干人
直員 若干人
前項職員ノ待遇ハ朝鮮總督之ヲ行フ
第六條 大提學ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ
院務ヲ總理ス
第七條 副提學ハ大提學ヲ輔佐シ大提學事故
アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
第八條 祭酒ハ上職ノ命ヲ承ケ院務ヲ分掌ス
第九條 司成ハ上職ノ指揮ヲ承ケ院務ニ從事
ス
第十條 直員ハ上職ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十一條 經學院ノ講士及職員ニハ手當ヲ給ス
ルコトヲ得
第十二條 京城以外ニ在ル講士ニシテ經學院ニ列
スル者ニハ旅費ヲ給ス
第十三條 經學院ノ手當及旅費額並其ノ支給
方法ニ付テハ別ニ定ムル處ニ依ル
第十四條 經學院ノ職員及講士ノ手當、旅費
其ノ他ノ經費ハ其ノ財產ヨリ生ズル收入及
其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツル
第十五條 經學院ハ寄附ヲ受クルコトヲ得
第十六條 基本財産ハ土地、建物、國債證券
又ハ確實ナル有價證券若ハ銀行預金トシテ
之ヲ保管ス
第十七條 基本財産ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非
ザラズ
第十八條 大提學ハ會計年度歲入歳出決算ヲ其ノ年
度後三月以内ニ朝鮮總督ニ報告ス
第十九條 前二項ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
第十七條 本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項
ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ大提學之ヲ定ム

圖書認定規程
第一條 社會教育ニ裨益アリト認ムル圖書ハ
本令ニ依リ之ヲ認定ス
第二條 圖書ノ著作者又ハ發行者ニ於テ圖書
ノ認定ヲ受ケントスルトキハ其ノ圖書二部
及手數料ヲ添ヘ別記様式ノ認定願書ヲ文部
大臣ニ提出ス
第三條 手數料ハ圖書一部ニ付其ノ圖書三部
ノ定價ニ等シキ金額トシ出願ノ際文部大臣
官房會計課ニ納付ス
第四條 文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ手數料
ヲ免除スルコトアルヘシ
第五條 認定願書ハ之ヲ返付セズ
第六條 認定願書ニハ圖書ニハ文部省認定
ノ文字ヲ記入スルコトヲ得
第七條 認定願書ニハ效力ハ認定ヲ受ケタル後修正
ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトシ但シ修
正ニ付文部大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ
限ニテス
第八條 認定願書ニハ圖書ニシテ修正ヲ要
スルモノアリト認ムルトキハ期間ヲ定メ
之ヲ修正セシムルコトアルヘシ
第九條 認定願書ニハ圖書ノ著者名、發行者名、
書名、冊數、定價、
發行年月日、著者及發行者ノ住所、氏
名、官報ヲ以テ之ヲ公示ス
第十條 規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
前條ノ規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
同シ

活動寫眞「フィルム」、幻燈映
畫及蓄音機「レコード」認定規
程 文部省令第三十七號
大正十二年五月四日
文部省令第三十七號
活動寫眞「フィルム」、幻燈映畫及蓄音機「レ
コード」認定規程左ノ通定ム
第一條 活動寫眞「フィルム」、幻燈映畫、蓄音
機「レコード」ノ製作者、販賣者若ハ活動寫
眞ノ發行者ハ其ノ製作、販賣又ハ發行ニ係
ル「フィルム」、映畫「レコード」ニシテ社會
教育ノ趣旨ニ適スト思惟シタルトキハ其ノ
「フィルム」、映畫「レコード」ノ認定ヲ文部
省ニ申請スルコトヲ得
第二條 第一條ニ依リ認定ヲ申請スル者ハ該
「フィルム」、映畫「レコード」ノ見本、說明
書及認定料ヲ認定願書ニ添ヘ文部省ニ提出
ス
第三條 第一條ニ依リ認定ヲ申請スル者ハ該
「フィルム」、映畫「レコード」ノ見本、說明
書及認定料ヲ認定願書ニ添ヘ文部省ニ提出
ス
第四條 認定願書ニハ圖書ニシテ修正ヲ要
スルモノアリト認ムルトキハ期間ヲ定メ
之ヲ修正セシムルコトアルヘシ
第五條 認定願書ニハ圖書ノ著者名、發行者名、
書名、冊數、定價、
發行年月日、著者及發行者ノ住所、氏
名、官報ヲ以テ之ヲ公示ス
第六條 規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
前條ノ規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
同シ

文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ認定料
ヲ免除スルコトアルヘシ
第五條 認定願書「フィルム」、映畫及「レコー
ド」ノ題號、申請者ノ住所、氏名ハ官報ヲ以
テ之ヲ公示ス
第六條 活動寫眞「フィルム」ノ認定ヲ申請ス
ルモノハ甲種寫眞式ニ依リ幻燈映畫ノ認定ヲ
申請スルモノハ乙種寫眞式ニ依リ蓄音機「レ
コード」ノ認定ヲ申請スルモノハ丙種寫眞式
ニ依リ顯出ツヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
幻燈映畫及活動寫眞「フィルム」認定規程ハ之
ヲ廢止ス

●圖書認定規程

圖書認定規程 大正十五年一月九日
圖書認定規程左ノ通定ム
第一條 社會教育ニ裨益アリト認ムル圖書ハ
本令ニ依リ之ヲ認定ス
第二條 圖書ノ著作者又ハ發行者ニ於テ圖書
ノ認定ヲ受ケントスルトキハ其ノ圖書二部
及手數料ヲ添ヘ別記様式ノ認定願書ヲ文部
大臣ニ提出ス
第三條 手數料ハ圖書一部ニ付其ノ圖書三部
ノ定價ニ等シキ金額トシ出願ノ際文部大臣
官房會計課ニ納付ス
第四條 文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ手數料
ヲ免除スルコトアルヘシ
第五條 認定願書ハ之ヲ返付セズ
第六條 認定願書ニハ圖書ニハ文部省認定
ノ文字ヲ記入スルコトヲ得
第七條 認定願書ニハ效力ハ認定ヲ受ケタル後修正
ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトシ但シ修
正ニ付文部大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ
限ニテス
第八條 認定願書ニハ圖書ニシテ修正ヲ要
スルモノアリト認ムルトキハ期間ヲ定メ
之ヲ修正セシムルコトアルヘシ
第九條 認定願書ニハ圖書ノ著者名、發行者名、
書名、冊數、定價、
發行年月日、著者及發行者ノ住所、氏
名、官報ヲ以テ之ヲ公示ス
第十條 規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
前條ノ規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
同シ

圖書認定規程
第一條 社會教育ニ裨益アリト認ムル圖書ハ
本令ニ依リ之ヲ認定ス
第二條 圖書ノ著作者又ハ發行者ニ於テ圖書
ノ認定ヲ受ケントスルトキハ其ノ圖書二部
及手數料ヲ添ヘ別記様式ノ認定願書ヲ文部
大臣ニ提出ス
第三條 手數料ハ圖書一部ニ付其ノ圖書三部
ノ定價ニ等シキ金額トシ出願ノ際文部大臣
官房會計課ニ納付ス
第四條 文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ手數料
ヲ免除スルコトアルヘシ
第五條 認定願書ハ之ヲ返付セズ
第六條 認定願書ニハ圖書ニハ文部省認定
ノ文字ヲ記入スルコトヲ得
第七條 認定願書ニハ效力ハ認定ヲ受ケタル後修正
ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトシ但シ修
正ニ付文部大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ
限ニテス
第八條 認定願書ニハ圖書ニシテ修正ヲ要
スルモノアリト認ムルトキハ期間ヲ定メ
之ヲ修正セシムルコトアルヘシ
第九條 認定願書ニハ圖書ノ著者名、發行者名、
書名、冊數、定價、
發行年月日、著者及發行者ノ住所、氏
名、官報ヲ以テ之ヲ公示ス
第十條 規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
前條ノ規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
同シ

文部省製作活動寫眞「フィルム」
頒布規程 昭和三年七月六日
文部省令第三十七號
文部省製作活動寫眞「フィルム」頒布規程左ノ
通定ム
第一條 文部省ニ於テ製作シタル活動寫眞
「フィルム」ハ本規程ニ依リ之ヲ頒布ス
第二條 頒布セムル「フィルム」ノ名稱、
內容、價格及出願期日等ハ其ノ都度官報ヲ
以テ之ヲ公告ス
第三條 「フィルム」ノ頒布ヲ受ケムル者
ハ其ノ旨文部省ニ申請スヘシ但シ皇室ニ關
スル「フィルム」ニ付テハ官報、學校、圖書
館、博物館、公共團體、公益團體、新聞社、通
信社及雜誌社ニ限リ申請スルコトヲ得
第四條 「フィルム」ノ頒布ヲ申請セムル者
トキハ皇室ニ關スル「フィルム」ニ付テハ別
記第一號様式ニ依リ其ノ他ノ「フィルム」ニ
付テハ別記第二號様式ニ依リ申請書ヲ文部
省ニ提出ス
第五條 必要ト認ムル場合ハ申請者ノ
身分等ニ付當該市町村長ノ證明書ヲ添付セ
シムルコトアルヘシ

活動寫眞「フィルム」、幻燈映
畫及蓄音機「レコード」認定規
程 文部省令第三十七號
大正十二年五月四日
文部省令第三十七號
活動寫眞「フィルム」、幻燈映畫及蓄音機「レ
コード」認定規程左ノ通定ム
第一條 活動寫眞「フィルム」、幻燈映畫、蓄音
機「レコード」ノ製作者、販賣者若ハ活動寫
眞ノ發行者ハ其ノ製作、販賣又ハ發行ニ係
ル「フィルム」、映畫「レコード」ニシテ社會
教育ノ趣旨ニ適スト思惟シタルトキハ其ノ
「フィルム」、映畫「レコード」ノ認定ヲ文部
省ニ申請スルコトヲ得
第二條 第一條ニ依リ認定ヲ申請スル者ハ該
「フィルム」、映畫「レコード」ノ見本、說明
書及認定料ヲ認定願書ニ添ヘ文部省ニ提出
ス
第三條 第一條ニ依リ認定ヲ申請スル者ハ該
「フィルム」、映畫「レコード」ノ見本、說明
書及認定料ヲ認定願書ニ添ヘ文部省ニ提出
ス
第四條 認定願書ニハ圖書ニシテ修正ヲ要
スルモノアリト認ムルトキハ期間ヲ定メ
之ヲ修正セシムルコトアルヘシ
第五條 認定願書ニハ圖書ノ著者名、發行者名、
書名、冊數、定價、
發行年月日、著者及發行者ノ住所、氏
名、官報ヲ以テ之ヲ公示ス
第六條 規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
前條ノ規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
同シ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
幻燈映畫及活動寫眞「フィルム」認定規程ハ之
ヲ廢止ス
●圖書認定規程 大正十五年一月九日
圖書認定規程左ノ通定ム
第一條 社會教育ニ裨益アリト認ムル圖書ハ
本令ニ依リ之ヲ認定ス
第二條 圖書ノ著作者又ハ發行者ニ於テ圖書
ノ認定ヲ受ケントスルトキハ其ノ圖書二部
及手數料ヲ添ヘ別記様式ノ認定願書ヲ文部
大臣ニ提出ス
第三條 手數料ハ圖書一部ニ付其ノ圖書三部
ノ定價ニ等シキ金額トシ出願ノ際文部大臣
官房會計課ニ納付ス
第四條 文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ手數料
ヲ免除スルコトアルヘシ
第五條 認定願書ハ之ヲ返付セズ
第六條 認定願書ニハ圖書ニハ文部省認定
ノ文字ヲ記入スルコトヲ得
第七條 認定願書ニハ效力ハ認定ヲ受ケタル後修正
ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトシ但シ修
正ニ付文部大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ
限ニテス
第八條 認定願書ニハ圖書ニシテ修正ヲ要
スルモノアリト認ムルトキハ期間ヲ定メ
之ヲ修正セシムルコトアルヘシ
第九條 認定願書ニハ圖書ノ著者名、發行者名、
書名、冊數、定價、
發行年月日、著者及發行者ノ住所、氏
名、官報ヲ以テ之ヲ公示ス
第十條 規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
前條ノ規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
同シ

文部省製作活動寫眞「フィルム」
頒布規程 昭和三年七月六日
文部省令第三十七號
文部省製作活動寫眞「フィルム」頒布規程左ノ
通定ム
第一條 文部省ニ於テ製作シタル活動寫眞
「フィルム」ハ本規程ニ依リ之ヲ頒布ス
第二條 頒布セムル「フィルム」ノ名稱、
內容、價格及出願期日等ハ其ノ都度官報ヲ
以テ之ヲ公告ス
第三條 「フィルム」ノ頒布ヲ受ケムル者
ハ其ノ旨文部省ニ申請スヘシ但シ皇室ニ關
スル「フィルム」ニ付テハ官報、學校、圖書
館、博物館、公共團體、公益團體、新聞社、通
信社及雜誌社ニ限リ申請スルコトヲ得
第四條 「フィルム」ノ頒布ヲ申請セムル者
トキハ皇室ニ關スル「フィルム」ニ付テハ別
記第一號様式ニ依リ其ノ他ノ「フィルム」ニ
付テハ別記第二號様式ニ依リ申請書ヲ文部
省ニ提出ス
第五條 必要ト認ムル場合ハ申請者ノ
身分等ニ付當該市町村長ノ證明書ヲ添付セ
シムルコトアルヘシ

活動寫眞「フィルム」、幻燈映
畫及蓄音機「レコード」認定規
程 文部省令第三十七號
大正十二年五月四日
文部省令第三十七號
活動寫眞「フィルム」、幻燈映畫及蓄音機「レ
コード」認定規程左ノ通定ム
第一條 活動寫眞「フィルム」、幻燈映畫、蓄音
機「レコード」ノ製作者、販賣者若ハ活動寫
眞ノ發行者ハ其ノ製作、販賣又ハ發行ニ係
ル「フィルム」、映畫「レコード」ニシテ社會
教育ノ趣旨ニ適スト思惟シタルトキハ其ノ
「フィルム」、映畫「レコード」ノ認定ヲ文部
省ニ申請スルコトヲ得
第二條 第一條ニ依リ認定ヲ申請スル者ハ該
「フィルム」、映畫「レコード」ノ見本、說明
書及認定料ヲ認定願書ニ添ヘ文部省ニ提出
ス
第三條 第一條ニ依リ認定ヲ申請スル者ハ該
「フィルム」、映畫「レコード」ノ見本、說明
書及認定料ヲ認定願書ニ添ヘ文部省ニ提出
ス
第四條 認定願書ニハ圖書ニシテ修正ヲ要
スルモノアリト認ムルトキハ期間ヲ定メ
之ヲ修正セシムルコトアルヘシ
第五條 認定願書ニハ圖書ノ著者名、發行者名、
書名、冊數、定價、
發行年月日、著者及發行者ノ住所、氏
名、官報ヲ以テ之ヲ公示ス
第六條 規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
前條ノ規定ニ依リ認定ヲ取消シタルトキ亦
同シ

甲種寫眞式
活動寫眞「フィルム」認定願
書
一「フィルム」題名(外國製「フィルム」ハ其ノ原
名及譯名)
一製造元
一主役
一「フィルム」ノ長さ及巻數
右「フィルム」御認定相成度該「フィルム」並
說明書、認定料相添ヘ此段御願致シマス
年 月 日

住所 氏 名
住所 氏 名
住所 氏 名
住所 氏 名

乙種寫眞式
幻燈映畫認定願
書
一題名(外國製映畫ハ其ノ原
名及譯名)
一製造元
一一枚數
右映畫御認定相成度該映畫並說明書、認定料相
添ヘ此段御願致シマス
年 月 日

丙種寫眞式
文部大臣宛
右「フィルム」御認定相成度該「フィルム」並
說明書、認定料相添ヘ此段御願致シマス
年 月 日

大正十二年文部省告示第四百二十九號皇室ニ關スル活動寫眞フィルム頒布ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

本規程施行以前ニ於テ頒布ヲ受ケタルフィルムニ付遵守スヘキ事項ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第一號様式

皇室ニ關スル活動寫眞フィルム頒布申請書

一 フィルム名稱 卷數
昭和三年文部省告示第三百四十二號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付右欄布相成度

申請者 住所
何々學校長 氏 名

文部省宛

活動寫眞フィルム頒布申請書

一 フィルム名稱 卷數
昭和三年文部省告示第三百四十二號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付右欄布相成度

申請者 住所
氏 名

文部省宛

活動寫眞フィルム頒布申請書

一 フィルム名稱 卷數
昭和三年文部省告示第三百四十二號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付右欄布相成度

申請者 住所
氏 名

第二條 貸與セムトスルフィルムノ名稱、内容、使用料及出願期日等ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條 皇室ニ關スルフィルムハ公益ノ目的ノ爲ニ使用スル者ニ限リ之ヲ貸與ス

第四條 (フィルム)ノ貸與ヲ受ケムトスル者ハ別記様式ニ依リ申請スヘシ但シ必要ト認メタルキハ申請者ノ身分等ニ付當該市町村長ノ證明書ヲ添付セシムルコトアルヘシ

第五條 (フィルム)ノ貸與ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 轉貸セザルコト
二 保管ニ注意スルコト
三 複製改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘザルコト

第六條 貸與シタルフィルムハ使用料ヲ納付シタル後之ヲ貸與ス
使用料ハ特別ノ事由アリト認メタルトキハ之ヲ免除スルコトアルヘシ

第七條 貸與ヲ受ケタルフィルムノ荷造運搬等ニ要スル費用ハ貸與者ノ負擔トス
第七條 貸與ヲ受ケタルフィルムノ使用期間ヲ經過シタル後尙現品ノ返還ヲ遲滞セル場合ハ使用料ヲ追徴ス

第八條 貸與ヲ受ケタルフィルムノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生ジタル損害ハ貸與者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ但シ其ノ損害力被貸與者ノ責ニ歸スヘカサル事由ニ依リテ生ジタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 使用料及賠償金ハ納入告知書ニ依リ日本銀行又ハ最寄日本銀行支店若ハ同代理店ニ之ヲ納付スヘシ
第十條 貸與シタルフィルムハ本規程ニ違背シタル行爲アリト認メタル場合ニ於テハ貸與期間中ト雖モ之ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第十一條 一旦納付シタル使用料ハ理由ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ還付セズ

活動寫眞フィルム貸與申請書
昭和三年文部省告示第三百四十三號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付左記ノ通(フィルム)頒布申請書

一 フィルム名稱 卷數
一 使用ノ目的
一 使用ノ期間
一 使用回数
一 使用場所
一 映寫機名稱
一 映寫技師ノ職氏名
一 説明者ノ職氏名

申請者 住所 氏 名
職名 氏 名

文部省宛
學校衛生資格及職務ニ關スル規程
大正九年三月三十一日
文部省告示第七號

第一條 學校衛生資格及職務ニ關スル規程
第二條 學校衛生資格ニ依リ醫師タルヘシ
第三條 學校衛生資格ニ依リ醫師タルヘシ
第四條 學校衛生資格ニ依リ醫師タルヘシ

第五條 學校衛生資格ニ依リ醫師タルヘシ
第六條 學校衛生資格ニ依リ醫師タルヘシ
第七條 學校衛生資格ニ依リ醫師タルヘシ

二、校具ノ衛生ニ關スル事項
三、教授衛生ニ關スル事項
四、運動ニ關スル事項
五、職員生徒兒童ノ健康狀態
六、病者、虛弱者、精神薄弱者等ノ監督養護ニ關スル事項

七、清潔ニ關スル事項
八、飲料水及飲食物ニ關スル事項
九、其ノ他衛生上必要ナル事項

臨時必要ナル場合ニ於テ學校衛生管理員又ハ學校長ノ請求ニ依リ特ニ前項各號ノ全部又ハ一部ニ就キ調査スヘシ
第三條 學校衛生生徒兒童中病者、虛弱者、精神薄弱者ヲ發見シ若ハ學校長其ノ他ノ職員ヨリ之ニ關スル通知アリタルトキハ其ノ狀況ニ依リ一科目若ハ數科目ノ授業免除、就學勸導、就學免除、休學、退學又ハ治療、保護矯正等ヲ要スヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ

前項ノ異狀アル生徒兒童中就學勸導、就學免除、休學、退學等ヲ要セザル者ニ對シ學校衛生管理員ニ之ヲ報告スヘシ
第四條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第五條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ
第六條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第七條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ
第八條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第九條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ
第十條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第十一條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ
第十二條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

講話 ナスヘシ

第十條 學校衛生ニ關シタル事項、執務ノ狀況、申告書ハ建議セル事項ニ就キ其ノ大要ヲ學校衛生執行日誌ニ記入シ其ノ都度學校長ニ提出スヘシ

學生生徒兒童身體檢查規程

本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十一年文部省令第六號及第七號ハ之ヲ廢止ス

第一條 學生生徒兒童身體檢查規程ニ於テ之ヲ施行スヘシ 但シ止ムヲ得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

第二條 學校長ハ學校衛生ニ關シタル事項、執務ノ狀況、申告書ハ建議セル事項ニ就キ其ノ大要ヲ學校衛生執行日誌ニ記入シ其ノ都度學校長ニ提出スヘシ

第三條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第四條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第五條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第六條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第七條 學校衛生管理員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

疾病及異常 十一 監察ノ要否
前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フコトヲ得

一検査ノ表記ニハ度ハセンチメートル、衡ハキログラムヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ夫々單位ノ下一位ニ止ムヘシ

二身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ胸圍者ハ小襟ヲ解下ニ水平ニ挿入レテ測定スヘシ

三體重ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ考慮ヨリ除去スヘシ

四胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼吸ノ終レル時ヲ測定スヘシ

五發育ノ程度ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲、乙、丙ノ三分ツモノトス

六榮養ハ甲、乙、丙ニ分チ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其ノ中間ナルヲ乙トス

七脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テ凡テ其ノ凸側ニ依リテ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱ノ二種ニ區別シ自己ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサルモノヲ強トス

八視力ハ萬國式視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記入スヘシ 裸眼視

力一〇以上ナルヲ正視眼トス
屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ

九色弱ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ

十聽力ハ其ノ障礙ノ有無ヲ検査スヘシ
十一齒牙ハ齲齒ニ就キ検査スヘシ

十二其ノ他ノ疾病及異常ハ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ
十三監察ノ要否ハ検査ノ結果身心ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的ニ監察ヲ要スル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス

第五條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身體検査票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ 但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類毎ニ別票ヲ用フモノトス

第六條 第二項ノ臨時身體検査ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體検査票ノ裏面ニ記入スルモノトス 繼續的監察ノ場合亦同シ

第七條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身體検査票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ 但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類毎ニ別票ヲ用フモノトス

第八條 幼穉期ニ於テハ本令中尋常小學校第四條以下ノ兒童ノ身體検査ニ關スル規定ヲ準用ス 但シ胸圍及脊柱ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第九條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査ヲ行ハサルコトヲ得

他校ヨリ轉入シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ 身體検査票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ

第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若ハ其ノ保護者ニ示スヘシ 授業免除、就學勸導、就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要スヘキモノアルトキハ本人若ハ其ノ保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其ノ他必要ナル處置ヲ取ルヘシ

第七條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身體検査統計表ヲ調製シ其ノ年六月限リ直轄學校、公立私立ノ大學高等學校及專門學校ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 幼穉期ニ於テハ本令中尋常小學校第四條以下ノ兒童ノ身體検査ニ關スル規定ヲ準用ス 但シ胸圍及脊柱ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第九條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査ヲ行ハサルコトヲ得

附則 本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

附則 本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

附則 本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

附則 本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

Table with columns for School Name, Age, Sex, Date of Birth, and Physical Examination Status.

年	月	日	身長	體重	胸圍	視力	屈折力		色
							右	左	

一、シテ身長一五七・〇センチメートル、體重四八・八キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・三一一以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

二、シテ身長一四三・〇センチメートル、體重三九・四キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・二七四以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

三、前各號ニ於ケル被檢者ノ身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カノ計算ハ小數第三位ニ止メ第四位以下ハ切捨ツルモノトス

學生生徒兒童身體檢查統計表 (男女) (昭和 年 月 検査)

年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

眼	聴	歯	皮膚	その他

年	身長	體重	胸圍	視力		色	眼疾	聴力	歯	皮膚	その他
				正視	遠視						

一、用紙ノ大サハ幅二十六センチメートル長サ三十八センチメートルトス

二、本表ハ男女別學科部類別ニ調製スヘシ

三、一年齡ハ四月一日ノ計算ニ依リ滿六年一日以上滿七年迄ノ者ヲ七年トシ其ノ他之ニ準ス

四、一、身長、胸圍ニ係ル總長、體重ニ係ル總重ノ各欄ニハ執レモ同一一年齡ニ於ケル各被檢人員ノ身長、胸圍又ハ體重ノ各合計ヲ掲ケ平均ノ各欄ニハ其被檢人員ヲ以テ總長又ハ總重ヲ除シタル商カヲ掲ケヘシ

五、一、視力及屈折狀態ニ就テハ兩眼ノ欄ニハ兩眼トモ正視、遠視、近視、若ハ亂視及ヒ其ノ他ノ者ノ人員ヲ掲ケ一、眼ノ欄ニハ一、眼ノミ正視、遠視、近視、若ハ亂視及ヒ其ノ他ノ者ノ人員ヲ掲ケヘシ

六、一、色辨ニ就テハ異常者ノ數及ヒ被檢人員ヲ記スヘシ

七、一、尋常小學校第四學年以下ノ兒童及幼稚園幼兒ニ在リテハ視力及屈折、狀態、色辨並ニ聴力ハ之ヲ本表ニ計入スルヲ要セス

八、一、其ノ他ノ疾病異常欄ニ不足ヲ生シタルトキハ附屬ヲ以テ之ヲ補フヘシ

九、一、前項ノ外本表ニ記入スヘキ項目ノ一部ノ検査ヲ缺キタル者ハ之ヲ表中ニ計入スヘカラス

十、一、外國人ニ係ルモノハ之ヲ計入スヘカラス

十一、一、備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ關シ説明ヲ要スル事項其ノ他特ニ必要ト認メタル事項ヲ記入スヘシ

一、本表ノ成績ニ關シ學校衛生ニ於テ學校衛生上意見アルトキハ之ヲ表末ニ附記スヘシ

二、學生生徒兒童身體檢查規程ニ依リ發育概評決定標準

昭和二年三月十二日
文部省訓令第二二號

直轄 學校
公立私立ノ大學高等學校及專門學校
北海道廳 府縣

發育概評決定標準
學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

一、七、年ヨリ十八年マテノ男子、七年ヨリ十六年マテノ女子ニ在リテハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カノ三者カ何レモ左記發育概評決定標準表ニ照シテ當該年齡ヨリ一年年長ノモノノ標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ一年年長ノモノノ標準以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルモノヲ丙トス

表中ニ掲ケサル年少者ニ關シテハ右ニ準シテ推定スルモノトス

二、十九年以上ノ男子ニ在リテハ身長一六〇・六センチメートル、體重五三・六キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ

〇・三三四以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長一五七・〇センチメートル、體重四八・八キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・三一一以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

十七年以上ノ女子ニ在リテハ身長一四八・五センチメートル、體重四六・八キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・三一五以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セス

三、前各號ニ於ケル被檢者ノ身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カノ計算ハ小數第三位ニ止メ第四位以下ハ切捨ツルモノトス

發育概評決定標準表

年齢	男			女		
	身長	體重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ	身長	體重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ
一七年	一五七・〇	四八・八	〇・三〇七	一四七・九	四三・一	〇・三〇九
一六年	一五二・七	四四・五	〇・二九一	一四三・七	四〇・七	〇・二九一
一五年	一四六・四	三八・三	〇・二六一	一三九・九	三九・〇	〇・二七一
一四年	一三九・四	三三・六	〇・二四一	一三三・四	三三・七	〇・二四九
一三年	一三三・六	二九・九	〇・二二四	一二九・三	三〇・八	〇・二二八
一二年	一二八・八	二七・一	〇・二一〇	一二五・五	二七・〇	〇・二一〇
一一年	一二四・九	二四・九	〇・一九九	一二一・六	二四・三	〇・一九七
一〇年	一二〇・三	二二・九	〇・一九〇	一一八・八	二二・一	〇・一八八
九年	一一五・八	二〇・〇	〇・一八二	一一四・三	二〇・二	〇・一七七
八年	一一一・二	一七・五	〇・一七三	一一〇・七	一八・四	〇・一六八
七年	一〇六・七	一五・〇	〇・一五六	一〇七・五	一六・九	〇・一六〇
六年	一〇二・七	一三・〇	〇・一五六	一〇三・五	一五・四	〇・一五二

- 一 浸水ノ汚物ヲ被リタル學校ニ在リテハ速ニ左ノ清潔方法ヲ行フヘシ
 - (イ) 水ニ浸サレタル校舎、寄宿舎ハ成ルヘク其ノ家具、床板等ヲ取り外シ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ圖リ床下ノ汚物、泥土ヲ除去シ十分乾燥セシムヘシ
 - (ロ) 建具、床板、校具、腰羽目等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後成ルヘク之ヲ日光ニ曝シ十分乾燥セシムヘシ
 - (ハ) 浸水ノ汚物ヲ被リタル井戸ハ之ヲ浸深シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ學校傳染病預防規程第十八條ニ準シ消毒方法ヲ行フヘシ
 - (ニ) 右ノ外日常又ハ定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜準用スヘシ
- 二 前項以外ノ災害其ノ他公衆ノ集合等ニ依リ不潔トナリタル校舎等ニツキテハ夫夫適當ナル清潔方法ヲ行フヘシ

明治三十年文部省訓令第一號ハ之ヲ廢止ス

●學校規則

- 第一條 官立學校ニ學校醫ヲ置ク公立學校ニハ特別ノ事情アルトキハ當分ノ內學校醫ヲ置カサルコトヲ得
- 第二條 學校醫ハ醫師規則ニ依リ醫師ノ免許ヲ受ケタル者ナルコトヲ要ス
- 第三條 學校醫ハ官立學校ニ在リテハ朝鮮總督、公立學校ニ在リテハ道長官之ヲ囑託ス
- 第四條 學校醫ノ手當ハ其ノ學校經費ヨリ支給スヘシ
- 第五條 學校醫ハ毎月少クモ一回教授時間內ニ於テ當該學校ニ到リ教室及寄宿舎等ノ衛生上ノ事項ヲ觀察シ其ノ要領ヲ觀察簿ニ記入スヘシ

●學校生徒兒童身體檢查規程

大正十五年五月十七日
朝鮮總督府令第八十六號
修正 昭和二年第三七號
學校生徒兒童身體檢查規程左ノ通定ム

- 一 學校生徒兒童身體檢查規程
 - 第一條 學校生徒兒童身體檢查ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得
 - 第二條 監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ身體檢查ノ全部又ハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得
 - 第三條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ但シ學校醫ナキ場合又ハ學校醫カ身體檢查ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ臨時ニ檢査醫ヲ囑託シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得
 - 第四條 學校醫又ハ臨時檢査醫ナキ學校ニ於テハ其ノ職員ヲシテ生徒兒童ノ發育(身長、體重、胸圍、腕圍)ニ就キ身體檢查ヲ行ハシムヘシ
 - 第五條 身體檢查ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除ク外大正九年文部省令第十六號學生生徒兒童身體檢查規程ヲ準用ス
 - 第六條 生徒兒童ノ發育檢査ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムヘシ
 - 一 七年以上十八年マテノ男子、七年ヨリ十六年マテノ女子ニ在リテハ檢査者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ三者カ何レモ別表發育檢査決定標準表ニ照シテ當該年齢ヨリ一年年長ノモノ標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セシテ一年年少ノモノノ標準以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルモノヲ丙トス
 - 別表中ニ掲ケサル年少者ニ關シテハ右ニ準シテ推定スルモノトス
 - 二 十九年以上ノ男子ニ在リテハ身長一六〇センチメートル、體重五三・二六キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル

發育檢査決定標準表

年齡	男			女		
	身長	體重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商	身長	體重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
七	112.7	16.0	1.156	107.7	15.5	1.141
八	117.2	17.5	1.175	112.7	16.0	1.141
九	121.7	19.0	1.194	117.2	17.5	1.141
一〇	126.2	20.5	1.213	121.7	19.0	1.141
一一	130.7	22.0	1.232	126.2	20.5	1.141
一二	135.2	23.5	1.251	130.7	22.0	1.141
一三	139.7	25.0	1.270	135.2	23.5	1.141
一四	144.2	26.5	1.289	139.7	25.0	1.141
一五	148.7	28.0	1.308	144.2	26.5	1.141
一六	153.2	29.5	1.327	148.7	28.0	1.141
一七	157.7	31.0	1.346	153.2	29.5	1.141
一八	162.2	32.5	1.365	157.7	31.0	1.141
一九	166.7	34.0	1.384	162.2	32.5	1.141

- 第七條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體檢查ヲ行ハサルコトヲ得
- 第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

年齡	身長	體重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
六	107.7	15.5	1.141
七	112.2	17.0	1.156
八	116.7	18.5	1.171
九	121.2	20.0	1.186
一〇	125.7	21.5	1.201
一一	130.2	23.0	1.216
一二	134.7	24.5	1.231
一三	139.2	26.0	1.246
一四	143.7	27.5	1.261
一五	148.2	29.0	1.276
一六	152.7	30.5	1.291
一七	157.2	32.0	1.306
一八	161.7	33.5	1.321
一九	166.2	35.0	1.336

●學校傳染病預防及消毒方法

大正八年四月八日
朝鮮總督府令第六十號
學校傳染病預防及消毒方法左ノ通定ム

- 第一章 預防方法
 - 第一條 學校ニ於テ特ニ預防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ
 - 第一類 痘瘡及假痘、チフス、猩紅熱、發疹チフス、ペスト、流行性腦脊髄膜炎
 - 第二類 百日咳、麻疹、流行性感冒、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、肺結核、痢疾
 - 第三類 赤痢、コレラ、腸チフス、バラチフス
 - 第四類 傳染性皮膚病、傳染性眼炎
 - 第二條 第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒ハ昇校スルコトヲ得ス
- 第二章 消毒方法
 - 第一條 前項ノ職員生徒其ノ傳染病治療シタル後昇校セムトスルトキハ先ツ全身浴ヲ行ヒテ衣服ヲ更メ且醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキコトヲ證明スルコトヲ要ス
 - 第二條 第一類乙又ハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒其ノ病況ニ依リ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニ昇校スルコトヲ得
 - 第三條 第一類甲若ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル者アルトキ又ハ學校內ニ第一類若ハ第二類ノ傳染病發生シタル場合ニ於テ其ノ患者、屍體、病室ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ニ接觸シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニ昇校スルコトヲ得
 - 第四條 職員生徒等ニシテ家族若ハ同居人中者アルトキ又ハ學校內ニ第一類若ハ第二類ノ傳染病發生シタル場合ニ於テ其ノ患者、屍體、病室ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ニ接觸シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニ昇校スルコトヲ得
 - 第五條 職員會堂等學校內ニ於テ傳染病ニ罹リタル者又ハ其ノ疑アル者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ學校長ニ申告スヘシ學校長ハ學校醫其ノ他ノ醫師ヲシテ診斷セシメ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

別表

年齡	男			女		
	身長	體重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商	身長	體重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
七	112.7	16.0	1.156	107.7	15.5	1.141
八	117.2	17.5	1.175	112.7	16.0	1.141
九	121.7	19.0	1.194	117.2	17.5	1.141
一〇	126.2	20.5	1.213	121.7	19.0	1.141
一一	130.7	22.0	1.232	126.2	20.5	1.141
一二	135.2	23.5	1.251	130.7	22.0	1.141
一三	139.7	25.0	1.270	135.2	23.5	1.141
一四	144.2	26.5	1.289	139.7	25.0	1.141
一五	148.7	28.0	1.308	144.2	26.5	1.141
一六	153.2	29.5	1.327	148.7	28.0	1.141
一七	157.7	31.0	1.346	153.2	29.5	1.141
一八	162.2	32.5	1.365	157.7	31.0	1.141
一九	166.7	34.0	1.384	162.2	32.5	1.141

- 第六條 學校內、學校所在地及其ノ附近又ハ生徒通學區域內ニ於テ第一類及第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其ノ病況ニ依リ必要ニ應ジ全校又ハ其ノ一部ヲ閉鎖スヘシ
- 第七條 學校所在地又ハ其ノ附近ニ於テ第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ充分ナル清潔方法ヲ施行シ預防方法ヲ講スヘシ
- 第八條 學校所在地又ハ其ノ附近ニ於テ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用ユヘシ
- 第九條 生徒通學區域內ニ於テ第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其ノ病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其ノ地方ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得
- 第十條 前項ニ依リ通學生徒ノ昇校ヲ停止シタル場合ニ於テハ學校長ヨリ直ニ其ノ旨ヲ監督官廳ニ届出ツヘシ
- 第十一條 傳染病ノ爲ニ閉鎖シタル學校又ハ其ノ會室ハ再び之ヲ使用スルニ先テ充分ナル清潔方法ヲ施行スヘシ
- 第十二條 消毒方法
 - 第一類ノ傳染病患者ノ用ニタル嘔吐器、第一類ノ傳染病患者ノ入りタル便所、其ノ他障壁、牀、疊、建具、廢棄物、器具等ハ昇水水、石炭酸水、アイゼル溶液、タレゾール水、又ハフホルマリン水ヲ以テ消毒スヘシ
 - 第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他ノ排泄物ハ生石灰末又ハ石灰乳ヲ以テ消毒スヘシ
 - 第三類ノ傳染病患者ハ煮沸消毒又ハ蒸氣消毒ニ付スヘシ
 - 第四類ノ傳染病ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ燒却スヘシ
 - 第五類ノ消毒ニ適セサルモノハ、アゾールアルデヒドニ依リ消毒スルカ又ハ刷掃シテ數日間日光ニ曝スヘシ
 - 第三類ノ傳染病患者發生シ其ノ病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適當ノ消毒方法ヲ應用スヘシ
 - 第十一條 消毒ニ供スル藥劑其ノ應用ハ左ノ如シ
 - 一 石炭酸水(約三十三倍)ハ結晶石炭酸三分ニ普通食鹽五分、水九十二分ヲ加ヘ攪拌シ完全ニ水ニ溶解セシメテ之ヲ製ス
 - 二 石炭酸水ハ屍體、吐瀉物、其ノ他ノ排泄物、器具、居室、手足等ノ消毒ニ用ウ又衣服等ヲ消毒スルニハ二時間以上浸漬スルコトヲ要ス
 - 三 アイゼル溶液(百倍)ハアイゼル液一分ニ水九十九分ヲ加ヘ攪拌シ完全ニ水ニ溶解セシメテ之ヲ製ス
 - 四 タレゾール水(約十七倍)ハタレゾール石鹼液六分ニ水九十四分ヲ加ヘ攪拌シ完全ニ水ニ溶解セシメテ之ヲ製ス
 - 五 昇水水(約千倍)ハ昇水一分ヲ千分ノ水ニ溶解シ食鹽一分ヲ加ヘ攪拌シテ之ヲ製ス
 - 六 昇水水ハ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲危險ヲ招キ易キヲ以テ適當ノ色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシム且使用時貯藏ノ際充分ニ注意シ貯藏ニハ金屬製ノ器ヲ使用スヘカラス
 - 七 昇水水ハ手足、陶器、硝子器、木製器具又ハ室内ノ消毒ニ適ス飲食用器具、玩具ノ消毒、飲料水ニ透過スヘキ場所ノ消毒及金屬製品、糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用ウヘカラス
 - 八 生石灰末ハ生石灰ニ少量ノ水ヲ澆キ刷

ス但シ同令中第二條第二項及第三項第六條及第九條ハ之ヲ準用セシメ又同令中市區町村長ノ職務ハ監督官職之ヲ行フ

(別記)

Table with columns: 病名, 新患者数, 舊患者数, 治癒, 死亡, 休學, 退學, 現在患者数. Includes a sub-table for 何々學校寄宿舎傳染病患者報告書.

右報告ス 年月日 宛

一 初發及續發ノ場合ハ即時之ヲ報告スヘシ 二 前報ノ場合ハ疾病ノ經過、感染經過、發病以來ノ處置、將來執ラムトスル處置其ノ他參考トナルヘキ事項等ニ就キ別紙ニ記載シテ添附スヘシ但續發ノ場合ニ於テ彙ニ報告シタルモノハ重テ記載スルヲ要セス

●學校醫規則

大正十年四月十日 樺太廳令第十六號 改正 大正一四年第三號 學校醫規則左ノ通定ム

五 職員、生徒、兒童ノ健康狀態 六 病者、遺弱者、精神薄弱者等ノ監督、養護ニ關スル事項 七 清潔ニ關スル事項 八 飲料水及飲食物ニ關スル事項 九 其ノ他衛生上必要ナル事項

●生徒兒童身體檢查規程

大正十年四月十日 樺太廳令第十七號 改正 昭和二年第一七號 生徒兒童身體檢查規程左ノ通定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フコトヲ得色神検査ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

Table for 身體檢查票 (Physical Examination Form) with columns for school name, student name, age, sex, and various health indicators like vision, hearing, and dental status.

(校名)生徒児童身體検査統計表(男女) (昭和 年 月検査)

Table with columns for year, sex, and various physical measurements (height, weight, chest, vision, hearing, etc.). Rows represent different schools and years.

身體検査統計表說明

一用紙ノ大サハ幅二十六センチメートル長サ三十八センチメートルトス
一本表ハ男女別ニ別製スヘシ
一年齡ハ四月一日ノ計算ニ依リ滿六年一日以上滿七年迄ノ者ヲ七年トシ其ノ他ニ準ス

學生生徒児童身體検査規程

昭和三年五月五日
附則(昭和三年)第十六號

第一條 開東州内ノ官立學校及在外指定學
校ハ本令ノ規定ニ依リ毎年四月學生生徒兒
童ノ身體検査ヲ施行スヘシ但シ巴ムコト得
ル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ
得

Table with columns for age (年), height (身長), weight (體重), and sex (男/女). Rows represent years from 1919 to 1910.

別表ノ二

Table with columns for age (年), height (身長), weight (體重), and sex (男/女). Rows represent years from 1919 to 1910.

Table with columns for age (年) and height (身長). Rows represent years from 1919 to 1910.

(第一號樣式)



Table with columns for school name (學校名), student name (氏名), sex (男女), birth date (年月日), and physical measurements (身長, 體重, 胸圍, 肺活量).

Table with columns for vision (視力), hearing (聴力), and other health indicators (色, 屈折状態, 耳, 齒, 其ノ他ノ疾病異常).

Table with columns for school name (學校名), student name (氏名), sex (男女), birth date (年月日), and physical measurements (身長, 體重, 胸圍, 肺活量).

(第二號樣式)

(注意事項)

- List of instructions for the physical examination process, including age ranges and measurement methods.

(注意事項)

Large table with multiple columns for physical measurements (身長, 體重, 胸圍) and health indicators (視力, 聴力, 色, 屈折状態, 耳, 齒, 其ノ他ノ疾病異常).

- List of instructions for the physical examination process, including age ranges and measurement methods.

第五條 帝國政府 博物館 寄託スル社寺什
物ノ荷造及運搬費ハ津テ該館ニ於テ之ヲ支
拂ハシ
第六條 受託社寺什物修繕ノ要否及其方法順
序ハ一當該博物館長ノ見込ニ依リ其修繕
ヲ加ヘントスルトキハ該社寺ノ承認ヲ
經テ着手ス
第七條 修繕ハ博物館内ニ於テ之ヲ爲シ館長
之ヲ監督スルモノトス
但品柄ニヨリテハ確實ナル工人ニ附シ其
工場ニ於テ之ヲ爲サシムルコトアルヘシ
第八條 第三條ノ分典金ハ寄託什物ノ點數ニ
應ジテ之ヲ分典スルモノトシ左ノ割合ニ依
リテ之ヲ算出ス
但臨時全國實物取調局ニ於テ鑑定未済
ノモノハ其鑑定確定マテ假令(帝國)政府
博物館ニ於テ相當ノ部ニ編入スルモノト
ス
一 臨時全國實物取調局ニ於テ優等ノ鑑
査狀ヲ附與セシモノ
二 臨時全國實物取調局ニ於テ中等ノ鑑
査狀ヲ附與セシモノ
三 臨時全國實物取調局ニ於テ劣等ノ鑑
査狀ヲ附與セシモノ
右一點ヲ以テ三ニ當ツ
右一點ヲ以テ二ニ當ツ
右一點ヲ以テ一ニ當ツ
第九條 點數ノ計算法數額ヲ合シテ一點ヲ
スモノハ五箇未滿ハ一點トシ五箇以上二十
箇未滿ハ二點トシ二十箇以上ハ津テ三點ト
ス
但五箇以上ヲ以テ一點ヲナスモノト雖其
全部ヲ出サハルトキハ實際ノ點數ニヨリ
之ヲ算出ス
小備ヲ一箇ニ納メ又ハ一臺ニ附著セシモノ
等ハ其蓋若クハ臺ノ員數ニ依リテ之ヲ算ス
ヘシ
第十條 分典金ノ割合ハ當期分ノ總額ヲ寄託
品ノ總當數ニテ除シ當一ノ得ル所ヲ積算シ
テ之ヲ定ムルモノトス
但當一得ル所ノ金ニ未滿ノ總當數アルト
キハ單位ニ止ム
第十一條 分典金ハ前年十二月ヨリ其ノ年十

第五章 國寶保存

大正十年閣議令第二十六號ハ之ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ國寶保存法ヲ裁可
シ茲ニ之ヲ公布セシム(大正十年七月二十八日
閣議)

國寶保存法
第一條 建造物、實物其ノ他ノ物件ニシテ特
ニ歴史ノ證據又ハ美術ノ模範ト爲ルベキモ
ノハ主務大臣國寶保存會ニ諮問シ之ヲ國寶
トシテ指定スルコトヲ得
第二條 主務大臣前條ノ規定ニ依リ指定ヲ爲
シタルトキハ其ノ旨ヲ官報ヲ以テ告示シ且
當該物件ノ所有者ニ通知ス
第三條 國寶ハ之ヲ輸出又ハ移出スルコトヲ
得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ
此ノ限ニ在ラズ
第四條 國寶ノ現狀ヲ變更セントスルトキハ
主務大臣ノ許可ヲ受ケタル但シ維持修理ヲ
爲スハ此ノ限ニ在ラズ
第五條 主務大臣前條ノ規定ニ依リ許可ヲ
爲サントスルトキハ國寶保存會ニ諮問スベシ
第六條 國寶ノ所有者ニ付變更アリタルトキ
ハ命令ノ定ムル所ニ依リ所有者ヨリ主務大
臣ニ届出ヲ爲サシメ國寶滅失又ハ毀損シタ
ルトキ亦同ジ
第七條 國寶ノ所有者ハ主務大臣ノ命令ニ依
リ一年ノ期間ヲ限リ帝室、官立又ハ公立
ノ博物館又ハ美術館ニ其ノ國寶ヲ出陳スル
義務アルモノトス但シ祭祀法用又ハ公務執
行ノ爲必要アルトキ其ノ他已ムコトヲ得ザ
ル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ命令ニ對シテ不服アル者ハ訴願ヲ爲
スコトヲ得
第八條 前條ノ規定ニ依リテ國寶ヲ出陳シタ
ル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ國庫
ヨリ補助金ヲ交付ス
第九條 第七條ノ規定ニ依リテ出陳シタル國
寶其ノ出陳中滅失又ハ毀損シタルトキハ命
令ノ定ムル所ニ依リ國庫ヨリ其ノ所有者ニ
對シテ通常生ズベキ損害ヲ補償ス但シ不可抗

一月マテ計算シ十二月ニ之ヲ交付スヘシ
第十二條 分典金ノ計算ハ出品シタル月ヨリ
之ヲ起算シ返付シタル月ハ之ヲ算入セス
祭典又ハ法會ノタメ一時物品ヲ取出シ二週
日ニ及テ之ヲ返付セザルトキハ之ニ對スル
一箇月分ノ分典金ヲ控除スヘシ
第十三條 前各條ノ取扱ハ博物館ヨリ請求シ
テ寄託セシタルモノト別ニヨリテ異ナルコトヲ
認シタルモノト別ニヨリテ異ナルコトヲ
認シ
第十四條 本規則ニ定ムル外寄託物品ニ關
スル手續ハ津テ(帝國)政府博物館出品規
則ニ依ル
● 通信博物館陳列品寄贈及出品
手續
明治四十四年五月十三日
閣議令第二十七號
改正 大正十一年六月六日
當省管内通信博物館(郵便、電信、電話、船舶、
電氣其ノ他海陸運送交通ニ關スル内外古今ノ
文書圖書物品等)寄贈又ハ出品スル場合ノ手
續左ノ通定メテ
一 通信博物館陳列品寄贈及出品手續
寄贈又ハ出品セントスルモノハ直接通信
博物館又ハ最寄郵便局若クハ通信局ヲ經
テ出品又ハ最寄郵便局若クハ通信局ヲ經
テ出品名、形狀、容積、重量、所傳來歴等ヲ
詳細シタル書面ヲ通信博物館長ニ宛テ差
出サルヘシ但シ運搬費ヲ要求セザルル向
ハ其ノ概定額ヲモ附記シ要ス
二 通信博物館ニ於テ前項申出ニ接シタルト
キハ直ニ審查ノ上直接若クハ經由局ヲ經
テ其ノ要否ヲ申出人ニ通告スヘシ
三 前項ニ由リ寄贈又ハ出品通告書ニハ其ノ
物品ヲ提出スヘキ局所ヲ附記スヘキニ依
リ申出人ニ於テ右通告ヲ受ケタルトキハ
遠隔ノ地ヨリ現品ヲ提出セザルヘシ但シ
費用ハ通信博物館ニ於テ之ヲ支辨スルコ
トアルヘシ
● 關東廳博物館出品並觀覽規則
明治十三年七月二十三日
閣議令第三十號

國寶保存法施行令

昭和四年六月二十九日
閣令第二十七號

國寶保存法施行令
第一條 國寶保存法第七條ノ規定ニ依リテ國
寶ヲ官立又ハ公立ノ博物館又ハ美術館ニ出
陳セシタルトキハ當該博物館長又ハ美術館
ノ長、當該博物館又ハ美術館ノ長、故障アル
トキハ當該職制ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務
ヲ代理スル者ニ於テ出陳國寶ヲ管理ス
前項ノ管理ニ關シテハ文部大臣之ヲ監督
ス
第二條 國寶保存法第七條ノ規定ニ依リテ博
物館又ハ美術館ニ出陳シタル國寶又ハ美術
館ニ於テ負擔費等ハ當該博物館又ハ美術
館ニ於テ負擔スルモノトシ返送ニ要スル荷
運運搬費等亦同ジ
第三條 國寶保存法第十四條ノ規定ニ依リテ
補助金ノ交付ヲ受ケタル國寶ノ維持修理ニ
關シテハ文部大臣之ヲ監督ス
文部大臣前項ノ規定ニ依リテ地方長官
ニ委任スルコトヲ得
第四條 文部大臣國寶ノ所有ニ屬スル物件ヲ國
寶トシテ指定シタルトキハ其ノ旨ヲ官報ヲ
以テ告示シ且當該物件ノ所管大臣ニ通知ス
ベシ國寶ノ所有ニ屬スル國寶ノ指定解除ヲ爲
シタルトキ亦同ジ
第五條 國寶ノ所有ニ屬スル國寶ヲ處分
シ、輸出若クハ移出シタルトキハ其ノ現狀ヲ變更セ
ントスルトキハ所管大臣ニ於テ文部大臣ノ
同意ヲ得ベシ
第六條 文部大臣前條ノ規定ニ依リテ同意ヲ爲
サントスルトキハ國寶保存會ニ諮問スベシ
第七條 國寶ノ所有ニ屬スル國寶ニ付滅失、毀
損又ハ管理誤アリタルトキハ其ノ旨ヲ所管
大臣ヨリ文部大臣ニ通知スベシ國寶國寶ヲ
取得シタルトキ亦同ジ
附則
本令ハ國寶保存法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十年勅令第四百十六號ハ之ヲ廢止ス

關東廳博物館出品並觀覽規則
第一條 公衆ノ觀覽ニ供スル目的ヲ以テ關東
廳博物館(以下ハ本館トシテ稱ス)ニ於テ陳
列品ヲ寄託シタル物品ヲ出品セムトスル
者ハ口頭又ハ書面ヲ以テ物品ノ名稱、數量、
性質、由緒及出品期間等ヲ具シ關東廳博物
館長ニ願出ツヘシ
第二條 關東廳博物館長ハ出品物ヲ制限シ又ハ出品
期間ヲ伸縮スルコトヲ得
第三條 出品物ノ荷造、輸送、保險及返送ニ要
スル費用ハ出品者ノ負擔トス但シ關東廳博物
館ノ勤務ニ因ル出品物ニ付テハ此ノ限ニ
在ラズ
第四條 關東廳博物館ニ於テ出品物ノ送付ヲ
受ケタルトキハ出品者ニ保管證ヲ交付ス
第五條 出品者ハ出品物ノ陳列ニ關シ異議ヲ
述フコトヲ得ズ
第六條 出品者ハ出品物ノ模寫、複製、攝影等ヲ
欲セザルトキハ該物品ノ旨ヲ關東廳博物館
ニ届出ツヘシ
第七條 出品物ニシテ天災其ノ他避テヘカラ
サル事故ニ因リ紛失若クハ毀損シタルモノハ其ノ保
管中自然ニ汚損スルコトアルモノ關東廳博物
館ニ於テ其ノ責ニ任セズ
第八條 關東廳博物館長ニ於テ出品物ノ總
化、減耗、融解等ノ爲陳列ニ適セズト認ムル
トキハ出品期間中ト雖之ヲ撤去スルコトヲ
得
第九條 出品物ノ返送ニ際シ引取人其ノ引取
ニ應セス又ハ引取人ナキ場合ニ於テハ關東
廳博物館長ニ於テ適宜其ノ處分ヲ爲スコト
ヲ得
第十條 公衆ノ觀覽ニ供スル目的ヲ以テ關東
廳博物館(以下ハ本館トシテ稱ス)ニ於テ陳
列品ヲ寄託シタル物品ヲ寄託セムトスル
者ハ左ノ事項ヲ具シ關東廳博物館長ヲ經由
シ關東廳官ニ願出ツヘシ
一 寄附物品ノ名稱、數量、品質、由緒及見
積價格
二 寄附者ノ原籍、住所、氏名
第十條 寄附物品ノ荷造、輸送、保險其ノ他ニ要ス
ル費用ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス
第十一條 關東廳博物館(以下ハ本館トシテ稱ス)ノ
如シ

國寶保存法施行令

昭和四年六月二十九日
閣令第二十七號

國寶保存法施行令
第一條 國寶保存法第七條ノ規定ニ依リテ國
寶ヲ官立又ハ公立ノ博物館又ハ美術館ニ出
陳セシタルトキハ當該博物館長又ハ美術館
ノ長、當該博物館又ハ美術館ノ長、故障アル
トキハ當該職制ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務
ヲ代理スル者ニ於テ出陳國寶ヲ管理ス
前項ノ管理ニ關シテハ文部大臣之ヲ監督
ス
第二條 國寶保存法第七條ノ規定ニ依リテ博
物館又ハ美術館ニ出陳シタル國寶又ハ美術
館ニ於テ負擔費等ハ當該博物館又ハ美術
館ニ於テ負擔スルモノトシ返送ニ要スル荷
運運搬費等亦同ジ
第三條 國寶保存法第十四條ノ規定ニ依リテ
補助金ノ交付ヲ受ケタル國寶ノ維持修理ニ
關シテハ文部大臣之ヲ監督ス
文部大臣前項ノ規定ニ依リテ地方長官
ニ委任スルコトヲ得
第四條 文部大臣國寶ノ所有ニ屬スル物件ヲ國
寶トシテ指定シタルトキハ其ノ旨ヲ官報ヲ
以テ告示シ且當該物件ノ所管大臣ニ通知ス
ベシ國寶ノ所有ニ屬スル國寶ノ指定解除ヲ爲
シタルトキ亦同ジ
第五條 國寶ノ所有ニ屬スル國寶ヲ處分
シ、輸出若クハ移出シタルトキハ其ノ現狀ヲ變更セ
ントスルトキハ所管大臣ニ於テ文部大臣ノ
同意ヲ得ベシ
第六條 文部大臣前條ノ規定ニ依リテ同意ヲ爲
サントスルトキハ國寶保存會ニ諮問スベシ
第七條 國寶ノ所有ニ屬スル國寶ニ付滅失、毀
損又ハ管理誤アリタルトキハ其ノ旨ヲ所管
大臣ヨリ文部大臣ニ通知スベシ國寶國寶ヲ
取得シタルトキ亦同ジ
附則
本令ハ國寶保存法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十年勅令第四百十六號ハ之ヲ廢止ス

一 紀元節、天皇節、明治節
二月曜日 但シ前號以外ノ祝祭日ニ當ル
トキハ特ニ開館ス
三 始政記念日
四月二十八日ヨリ翌年一月三日迄
五月末日
第十二條 關東廳博物館(以下ハ本館トシテ稱ス)ノ開館時間左
ノ如シ
一 四月一日午前八時ヨリ午後四時迄
二 四月一日午前九時ヨリ午後四時迄
三 三月三十一日午前九時ヨリ午後四時迄
關東廳博物館長ニ於テ必要アルトキハ前項
ノ日時ヲ變更シ又ハ觀覽ヲ停止スルコトヲ
得
第十三條 關東廳博物館(以下ハ本館トシテ稱ス)ノ陳列品ヲ觀
覽セムトスル者ハ觀覽料ヲ納付スヘシ但シ
學生生徒兒童及七歳未滿ノ小兒及關東廳博
物館長ヨリ無料入場ノ許可ヲ得タル者ハ此
ノ限ニ在ラズ
第十四條 本館及記念館各一人一回金十錢ト
ス但シ二十人以上ノ團體ニ付テハ其ノ半額
トス
第十五條 陳列品ヲ模寫、複製、攝影又ハ特別
ノ方法ニ依リ觀覽セムト欲スル者ハ其ノ物
品ヲ指定シ特別觀覽料ヲ納付スヘシ
第十六條 特別觀覽料ハ一日ニ付金五十錢トス
第十七條 觀覽者ハ寄附品ヲ携行シ又ハ杖、傘、
荷物等ヲ携帶シテ入館スルコトヲ得ズ
第十八條 觀覽者ハ所定ノ場所以外ニ於テ喫
煙又ハ喧嘩ヲ爲スコトヲ得ズ
第十九條 觀覽者ハ陳列品ニ觸ルコトヲ得
ズ但シ第十四條ノ場合ニ於テ特ニ關東廳博
物館長ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラ
ズ
第二十條 觀覽者陳列品又ハ備附器具等ヲ破
損シタルトキハ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ
前項ノ規定ニ依リ賠償額ハ關東廳博物館長
ノ認定ニ依ル
第二十一條 關東廳博物館長ニ於テ館内ノ秩序
ヲ紊リ又ハ素行ノ虞アリト認ムル者ハ入館
ヲ拒絕シ又ハ退館セシムルコトアルヘシ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國寶保存法施行令

昭和四年六月二十九日
閣令第二十七號

國寶保存法施行令
第一條 國寶保存法第七條ノ規定ニ依リテ國
寶ヲ官立又ハ公立ノ博物館又ハ美術館ニ出
陳セシタルトキハ當該博物館長又ハ美術館
ノ長、當該博物館又ハ美術館ノ長、故障アル
トキハ當該職制ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務
ヲ代理スル者ニ於テ出陳國寶ヲ管理ス
前項ノ管理ニ關シテハ文部大臣之ヲ監督
ス
第二條 國寶保存法第七條ノ規定ニ依リテ博
物館又ハ美術館ニ出陳シタル國寶又ハ美術
館ニ於テ負擔費等ハ當該博物館又ハ美術
館ニ於テ負擔スルモノトシ返送ニ要スル荷
運運搬費等亦同ジ
第三條 國寶保存法第十四條ノ規定ニ依リテ
補助金ノ交付ヲ受ケタル國寶ノ維持修理ニ
關シテハ文部大臣之ヲ監督ス
文部大臣前項ノ規定ニ依リテ地方長官
ニ委任スルコトヲ得
第四條 文部大臣國寶ノ所有ニ屬スル物件ヲ國
寶トシテ指定シタルトキハ其ノ旨ヲ官報ヲ
以テ告示シ且當該物件ノ所管大臣ニ通知ス
ベシ國寶ノ所有ニ屬スル國寶ノ指定解除ヲ爲
シタルトキ亦同ジ
第五條 國寶ノ所有ニ屬スル國寶ヲ處分
シ、輸出若クハ移出シタルトキハ其ノ現狀ヲ變更セ
ントスルトキハ所管大臣ニ於テ文部大臣ノ
同意ヲ得ベシ
第六條 文部大臣前條ノ規定ニ依リテ同意ヲ爲
サントスルトキハ國寶保存會ニ諮問スベシ
第七條 國寶ノ所有ニ屬スル國寶ニ付滅失、毀
損又ハ管理誤アリタルトキハ其ノ旨ヲ所管
大臣ヨリ文部大臣ニ通知スベシ國寶國寶ヲ
取得シタルトキ亦同ジ
附則
本令ハ國寶保存法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十年勅令第四百十六號ハ之ヲ廢止ス

ヲ茲ニ定制ニ遵ヒ元號ヲ建テ大正十五年十二月二十五日以後ヲ改メテ昭和元年ト爲ス

昭和元年十二月二十五日 內閣會議第一號 元號ノ稱呼左ノ如シ

改曆ノ詔書竝太陽曆頒布 今般改曆ノ儀別紙 詔書ノ通被 仰出候條此旨相違候事

詔書竝 朕惟フニ我邦通行ノ曆タル太陽ノ制蓋テ以テ月ヲ立テ太陽ノ位置ニ合フ故ニ三年間必ス

一今般太陽曆ヲ廢シ太陽曆御頒行相成候ニ付來ル十二月三日ヲ以テ明治六年一月一日ト

但新曆頒布出來次第頒布候事 一一年三百六十五日十二月二ヶ月二分チ四年

一時刻ノ儀是迄晝夜長短ニ隨ヒ十二時ニ相分チ候處今般改曆時辰儀時刻晝夜平分二十四

一時刻ノ儀是迄晝夜長短ニ隨ヒ十二時ニ相分チ候處今般改曆時辰儀時刻晝夜平分二十四

何時ト可報事 一諸祭典等舊曆月日ヲ新曆月日ニ相當シ施行

Table with columns for month and day, listing dates for the new solar calendar (e.g., 一月大 三十一日, 二月小 二十八日).

可致事 類曆世上ニ流布候題無謂事ニ候自今弘曆者之

本曆略本曆頒布及一枚摺略曆 出版方 本曆略本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ

一枚摺略曆出版ノ規定 明治十五年四月八日 文部省告示第一九號

本初子午線經度計算方及標準時ノ件 朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可

弘曆者ノ外頒曆取扱ヲ禁ス 須曆授時之儀ハ至重之典章ニ候處近來種々之

閏年ニ關スル件 朕閏年ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

朝鮮標準時 朝鮮標準時ハ明治四十五年一月一日ヨリ中

關東廳管内標準時 關東廳管内ノ標準時ハ明治四十年五月

海軍艦船使用時規則 海軍艦船使用時規則左ノ通定ム

天文臺大子午儀ノ中心經度ノ值ヲ定ム 大正七年九月十九日

子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標準時ト定ム

標準時ニ關スル件 朕標準時ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

第一條 帝國從來ノ標準時ハ自今之ヲ中央標準時トス

第二條 東經百二十度ノ子午線ノ時ヲ以テ臺灣及澎湖列島並ニ八重山及宮古列島ノ標準

類曆世上ニ流布候題無謂事ニ候自今弘曆者之外取扱候儀一切嚴禁被 仰出候事

本曆略本曆頒布及一枚摺略曆 出版方 本曆略本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ

一枚摺略曆出版ノ規定 明治十五年四月八日 文部省告示第一九號

本初子午線經度計算方及標準時ノ件 朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可

弘曆者ノ外頒曆取扱ヲ禁ス 須曆授時之儀ハ至重之典章ニ候處近來種々之

閏年ニ關スル件 朕閏年ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

朝鮮標準時 朝鮮標準時ハ明治四十五年一月一日ヨリ中

關東廳管内標準時 關東廳管内ノ標準時ハ明治四十年五月

海軍艦船使用時規則 海軍艦船使用時規則左ノ通定ム

天文臺大子午儀ノ中心經度ノ值ヲ定ム 大正七年九月十九日

子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標準時ト定ム

標準時ニ關スル件 朕標準時ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

第一條 帝國從來ノ標準時ハ自今之ヲ中央標準時トス

第二條 東經百二十度ノ子午線ノ時ヲ以テ臺灣及澎湖列島並ニ八重山及宮古列島ノ標準

第三條 本令ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス

第三條 艦船公海ニ在ルトキハ其ノ所在時刻帶ノ使用時ヲ使用ス

第四條 艦船公海ニ在ルトキハ其ノ所在時刻帶ノ使用時ヲ使用ス

Table with columns for time zone (時刻帶) and location (地), listing various time zones and their corresponding locations.

第一條 帝國從來ノ標準時ハ自今之ヲ中央標準時トス 第二條 東經百二十度ノ子午線ノ時ヲ以テ臺灣及澎湖列島並ニ八重山及宮古列島ノ標準

第三條 艦船公海ニ在ルトキハ其ノ所在時刻帶ノ使用時ヲ使用ス 第四條 艦船公海ニ在ルトキハ其ノ所在時刻帶ノ使用時ヲ使用ス

Table with columns for longitude (經度) and latitude (緯度), listing various coordinates and their corresponding time zones.

ウヘシ但シ氣象用自記諸機械ニハ自記用紙測定ノ際ニ於ケル...

Table with columns: 所在ノ地帯及港灣, 時刻, 記, 例. It lists observation times for various locations like Tokyo and Osaka.

附則 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七章 氣象

氣象臺測候所條例

第一條 東京ニ中央氣象臺ヲ置キ地方便宜ノ場所ニ地方測候所ヲ置ク...

第六條 本條例施行ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

氣象臺測候所條例施行細則

第一條 氣象臺測候所條例施行細則左ノ通改正ス...

動物報告 植物報告 管内氣象報告 臨時氣象報告...

第二條 地方測候所ノ敷地建物ヲ變更セントスルトキハ...

第九條 測候所長ハ左ノ各號ノ事項ヲ中央氣象臺長ニ通知ス...

測候所規程

第一條 測候所ヲ設立セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ...

第十三條 中央氣象臺長ノ定メタル標式ニ依リ地方暴風警報ヲ表示ス...

第十四條 郡市町村又ハ私人ニ於テ新ニ地方暴風警報信標ヲ設立セントスルトキハ...

第十五條 地方暴風警報信標ノ設立廢止及信標揚卸ノ中止開始ハ...

氣象信號規程

第一條 中央氣象臺ニ氣象器械及地震器械ノ調整...

器機ノ製作又ハ修理ヲ依頼スル者ハ...

前二項ノ規定ニ依リ且納付シタル手数料金及料金ハ...

第六條 檢定手数料金ハ器械ノ種類、品位及檢定ノ難易ニ依リ...

第七條 至急ヲ要スル調整又ハ檢定ヲ依頼スル者ニ對シテハ...

第八條 調整又ハ檢定ノ依頼ニ係ル器械ニシテ作業中又ハ保管中...

第九條 本令施行ニ必要ナル細則ハ當該氣象臺長之ヲ定ム

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年文部省令第二十七號中央氣象臺氣象器械檢定規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ受理シタル器械ニ對シテハ舊規程ヲ適用ス

暴風雨標條例

第一條 暴風雨ノ位置及進行ノ方向等ヲ船舶ニ周知セシメ...

第二條 暴風雨標條例第六條ニ依リ郡市區町村又ハ私人ニ於テ...

第九條 測候所長ハ左ノ事項ヲ朝鮮總督府觀測所長ニ通知ス...

第十條 測候所長ハ左ノ事項ヲ朝鮮總督府觀測所長ニ通知ス...

第十一條 測候所長ハ左ノ事項ヲ朝鮮總督府觀測所長ニ通知ス...

第十二條 測候所長ハ左ノ事項ヲ朝鮮總督府觀測所長ニ通知ス...

第十三條 測候所長ハ左ノ事項ヲ朝鮮總督府觀測所長ニ通知ス...

認可ヲ受クヘシ

一 位置(略圖添付)

二 信號ノ種類

三 信號柱ノ高さ

四 維持方法

五 管理者

六 信號開始ノ期日

七 信號閉止ノ期日

八 費用

九 附則

十 附則

十一 附則

十二 附則

十三 附則

十四 附則

十五 附則

十六 附則

十七 附則

十八 附則

十九 附則

二十 附則

二十一 附則

二十二 附則

二十三 附則

二十四 附則

二十五 附則

二十六 附則

二十七 附則

二十八 附則

二十九 附則

三十 附則

三十一 附則

三十二 附則

三十三 附則

三十四 附則

三十五 附則

三十六 附則

三十七 附則

三十八 附則

三十九 附則

四十 附則

四十一 附則

四十二 附則

四十三 附則

四十四 附則

四十五 附則

四十六 附則

四十七 附則

四十八 附則

四十九 附則

五十 附則

五十一 附則

五十二 附則

五十三 附則

五十四 附則

五十五 附則

五十六 附則

五十七 附則

五十八 附則

五十九 附則

六十 附則

六十一 附則

六十二 附則

六十三 附則

六十四 附則

六十五 附則

六十六 附則

六十七 附則

六十八 附則

六十九 附則

七十 附則

七十一 附則

七十二 附則

七十三 附則

七十四 附則

七十五 附則

七十六 附則

七十七 附則

七十八 附則

七十九 附則

八十 附則

八十一 附則

八十二 附則

八十三 附則

八十四 附則

八十五 附則

八十六 附則

八十七 附則

八十八 附則

八十九 附則

九十 附則

九十一 附則

九十二 附則

九十三 附則

九十四 附則

總督府ニ於テ直接之ヲ建設管理スルコトヲ
得

第二條 地方官廳ニ於テ新ニ警報信號標ヲ建
設セントスルトキハ豫メ左ノ諸件ヲ詳具シ

臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

一 位置及地勢(略圖添付)

二 信號標ノ高さ

三 取扱者

第四條 警報信號標ハ最寄海峽所ニ於テ之ヲ
監視スルモノトス

第五條 警報信號標又ハ之カ取扱者ニ異動ヲ
生シタルトキハ地方官其事由ヲ具シ直ニ

臺灣總督府ニ届出ツヘシ

第六條 警報信號標ヲ新ニ建設シタルトキ及
之ニ異動ヲ生シタルトキハ其都府臺灣總督
之ヲ告示ス

附則

第六條 明治三十二年六月調令第百八十九號ハ
此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

附則

● 暴風警報信號設置規則

明治四十一年二月二十九日
臺灣總督府令第六號

暴風警報信號設置規則左ノ通相定ム

第一條 公私ノ團體其ノ他ニ於テ暴風警報信
號標ヲ設置セムトスルトキハ豫メ左ノ諸件
ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

一 位置及地勢(略圖添付)

二 信號ノ種類

三 信號標ノ高さ

四 設置ノ費途

五 維持ノ方法

六 管理者

第二條 暴風警報信號標ハ關東(都府府)河候
所ヲシテ監督セシム

第三條 暴風警報信號標又ハ管理者ニ異動ヲ
生シタルトキハ設置者ハ其ノ事由ヲ具シ直
ニ届出ヘシ

第四條 暴風警報信號標設置者ニ於テ濫リニ
既設信號標ノ様式ヲ變更シ又ハ取締上不都
合ノ所爲アリタルトキハ認可ヲ取消スコト
アルヘシ

第五條 暴風警報信號標ヲ新ニ設置シタルトキ又
ハ之ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都府告示

ス

附則

本令ハ明治四十一年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

臺灣警報信號規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第一條 警報信號標ハ地方官廳ニ於テ建設管
理スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ臺灣

警報信號標規則左ノ通相定ム

臺灣警報信號規則

第十六輯

產業

第十六輯

產業

第十六輯 產業

第一章 農業

第一款 農事

- 地方農事試驗場及地方農事講習所規程(明治四一、農令二).....一
- 農事試驗場依級分析規則(大正一一、農告一〇三).....一
- 農事試驗場分析手教料ノ件(大正一一、勅令二四).....一
- 北海道農事試驗場分析手教料規則(大正五、勅令一六六).....二
- 自作農創設維持補助規則(大正一五、農令一〇三).....二
- 主要食糧農產物改良增殖獎勵規則(大正八、農令一三).....二
- 副產獎勵規則(大正一四、農令一一).....八
- 優良農具普及獎勵規則(大正一四、農令七).....九
- 農用小型發動機比較審査規程(大正一四、農告三八).....九
- 農用小型ポンプ比較審査規程(大正一五、農告二二).....九
- 農作物等ノ被害報告規程(大正一四、農訓八).....一〇
- 水稻採種補助規程(大正一一、朝令九九).....一四
- 州縣農事試驗場規則(大正一一、臺令四〇).....一四
- 委託農園規程(大正元、樺令一四).....一四
- 種子給與規則(昭和三、樺令二二).....一四
- 關東州棉花取締規則(大正一五、關令五三).....一五

第二款 農會

- 農會法(大正一一、法律四〇).....一六
- 農會法施行規則(大正一一、農令一六).....一七
- 農會補助金交付規則(大正一一、農令一七).....一七
- 農會法第三十條ノ規定ニ依ル農會ノ申立手續及行政訴訟ニ關スル件(大正一一、勅令三五八).....一九

- 朝鮮 ○朝鮮農會令(大正一五、制令一).....一九
- 朝鮮農會令施行規則(大正一五、朝令三).....二〇
- 臺灣 ○臺灣農會規則(明治四一、律令一八).....二二
- 臺灣農會規則施行規則(明治四一、臺令七〇).....二二

第三款 農產倉庫業

- 農產倉庫業法(大正六、法律一五).....二二
- 農產倉庫業法施行規則(大正六、農令一五).....二四
- 農產倉庫業法第一條第一項第一號ノ規定ニ依ル物品指定ニ關スル件(大正一五、勅令二五八).....二四
- 農產倉庫獎勵規則(昭和三、農令八).....二六
- 農產倉庫業法施行規則(大正一一、臺令二).....二六

第四款 害蟲驅除預防

- 害蟲驅除預防法(明治二九、法律一七).....二七
- 害蟲驅除預防法取換手續(明治二九、農訓六).....二七
- 病蟲害驅除獎勵規則(明治四四、農令一三).....二八
- 害蟲驅除預防規則(大正二、朝令一).....二八
- 臺灣害蟲驅除預防規則(明治四一、律令一四).....二九
- 臺灣害蟲驅除預防規則施行規則(明治四一、臺令六〇).....二九
- 關東州病蟲害驅除預防規則(大正一一、關令三).....二九
- 南洋病蟲害驅除預防規則(大正一一、南令二).....三三

第五款 肥料

- 肥料取締法(明治四一、法律五).....三三
- 肥料取締法施行規則(明治四一、農令一七).....三四
- 肥料検査上分析鑑定請求心得(明治四一、農訓二五).....三四
- 肥料改良獎勵規則(大正一〇、農令五).....三六
- 朝鮮 ○朝鮮肥料取締令(昭和二、制令一四).....三六
- 朝鮮肥料取締令施行規則(昭和二、朝令八七).....三六

- 朝鮮肥料取締令ニ依ル肥料又ハ製造原料ノ收去、分析及鑑定方ニ關スル件(昭和二、朝訓三七).....三八
- 朝鮮總督府勸業模範場肥料又ハ製造原料分析及鑑定規則(昭和三、朝令六).....三九
- 臺灣 ○肥料取締法施行規則(昭和二、臺令三七).....三九

第六款 蠶絲業

- 蠶絲業法(明治四四、法律四七).....四五
- 蠶絲業法施行規則(大正六、農令三三).....四七
- 蠶絲業法施行事務取扱規程(大正六、農訓一一).....四七
- 蠶絲業法施行心得(大正七、農告一五).....四五
- 蠶病預防我國補助規則(大正七、農令二〇).....五六
- 蠶種検査手教料ニ關スル件(大正六、勅令二二七).....五六
- 蠶絲業改良獎勵費交付規則(大正七、農令一七).....五七
- 共同養蠶倉庫及共同乾繅裝置助成規則(大正一四、農令五).....五九
- 道府縣蠶業試驗場規程(大正一一、農令二二).....六一
- 蠶業試驗場分析手教料ノ件(大正九、勅令三〇).....六一
- 蠶業試驗場ニ分析依頼者心得(大正九、農告三五).....六二
- 蠶種配付規程(大正三、農告三四四).....六二
- 桑ノ採種及苗木配付規程(大正一一、農告五二).....六二
- 朝鮮 ○朝鮮蠶業令(大正八、制令一〇).....六二
- 朝鮮蠶業令施行規則(大正八、朝令八〇).....六四
- 道原蠶種製造所及蠶業取締所設置ニ關スル件(大正八、朝令八三).....六六
- 植桑獎勵補助規程(大正一四、朝令七一).....六八
- 原蠶種配付規程(大正一〇、朝令四二).....六八
- 關東州蠶業取締規則(昭和二、關令五五).....六九

第七款 茶業

- 茶業取締ニ關スル件(大正一一、農令一七).....七〇

○漁業組合(明治四三、勅令四二九)……………七三七
 ○漁業法第五十四條ノ規定ニ依リ準用シタル重
 要物品同業組合法第十條ノ四第三項ニ依リ重
 要物品指定(大正五、農令一五)……………七四〇
 ○水産組合規則(明治二〇、農令四)……………七四一
 ○茶業組合規則(施行停止方明治四二、農令一
 七)……………七四二
 ○森林組合令(明治四〇、勅令三四八)……………七四二
 ○酒造組合法(明治三八、法律八)……………七四四
 ○酒造組合法施行規則(明治三八、勅令八)……………七四五
 ○住宅組合法(大正一〇、法律六六)……………七四六
 ○住宅組合法施行規則(大正一〇、內令二)……………七四六
 ○海外移住組合法(昭和二、法律二五)……………七四七
 ○海外移住組合法施行規則(昭和二、內令二八)……………七四八
 ○同業組合準則(明治一七、農令三七)……………七四九

朝鮮
 ○朝鮮産業組合令(大正一五、勅令二)……………七四九
 ○朝鮮産業組合施行規則(大正一五、勅令四)……………七五三
 ○朝鮮重要物品同業組合令(大正四、勅令三)……………七五四
 ○朝鮮重要物品同業組合施行規則(大正四、勅
 令八一)……………七五五
 ○水産組合規則(明治四五、勅令一三)……………七五五
 ○漁業組合規則(明治四五、勅令一四)……………七五七
 ○漁業組合補助規則(大正一一、勅令七四)……………七五八
 ○森林組合補助規則(昭和二、勅令二)……………七五八

臺灣
 ○臺灣産業組合規則(大正二、律令二)……………七五八
 ○臺灣産業組合施行規則(大正六、臺令六
 六)……………七五九
 ○重要物品同業組合法施行規則(大正一一、臺令
 一)……………七六〇
 ○臺灣漁業組合規則(大正一一、臺令二三)……………七六二
 ○市街地信用組合ノ拂戻率ノ備金管理規程(大正
 七、臺令四七)……………七六二

樺太
 ○産業組合法施行規則(大正八、樺令二〇)……………七六二
 ○樺太ニ於ケル漁業組合ニ關スル件(明治四四、
 勅令三三)……………七六四
 ○漁業組合施行規則(大正八、樺令一一)……………七六四
 ○樺太ニ於ケル水産組合規則(大正六、內令四)……………七六五

關東州
 ○樺太ニ於ケル水産組合規則(大正六、內令四)……………七六五

○水産業ニ關スル會社又ハ組合監督ノ件(明治
 四一、勅令五六)……………七六五
 ○關東州ニ於ケル住宅組合ニ關スル件(大正一
 一、勅令四九四)……………七六五
 ○關東州住宅組合ニ關スル勅令施行規則(大正
 一一、勅令八八)……………七六五
 ○貸家業組合規則(大正八、勅令三五)……………七七〇

第九章 勸業

第一款 博覽會 共進會 展覽會

○內閣勸業博覽會開設方(明治一〇、布告八
 八)……………七七〇
 ○內閣勸業博覽會ノ賞牌ヲ製造物品又ハ看板廣
 告等ヘ付スル特許(明治一一、內布達甲九)……………七七〇
 ○博覽會共進會ノ賞牌ノ失者ヘ證明狀附與方
 (明治一七、農令二)……………七七〇
 ○地方開設ノ小博覽會ヘ審査官派出方(明治一
 一、內布達乙七)……………七七〇
 ○道府縣聯合共進會規則(明治四三、農令三)……………七七二
 ○工務展覽會規程(昭和二、商令一一)……………七七二
 ○特許局發明展覽會規程(大正七、農令二四)……………七七二

第二款 勸業諮問會 勸業員

○地方勸業諮問會設立勸業委員設置心得(明治一
 六、布達一三)……………七七三
 ○農商審判會商品陳列規程(大正一〇、農令二
 〇)……………七七四
 ○道府縣市立商品陳列所規程(大正九、農令四)……………七七四

第三款 商品陳列館

○農商審判會商品陳列規程(大正一〇、農令二
 〇)……………七七四
 ○道府縣市立商品陳列所規程(大正九、農令四)……………七七四

第四款 研究及獎勵

○理化學ヲ研究スル公益法人ノ國庫補助ニ關ス
 ル法律(大正五、法律一六)……………七七五
 ○産業試驗費講習費國庫補助法(明治三九、法律
 九)……………七七五
 ○産業試驗費講習費國庫補助法施行規則(明治
 三九、農令一〇)……………七七五
 ○發明獎勵費交付規則(大正六、農令二八)……………七七五

○製鐵業獎勵法(大正一五、法律四九)……………七七六
 ○製鐵業獎勵法施行令(大正一五、勅令五八)……………七七七
 ○製鐵業獎勵法施行規則(大正一五、商令一)……………七七八
 ○海軍艦船建造及修繕用鋼材使用證明規則(大
 正一〇、海令一七)……………七七九
 ○染料製造獎勵ニ關スル法律(大正一四、法律二
 九)……………七八〇
 ○大正十四年法律第二十九號施行規則(大正一
 四、商令一〇)……………七八〇
 ○大正十四年法律第二十九號第一條第三項ノ規
 定ニ依リ染料ノ品目指定(大正一四、勅令三〇
 二)……………七八〇
 ○水産冷蔵獎勵規則(大正一一、農令一一)……………七八一
 ○製糖業獎勵法施行規則(大正一五、勅令四五)……………七八三
 ○水産物冷蔵獎勵補助規則(昭和二、勅令七九)……………七八四
 ○産業獎勵補助規程(昭和三、樺令二四)……………七八五
 ○工業作物獎勵規程(大正二、樺令一四)……………七八六
 ○椰子栽培獎勵規則(大正一一、南令一九)……………七八六
 ○商工業補助規則(大正一一、南令二〇)……………七八七
 ○主要食糧農産物改良増殖獎勵規則(第一章第
 一款ニ收ム)……………七八七
 ○副産獎勵規則(第一章第一款ニ收ム)……………七八七
 ○優良農具普及獎勵規則(第一章第一款ニ收ム)……………七八七
 ○農業倉庫獎勵規則(第一章第三款ニ收ム)……………七八七
 ○病蟲害防除獎勵規則(第一章第四款ニ收ム)……………七八七
 ○肥料改良獎勵規則(第一章第五款ニ收ム)……………七八七
 ○蠶絲改良獎勵費交付規則(第一章第六款ニ
 收ム)……………七八七
 ○植桑獎勵補助規程(第一章第六款ニ收ム)……………七八七
 ○臺灣糖業獎勵規則(第一章第八款ニ收ム)……………七八七
 ○臺灣糖業獎勵規則施行細則(第一章第八款ニ
 收ム)……………七八七
 ○糖業獎勵規則(第一章第八款ニ收ム)……………七八七
 ○石油試驗獎勵金交付規則(第四章ニ收ム)……………七八七
 ○漁業共同施設獎勵規則(第五章第三款ニ收ム)……………七八七
 ○水産増殖獎勵規則(第五章第三款ニ收ム)……………七八七
 ○水産業獎勵規則(第五章第三款ニ收ム)……………七八七
 ○南洋漁業獎勵法(第五章第四款ニ收ム)……………七八七

○南洋漁業獎勵法施行細則(第五章第四款ニ收
 ム)……………七八七
 ○畜産獎勵規則(第六章第一款ニ收ム)……………七八七
 ○種牡牛馬設置獎勵規則(第六章第一款ニ收
 ム)……………七八七
 ○種羊飼育獎勵規則(第六章第一款ニ收ム)……………七八七
 ○養蠶獎勵規則(第六章第一款ニ收ム)……………七八七
 ○乳肉共同處理獎勵規則(第六章第一款ニ收
 ム)……………七八七
 ○畜産物販賣斡旋及委託販賣獎勵規則(第六章
 第一款ニ收ム)……………七八七
 ○畜産獎勵規則(第六章第一款ニ收ム)……………七八七
 ○役馬獎勵規則(第六章第二款ニ收ム)……………七八七
 ○移住獎勵補助規則(第十章第一款ニ收ム)……………七八七

第十章 移住 拓殖

第一款 移住

北海道
 ○北海道移住民規則(明治三九、內令二)……………七八七
 ○北海道移住民ニ對スル汽車電車汽船ノ特別取
 扱方(大正二、內令三一)……………七八七
 ○北海道移住民汽車貨物船賃割引券取扱方(明
 治三六、內令一一)……………七八九
 ○北海道移住民渡航船取扱規則(明治三一、內
 令八)……………七九〇

樺太
 ○移住者指導所規程(昭和四、樺令一六)……………七九〇
 ○移住獎勵補助規則(大正一五、樺令一九)……………七九〇
 ○樺太移住民汽車電車汽船ノ特別取扱方(大正
 一〇、勅令三三)……………七九一

關東州
 ○關東州移住民ニ對スル汽車電車汽船ノ特別取
 扱方(大正一一、農令五一)……………七九二

海外
 ○海外移住組合法(第八章ニ收ム)……………七九二
 ○海外移住組合法施行規則(第八章ニ收ム)……………七九二

第二款 拓殖會社

○東洋拓殖株式會社法(明治四一、法律六三)……………七九四

第十一章 特許 實用新案

第一款 特許

○特許法(大正一〇、法律九六)……………七九六
 ○特許法施行令(大正一〇、勅令四六〇)……………八〇四
 ○特許法施行規則(大正一〇、農令三三)……………八〇五
 ○特許登錄令(大正一〇、勅令四六一)……………八〇九
 ○特許登錄令施行規則(大正一〇、農令三九)……………八一二
 ○滅失特許原簿回復規則(大正一一、農令四六)……………八一六
 ○特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手数料ノ
 件(大正一〇、勅令四六五)……………八一七
 ○特許法施行規則、實用新案法施行規則、意匠法
 施行規則及商標法施行規則ニ依リ請求、申請及
 届出ニ關スル手数料ノ件(大正一〇、農令三
 七)……………八一八
 ○特許、實用新案及商標ニ關スル書類ノ閲覧ニ
 關スル件(大正一〇、農令三八)……………八一八
 ○特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル明細書、説
 明書、圖面、標形、見本及商標ノ印刷ノ調整心
 得(大正一〇、農令三三)……………八一八
 ○特許局陳列館規程(大正一三、農令二八六)……………八一九

朝鮮
 ○特許法意匠法及實用新案法ヲ朝鮮ニ施行スル
 コトニ關スル件(明治四三、勅令三三六)……………八二〇
 ○關東州及帝國力治外法權ヲ行使スルコトヲ得
 ル外國ニ於ケル特許權意匠權商標權實用新案
 權及著作權ノ效力ニ關スル件(明治四四、勅令
 一六七)……………八二〇
 ○工業所有權臨時法

工業所有權臨時法
 ○工業所有權臨時法(大正六、法律二)……………八二〇
 ○工業所有權臨時法施行令(大正六、勅令一四
 一)……………八二〇
 ○工業所有權臨時法施行規則(大正六、農令二
 二)……………八二二
 ○工業所有權臨時法ニ依リ專用權ニ關スル件
 (大正九、勅令九)……………八二二
 ○工業所有權臨時法登錄令(大正六、勅令一四
 二)……………八二二

○實用新案法(大正一〇、法律九七)……………八二二
 ○實用新案法施行規則(大正一〇、農令三四)……………八二五
 ○軍事上秘密ヲ要スル實用新案並實用新案ニ關
 スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル
 件(大正一〇、勅令四六二)……………八二五
 ○實用新案ノ登錄ニ關スル件(大正一〇、農令四
 六)……………八二五
 ○滅失シタル實用新案原簿ノ回復ニ關スル件
 (大正一一、農令四七)……………八二六

第三款 意匠

○意匠法(大正一〇、法律九八)……………八二六
 ○意匠法施行規則(大正一〇、農令三五)……………八二八
 ○意匠ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄
 ニ關スル件(大正一〇、勅令四六三)……………八二九
 ○意匠登錄規則(大正一〇、農令四一)……………八二九
 ○滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件(大正
 一一、農令四八)……………八三〇

第四款 商標

○商標法(大正一〇、法律九九)……………八三〇
 ○商標法施行規則(大正一〇、農令三六)……………八三二
 ○商標ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄
 ニ關スル件(大正一〇、勅令四六四)……………八三五
 ○商標登錄規則(大正一〇、農令四二)……………八三五
 ○滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件(大正
 一一、農令四九)……………八三五

朝鮮
 ○商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件
 (明治四三、勅令三七)……………八三六

第五款 辨理士

○辨理士法(大正一〇、法律一〇〇)……………八三六
 ○辨理士法施行令(大正一〇、勅令四六六)……………八三七
 ○朝鮮ニ於ケル特許辨理士ニ關スル件(明治四
 三、勅令三三九)……………八三八

第十二章 度量衡

- 度量衡法(明治四二、法律四)..... 八三八
- 度量衡法施行令(明治四二、勅令一六九)..... 八三九
- 度量衡法施行規則(明治四二、農令二八)..... 八五〇
- 度量衡法施行令第十條第二號ノ規定ニ依ル度量衡器ノ檢定及其ノ度量衡法第八條第四號ノ公差ニ關スル件(大正一、農令七)..... 八六四
- 度量衡法施行令第十條第二號ノ規定ニ依ル計量器ノ檢定及其ノ度量衡法第八條第四號ノ公差ニ關スル件(大正一、商令三)..... 八六六
- 檢定ヲ受ケルコトヲ要セザル度量衡器及計量器指定(大正一〇、農令二)..... 八六七
- 度量衡器又ハ計量器ノ營業免許及檢定ニ關スル手数料徵收ノ件(明治四二、勅令一七九)..... 八六七
- 度量衡器又ハ計量器ノ製作修繕又ハ販賣ノ營業ノ免許狀ニ關スル手数料(明治四二、農令三)..... 八七〇
- 度量衡器又ハ計量器ノ比較檢査規則(大正四、農令七)..... 八七〇
- 度量衡器又ハ計量器ノ比較檢査手数料ニ關スル件(大正四、勅令五六)..... 八七三
- 度量衡器又ハ計量器ノ比較檢査手数料ニ關スル徵收手續規則(大正四、農令一五九)..... 八七四
- 度量衡器ノ申請檢定請求者及度量衡器又ハ計量器ノ比較檢査依頼者心得(明治四二、農令三三)..... 八七六
- 度量衡器ニ關シ地方長官ニ委任スル事項(大正五、農令二七)..... 八七六
- 朝鮮度量衡令(大正一五、勅令六)..... 八七六
- 朝鮮度量衡施行規則(大正一五、勅令二五)..... 八七八
- 朝鮮度量衡令施行規則ノ規定ニ依リ通知事項ヲ檢定シテ行ハシムル度量衡器指定(大正一五、勅令三三)..... 八九二
- 度量衡器及計量器構造規則(大正一五、勅令四三)..... 八九二
- 臺灣度量衡規則(大正一三、勅令三)..... 八九六
- 臺灣度量衡施行規則(大正一三、勅令五)..... 八九七
- 度量衡器及計量器比較檢査規則(明治四四、農令三八)..... 九一四
- 甘蔗計量用衡器取締規則(明治四二、勅令七一)..... 九一五
- 度量衡器ニ關スル出願及檢定手数料(大正八、勅令二七)..... 九一五
- 關東州度量衡取締規則(昭和二、勅令二三)..... 九一七
- 度量衡器營業免許及檢定手数料規則(昭和二、勅令二九)..... 九三二

第十三章 計理士

- 計理士法(昭和二、法律三一)..... 九三四
- 計理士法施行令(昭和二、勅令二八一)..... 九三五
- 計理士法第三條ニ依ル學校認定ニ關スル件(昭和二、文令二四)..... 九三六
- 計理士法施行令第五條ノ受檢資格ニ關スル件(昭和二、文令二三)..... 九三六

第十四章 職業紹介

- 職業紹介法(大正一〇、法律五五)..... 九三六
- 職業紹介法施行令(大正一〇、勅令二九二)..... 九三七
- 職業紹介法施行規則(大正一三、內令二九)..... 九三七
- 職業紹介事務局又ハ職業紹介所紹介就職者汽車汽船賃割引證交付規則(大正一一、內令二九)..... 九四二
- 船員職業紹介法(第十七號第二章第五款ニ收ム)..... 九四五
- 船員職業紹介法施行規則(第十七號第二章第五款ニ收ム)..... 九四五
- 船員職業紹介法第三條ニ依ル補助金支給ニ關スル件(第十七號第二章第五款ニ收ム)..... 九四五
- 船員職業紹介所紹介就職者賃割引證交付規則(第十七號第二章第五款ニ收ム)..... 九四五

第十六卷 產業

第一章 農業

地方農事試驗場及地方農事講習所規程

明治四十四年一月二十八日
農務省令第一〇號
大正元年第一二號、九年第一五號

地方農事試驗場及地方農事講習所規程左ノ通相定ム

第一條 本規程ニ於テ農事試驗場又ハ農事講習所ト稱スルハ北海道地方、府縣費又ハ郡市費ヲ以テ設立スルモノヲ指シ

第二條 附則

第三條 北海道地方費ヲ以テ設立スル農事試驗場又ハ農事講習所ハ各三箇所ヲ限リ、府縣費又ハ郡市費ヲ以テスルモノハ一府縣郡市各一個所ヲ限リ設立スルコトヲ得但シ分場又ハ分所ヲ設ケルコトヲ妨グ

第四條 本規程ニ依リテ設立スル農事試驗場又ハ農事講習所ハ名稱中ニ其ノ種類ニ從ヒ道府縣郡市立ナル文字ヲ用ユルコトヲ要ス

第四條ノ二 農事試驗場又ハ農事講習所ノ産業職員左ノ如シ

場長又ハ所長

技師

助手

主事補

場長又ハ所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ但シ技師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第五條 農事試驗場ニ於テ行フ業務左ノ如シ

一 農産ノ改良増殖ニ關シ試驗ヲ行フコト

二 農事ニ關スル機械ヲ示スコト

三 農事ニ關スル調査、設計及督勵ヲ爲スコト

四 農事ニ關スル講話、講習、傳習及質問應答ヲ爲スコト

五 試驗成績ノ普及ヲ圖ルコト

六 農用器具器械ノ貸與又ハ配布ヲ爲スコト

七 種畜、種禽、種魚、種樹、農産物見本等ノ配布又ハ種畜ノ種付ヲ爲スコト

八 土壤、種畜、肥料、農用器具器械及農産物ノ檢定又ハ分析ヲ爲スコト

第六條 農事試驗場ハ試驗ノ成績及業務ノ功績ニ關スル報告書ヲ發行スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニハ其ノ報告書ハ郡市立ニ在リテハ郡市長ニ於テ地方長官ニ、道府縣立ニ在リテハ地方長官ニ於テ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條 郡市立農事試驗場ニ在リテハ地方長官、道府縣立農事試驗場ニ在リテハ農商務大臣ノ許可ヲ得テ第五條ニ規定シタルモノノ外農事ニ必要ナル業務ヲ行フコトヲ得

第八條 地方長官ハ郡市立ノ農事試驗場ニ、農商務大臣ハ道府縣立ノ農事試驗場ニ試驗又ハ調査ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第九條 農事講習所ハ農事ニ從事スル者ヲシテ農事ニ必要ナル講習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

第十條 農事講習所ハ農家副業、獸醫、測量、氣象、物理、化學、博物等ニ關スル補助科目ヲ設ケルコトヲ得

第十一條 農事講習所ハ農事ニ關スル講話、講習、傳習又ハ調査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 農事講習所ノ修業年限ハ二年以内トス

第十三條 農事試驗場又ハ農事講習所ヲ設立セムトスルキハ左ノ事項ヲ具シ郡市立

ニ在リテハ郡市長ニ於テ地方長官ノ、道府縣立ニ在リテハ地方長官ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタルコトヲ要ス其ノ分場又ハ分所ヲ設ケムトスルキ亦同シ

一 名稱及位置

二 業務ノ項目又ハ講習所規則

三 試驗用地又ハ實習用地ノ種類及其ノ面積

四 建物ノ種類及其ノ坪數

五 職員ノ職名、其ノ員數及俸給額

六 收支豫算書

第十三條 附則

第十四條 農事試驗場又ハ農事講習所前年度ノ業務功績ハ毎年五月限郡市立ニ在リテハ郡市長ニ於テ地方長官ニ、道府縣立ニ在リテハ地方長官ニ於テ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十五條 農事試驗場、農事講習所又ハ其ノ分場若ハ分所ヲ廢止セムトスルキハ其ノ事由ヲ具シ郡市立ニ在リテハ郡市長ニ於テ地方長官、道府縣立ニ在リテハ地方長官ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタルコトヲ要ス

第十六條 本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 府縣農事試驗場規程、府縣農事講習所規程又ハ明治三十四年農商務省令第八號ニ依リ設立シタル農事試驗場、農事講習所及其ノ分場ハ本規程ニ依リテ設立シタルモノト看做ス

第十八條 府縣農事試驗場規程府縣農事講習所規程及明治三十四年農商務省令第八號ハ之ヲ廢止ス

農事試驗場依頼分析規則

大正十一年四月十九日
農務省令第三三號

農事試驗場依頼分析規則左ノ通定ム

第一條 農事試驗場依頼分析規則ニ依リテ爲サントスル者ハ大正十一年勅令第二百四號ニ依リ相當收入印紙ヲ貼附セル別記様式ニ準ジテ依頼書ニ供試品ヲ添ヘテ之ヲ差出スヘシ

第二條 分析一件毎ニ差出スヘキ供試品ノ數量左ノ如シ但シ農事試驗場長ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ增加セシムルコトアルヘシ

土壤

販賣肥料

前號以外ノ肥料

肥料原料

農産物(乾燥セルモノ)

農産物(乾燥セルモノ)

農産製造品(液狀ナラサルモノ)

農産製造品(液狀ナラサルモノ)

農産製造品(液狀ナラサルモノ)

水(定性分析ヲ要スルトキ)

水(定量分析ヲ要スルトキ)

第三條 前條ニ掲ケタル物料ノ分析一件毎ニ差出スヘキ供試品ノ數量ハ前條ノ規定ニ準ジ農事試驗場長之ヲ指定ス

第四條 農事試驗場長分析ヲ爲スノ必要ナル認ムルトキ又ハ分析ヲ爲スコト能ハサルトキハ依頼ニ應ゼサルコトアルヘシ

第五條 供試品ハ之ヲ返還セズ但シ分析ノ依頼ニ應ゼサルモノニ付テハ其ノ旨通知ノ日ヨリ二週間以内ニ請求アリタル場合ニ限リ供試品ヲ返還スル場合ニ於テハ供試品返還ニ要スル費用ハ依頼者之ヲ負擔スヘシ

第六條 當該官吏ハ分析ノ依頼ニ應ズルモノ

ト決定シタルトキハ書類ノ紙面ト印刷ノ彩
故トニ掛ケ黒肉ヲ用キ消印ヲ押捺スヘシ
附則
明治二十六年農商務省告示第十九號ハ之ヲ廢
止ス
(別記様式)

分析依頼書

- 一 供試品名
 - 二 生産地名又ハ製造地名
 - 三 生産人名又ハ製造人名
 - 四 分析ヲ要スル成分
- 右定性(又ハ定量)分析依頼致度手數料何圓
收入印紙ヲ以テ納付候也
年 月 日 住 所
職業、氏名又ハ名刺印
農事試驗場長宛

農事試驗場分析手數料ノ件

大正十一年四月十九日
勅令第百二十四號

朕明治二十六年勅令第百三十號農事試驗場
分析手數料ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム(附則、別記様式)
第一條 農事試驗場ニ分析ノ依頼ヲ爲ス者ハ
左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ
一 定性分析

- 土壤、肥料、肥料原料又ハ農産製造品 每一件一成分一圓
- 水 每一件一成分二圓

- 右ニ掲ケル物料ノ普通含有セラル成分
每一件一成分三圓
- 二 定量分析
肥料又ハ肥料原料 每一件一成分二圓一
成分ヲ増ス毎二圓
チ加フ
水分、可燃物及灰分
チ加フ

ハ各五十錢トス
每一件一成分三圓一
成分ヲ増ス毎二圓
チ加フ
水分、可燃物及灰分
ハ各五十錢トス
每一件一成分三圓一
成分ヲ増ス毎二圓
チ加フ

- 右ニ掲ケル物料ノ普通含有セラル成分
每一件一成分十圓
- 三 土壤ノ機械的分析 每一件二十圓
- 四 土壤ノ窒素又ハ磷酸吸收力ノ檢定ノ爲
ニスル分析 每一件五圓
- 五 前各號ニ掲ケルモノノ外農業ニ關係ア
ル物料ノ分析手數料ノ額ハ前各號ノ規定
ニ準シ農事試驗場長ノ之ヲ定ム

- 第二條 分析ノ依頼ヲ爲ス者分析ノ報告書ノ
額本ヲ請求スルトキハ一通毎二十錢、歐
文ニ依リ額本ヲ請求スルトキハ一通毎二五
十錢以上十圓以下ノ手數料ヲ納ムヘシ
- 第三條 手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘ
シ

北海道農事試驗場分析手數料規則

大正五年六月十二日
勅令第百六十六號

朕北海道農事試驗場分析手數料規則ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム(附則、別記様式)
第一條 北海道農事試驗場ニ分析ノ依頼ヲ爲
ス者ハ北海道居住ノ農業者若シ北海道ニ事務
所ヲ有スル産業組合及農會其ノ他北海道廳
長官ノ定ムル特殊ノ依頼者ヲ除ク外左ノ
區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ
一 土壤及肥料ノ定性分析ハ一成分毎ニ金

- 三十錢トス
- 二 土壤ノ定量分析ハ一成分金一圓トス二
成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢
チ加フ
- 三 土壤ノ普通含有セラル成分ノ定性ハ一
成分毎ニ金二圓トシ其ノ定量ハ一成分
毎ニ金五圓トス
- 四 肥料ノ定量分析ハ一成分金五十錢トス
二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金二十
五錢チ加フ但シ水分及灰分全量ノ定量
ハ各金十錢トス
- 五 農産物及飼料ノ有機質成分ノ定量ハ一
成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分
ヲ増ス毎ニ金三十錢チ加フ但シ水分及
可燃物全量ノ定量ハ各金十錢トス
- 六 農産物及飼料ノ灰分ノ定量ハ一成分金
五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス
毎ニ金三十錢チ加フ但シ灰分全量ノ定
量ハ金十錢トス
- 七 農産製造品ノ定性分析ハ一成分毎ニ金
五十錢トス
- 八 農産製造品ノ定量分析ハ一成分金一圓
五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス
毎ニ金一圓チ加フ
- 九 水ノ定性分析ハ一成分金二圓トス二成
分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢チ
加フ
- 十 水ノ定量分析ハ一成分金三圓トス二成
分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金一圓チ加
フ

- 九 貸付利率ハ年三分五厘以下、据置期間
ハ一年以内トシ償還期間ハ農林大臣ノ
適當ト認ムル場合ヲ除ク外二十四年
チ下ラサルコト
- 十 貸付ハ年賦償還又ハ半年賦償還ノ方法
ニ依リ元金ト利息トヲ併セ計算シ每期
同一ノ金額ヲ償還セシムルコト
- 十一 借受人前號ニ依リ償還金額ノ外未償
還金額ヲ償還セシムルコトキハ之ヲ認
ムルコト
- 十二 購入シ又ハ維持シタル土地ノ收穫高
不可抗力ニ因リ著シク減少シ又ハ皆無
トナリタルトキハ借受人ノ事情ニ應ジ
償還方法ヲ適當ニ變更スルコト
- 十三 購入シ又ハ維持シタル土地ノ全部ノ
上ニ貸付金ノ擔保トシテ第一抵當權ヲ
設定セシムルコト
- 十四 借受人ハ償還了了タルトキト雖貸
付ノ際決定セラレタル償還期間内及第
十二號ニ依リ變更セラレタル償還期間
内ハ貸付者ノ承認ヲ得ルニ非サレハ自
作ヲ爲サス又ハ第十三號ノ抵當權ヲ除
クノ外其ノ土地ノ上ニ抵當權ヲ設定セ
シメサルコト
- 十五 借受人ハ前號ノ期間内其ノ土地ヲ讓
渡スコトヲ得サルモノトスルコト但シ
貸付者ノ定ムル制限ニ從ヒ其ノ土地ヲ
貸付者ニ又ハ貸付者ヲ經テ之ヲ第三者
ニ讓渡ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 十六 前號ノ規定ニ依リ貸付者ヲ經テ土地
ヲ第三者ニ讓渡ス場合ニ於テハ其ノ讓
受人ハ第一號ノ資格ヲ具備シ且田畑ヲ
所有セシ又ハ第七號但書ニ該當スル者
ニシテ借受人ノ債務ヲ引受クルモノナ
ラズ

自作農創設維持補助規則

大正十五年五月二十一日
農林省令第十號

前二條ニ定ムル額ノ二倍ノ手數料ヲ納ムヘ
シ
第四條 分析ノ依頼ヲ爲ス者分析成績書ノ額
本ヲ請求スルトキハ額本一通ニ付金十錢ノ
手數料ヲ納ムヘシ
第五條 手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘ
シ

- 一 簡易生命保險積立金
- 二 償還方法、貸付利率其ノ他貸付條件カ
前號ノ資金ニ類似スル資金ニシテ農林
大臣ノ適當ト認ムルモノ
- 第二條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ前條ノ
資金ノ貸付ヲ受ケ左ノ事項ヲ行フ者ノ負擔
ヲ輕減スル爲メ之ヲ使用スルコトヲ要ス
一 自作田畑ト爲スヘキ土地ノ購入
二 農林大臣ニ於テ適當ト認ムル自作田畑
ノ維持(自作田畑トシテ土地ヲ購入シ
タルニ因リ生シタル其ノ土地ノ抵當價
務ノ借替)
- 第三條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ申
請書ニ左ノ書類ヲ添付シ二月末日迄ニ之ヲ
農林大臣ニ提出スヘシ

- 十七 前號ノ讓受人ナキ場合ニ於テハ其ノ他
ノ者ニ土地ヲ讓渡シタルトキハ讓渡ノ
際借受人ヲシテ未償還金額ヲ返還セシ
ムルコト
- 十八 借受人前號ノ規定ニ違反シタルト
キハ違約金ヲ徵收シ且貸付金ノ未償還
金額一時ニ返還セシメ又ハ左ノ金額
ヲ以テ土地ヲ先買シ得ルモノトスルコ
ト
- イ 購入價額ノ全額ニ相當スル金額ノ
貸付ヲ爲シタル場合ニ於テハ償還
ヲ受ケタル金額中元金ニ相當スル
金額ニ貸付當時ニ於ケル其ノ土地
ノ價額(購入ノ場合ニ在リテハ購
入價額)ト貸付金額トノ差額チ加
算シタル金額
- ロ 購入價額ノ一部ニ相當スル金額ノ
貸付ヲ爲シタル場合又ハ維持ノ爲
メ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テハ償還
ヲ受ケタル金額中元金ニ相當スル
金額ニ貸付當時ニ於ケル其ノ土地
ノ價額(購入ノ場合ニ在リテハ購
入價額)ト貸付金額トノ差額チ加
算シタル金額

事業計畫書

- 一 事業ニ關スル收支豫算書
- 二 貸付ニ關スル規程

起債ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノニ
在リテハ許可書ノ添付ヲ要スヘシ但シ許
可申請中ノモノニ在リテハ許可セラレタル
トキ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第四條 補助金交付ノ申請ヲ爲シタル者前條
第一項第一號乃至第四號ノ書類ニ記載シタ
ル事項及第五號ノ書類ニ記載シタル事項中
事業施行ニ關スルモノヲ變更シタルトキハ
其ノ旨農林大臣ニ届出ツヘシ

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者前條ノ事
項ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可
ヲ受クヘシ但シ輕微ナル事項ヲ變更セムト
スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者自作田畑
トシテ土地ヲ購入シ又ハ維持セムトスル者
ニ對シ第一號ノ資金ノ貸付ヲ行フ場合ニ於
テハ左ノ各號ニ依リコトヲ要ス

一 借受人ハ現ニ耕作ニ從事シ自作田畑
ノ經營ヲ持續シ得ル見込アル者ナルコ
ト

二 借受人ハ購入セムトスル土地小作地
ナル場合ニ於テハ其ノ土地ノ小作人ナ

ルコト但シ購入ニ付其ノ土地ノ小作人
ノ同意ヲ得タル者ナルトキハ此ノ限ニ
在ラス

三 購入セムトスル土地ノ購入價格ハ借受
人自作田畑トシテ其ノ土地ノ經營ヲ持
續シ得ル爲附錄ニ定ムル算式ニ依リ標
準價格及當該地方ノ土地ノ普通價格チ
超エサルモノナルコト

四 小作權買入ノ慣行アル地方ニ於テ土地
ノ購入ニ際シ其ノ土地ノ小作權併セ
購入スル場合ニ於テハ土地ノ購入價格
ニ小作權ノ購入價格チ加算シタルモノ
カ前號ノ標準價格及普通價格チ超エサ
ルモノナルコト

五 維持セムトスル土地ノ抵當債務額ハ第
三號ノ標準價格及普通價格チ超エス其
ノ購入價格ハ購入當時ニ於ケル第三號
ノ標準價格チ超エサルモノナルコト

六 購入シ又ハ維持セムトスル土地ハ其ノ
上ニ自作ノ障礙ト爲ルヘキ權利存在セ
サルモノナルコト購入セムトスル土地
ノ上ニ存在スル抵當權ニ付亦同シ

七 購入シ又ハ維持セムトスル土地ノ價額
ハ四千圓チ超エサルモノナルコト但シ
現ニ田畑ヲ所有スル者ニ對シテ貸付ニ
在リテハ其ノ田畑ノ維持セムトスル田
畑ノ除外ノ價額ト購入シ又ハ維持セ
ムトスル土地ノ價額トノ合計額四千圓
チ超エサルモノナルコトヲ要ス

八 貸付金額ハ四千圓以内トシ土地ノ購入
價額又ハ土地抵當債務額ノ全額トスル
コト但シ全額未償ノ貸付ヲ受ケムトス
ル者ニ對シテ貸付金額ハ其ノ要求額ト
ス

九 貸付利率ハ年三分五厘以下、据置期間
ハ一年以内トシ償還期間ハ農林大臣ノ
適當ト認ムル場合ヲ除ク外二十四年
チ下ラサルコト

十 貸付ハ年賦償還又ハ半年賦償還ノ方法
ニ依リ元金ト利息トヲ併セ計算シ每期
同一ノ金額ヲ償還セシムルコト

十一 借受人前號ニ依リ償還金額ノ外未償
還金額ヲ償還セシムルコトキハ之ヲ認
ムルコト

十二 購入シ又ハ維持シタル土地ノ收穫高
不可抗力ニ因リ著シク減少シ又ハ皆無
トナリタルトキハ借受人ノ事情ニ應ジ
償還方法ヲ適當ニ變更スルコト

十三 購入シ又ハ維持シタル土地ノ全部ノ
上ニ貸付金ノ擔保トシテ第一抵當權ヲ
設定セシムルコト

十四 借受人ハ償還了了タルトキト雖貸
付ノ際決定セラレタル償還期間内及第
十二號ニ依リ變更セラレタル償還期間
内ハ貸付者ノ承認ヲ得ルニ非サレハ自
作ヲ爲サス又ハ第十三號ノ抵當權ヲ除
クノ外其ノ土地ノ上ニ抵當權ヲ設定セ
シメサルコト

十五 借受人ハ前號ノ期間内其ノ土地ヲ讓
渡スコトヲ得サルモノトスルコト但シ
貸付者ノ定ムル制限ニ從ヒ其ノ土地ヲ
貸付者ニ又ハ貸付者ヲ經テ之ヲ第三者
ニ讓渡ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

十六 前號ノ規定ニ依リ貸付者ヲ經テ土地
ヲ第三者ニ讓渡ス場合ニ於テハ其ノ讓
受人ハ第一號ノ資格ヲ具備シ且田畑ヲ
所有セシ又ハ第七號但書ニ該當スル者
ニシテ借受人ノ債務ヲ引受クルモノナ
ラズ

十七 前號ノ讓受人ナキ場合ニ於テハ其ノ他
ノ者ニ土地ヲ讓渡シタルトキハ讓渡ノ
際借受人ヲシテ未償還金額ヲ返還セシ
ムルコト

十八 借受人前號ノ規定ニ違反シタルト
キハ違約金ヲ徵收シ且貸付金ノ未償還
金額一時ニ返還セシメ又ハ左ノ金額
ヲ以テ土地ヲ先買シ得ルモノトスルコ
ト

イ 購入價額ノ全額ニ相當スル金額ノ
貸付ヲ爲シタル場合ニ於テハ償還
ヲ受ケタル金額中元金ニ相當スル
金額ニ貸付當時ニ於ケル其ノ土地
ノ價額(購入ノ場合ニ在リテハ購
入價額)ト貸付金額トノ差額チ加
算シタル金額

ロ 購入價額ノ一部ニ相當スル金額ノ
貸付ヲ爲シタル場合又ハ維持ノ爲
メ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テハ償還
ヲ受ケタル金額中元金ニ相當スル
金額ニ貸付當時ニ於ケル其ノ土地
ノ價額(購入ノ場合ニ在リテハ購
入價額)ト貸付金額トノ差額チ加
算シタル金額

第七條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者其ノ借入
レタル第一號ノ資金ヲ市町村、産業組合又
ハ之ニ準スヘキ者ニ轉貸シ自作田畑ノ創設
又ハ維持ヲ行ハシムル場合ニ於テハ其ノ轉
借者ヲシテ前條各號ニ依リ貸付ヲ爲サシム
ルコトヲ要ス

第八條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者及前條ノ
轉借者ハ土地價格其ノ他重要ナル事項ノ評
定ニ付農林大臣ノ適當ト認ムル機關ヲ設置
シ調査審議セシムルコトヲ要ス

付了了又ハ第七條ノ貸付了了セシムルコトヲ要ス但シ農林大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者第六條ノ貸付了了シ又ハ第七條ノ貸付了了セシムルコトキハ運滞ナク様式第二號ニ依リ貸付圖書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第十一條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ翌年度六月三十日迄ニ事業ニ關スル收支計算書及様式第三號ニ依リ事業報告書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ補助金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命ジ又ハ補助金ノ交付ヲ停止スルコトヲ得ル

一 本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二 補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三 事業施行ノ第七條ノ轉借者ノ事業施行(包含ム)ノ方法不適當ト認メタルトキ

第十三條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第十四條 本則ハ自作田畑ノ創設又ハ維持ヲ行フ者其ノ事業ニ附隨シテ第六條ノ資格ヲ有スル者ノ爲ニ必要ナル宅地ノ創設又ハ維持ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス但シ宅地トシテ購入シ又ハ維持セムトスル土地ノ面積ハ現ニ所有スル宅地(維持セムトスル宅地ヲ除ク)ノ面積ヲ併セ七五畝以内トシ其ノ價額及貸付金額ハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中二月末日迄トアルハ大正十五年度ニ限リ大正十五年六月二十日迄トス

附錄

第六條第三號ノ算式

算式 小作料金額一總額及無附加額又ハ之ニ相當スル地方稅

0.0927

備考

- 一 小作料ハ平年作ニ於ケル實納小作料ニ依ルコト但シ小作料ノ定ナキ土地ニ在リテハ其ノ土地ニ類似スル土地ノ小作料ニ依ルコト
- 二 小作料ノ平年作ニ於ケル收穫高ノ五割五分以上ナル場合ニ於テハ其ノ五割五分ニ相當スル額ヲ以テ小作料ニ代フルコト
- 三 小作料ノ平年作ニ於ケル收穫高ノ四割以下ナル場合ニ於テハ農業經營比較的多カラサルトキ其ノ他特殊ノ事由ナキトキハ收穫高ノ四割迄ノ範圍ニ於テ適宜ノ程度ニ認定シタル額ヲ以テ小作料ニ代フルコトヲ得ルコト
- 四 小作料及收穫高ノ換算スル場合ニ於テハ其ノ物ノ價格ハ當該地方ニ於ケル最近五年ノ平均價格ヲ用フルコト
- 五 小作料買入ノ履行アル地方ニ於テ土地ノ購入ニ際シ其ノ土地ノ小作料併セ購入スル場合ニ於テハ小作料ハ小作料ノ賃借料(又小作料)ヲ含ムモノヲ以テスルコト

様式 第一號

借入金 借入者 借入地

借入金 借入者 借入地

借入金		借入者		借入地	
借入金	借入者	借入地	借入金	借入者	借入地
金額	氏名	所在地	金額	氏名	所在地
期限	住所	地目	期限	住所	地目
利率	職業	面積	利率	職業	面積
償還金	備考	備考	償還金	備考	備考

注意

- 一 借入手續中ノモノニ在リテハ見込借入金額、借入期日等ヲ記載シ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ
- 二 其ノ他ノ補助金及申請者負擔年額額ニハ貸付利率ヲ低減スル爲メ使用スル金額ヲ記載スヘシ

計		維持		購入	
計	維持	計	維持	計	維持
宅計	宅計	宅計	宅計	宅計	宅計
其	其	其	其	其	其
他	他	他	他	他	他
地	地	地	地	地	地

計		維持		購入	
計	維持	計	維持	計	維持
宅計	宅計	宅計	宅計	宅計	宅計
其	其	其	其	其	其
他	他	他	他	他	他
地	地	地	地	地	地

第三號

事業報告書

一 貸付状況

借入金 借入者 借入地

借入金		借入者		借入地	
借入金	借入者	借入地	借入金	借入者	借入地
金額	氏名	所在地	金額	氏名	所在地
期限	住所	地目	期限	住所	地目
利率	職業	面積	利率	職業	面積
償還金	備考	備考	償還金	備考	備考

第七條 第五條ノ申込書ヲ受理シタルトキハ大正十五年十月十三日迄ニ出品ノ許可ヲ通知ス

第九條 出品物ノ保管ニ關シテハ相當ノ注意ヲ爲スト雖比較審査其ノ他ノ原因ニ因リ亡失、毀損其ノ他一切ノ損害ニ對シ其ノ責ニ任セス

第十條 比較検査ノ成績及比較審査ノ結果農業者トシテ適當ナリト認めタルモノハ大正十六年二月末日迄ニ之ヲ公表ス

第十一條 申込書ハ比較審査ニ關シ説明又ハ立會ヲ求メ又ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 申込書ハ審査終了スル迄出品物ヲ審査場所外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十三條 申込書ハ出品物ヲ指定期間内ニ搬出スルハ前項ノ指定期間内ニ搬出セザルトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得ル

三 横型渦巻ポンプニ在リテハ全揚程十呎乃至二十呎ニ於テ最高効率ヲ示ストキノ揚程、毎分揚水量、毎分迴轉數及所要馬力

三 林野ノ被害 四 漁船ノ遭難 第二條 前條ノ報告ハ別表様式ニ依リ之ヲ爲ス

Table with 8 columns: 1 災害種類, 2 被害年月日, 3 被害面積, 4 損害見込額, 5 被害程度, 6 被害場所, 7 被害種類, 8 被害場所

5 本令第二條但書ニ依リ報告ノ緊急ノ場合ニ於テハ電報ニ依リ其ノ概況ヲ報告スルベシ

1 本票ニ依リ調査ノ農用地ノ被害ノミニ付之ヲ爲スルベシ (別表様式ノ發生報告ニ付テハ本票ニ依リテ要セス)

第九條 出品物ノ保管ニ關シテハ相當ノ注意ヲ爲スト雖比較審査其ノ他ノ原因ニ因リ亡失、毀損其ノ他一切ノ損害ニ對シ其ノ責ニ任セス

第十條 比較検査ノ成績及比較審査ノ結果農業者トシテ適當ナリト認めタルモノハ大正十六年二月末日迄ニ之ヲ公表ス

Table with 8 columns: 1 災害種類, 2 被害年月日, 3 被害面積, 4 損害見込額, 5 被害程度, 6 被害場所, 7 被害種類, 8 被害場所

農會法

大正十一年四月二十二日
陸軍省農務局長 陸軍省農務局長 陸軍省農務局長

第一條 農會ハ農業ノ改良進歩ヲ圖ルヲ以テ
第二條 農會ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業
第三條 農會ノ指導獎勵ニ關スル施設
第四條 農會ニ關スル研究及調査
第五條 農會ハ農業ニ關スル事項ニ付行政廳
第六條 行政官廳ハ農會ニ對シ農會ニ關スル
第七條 政府ハ農會ニ對シ農會ノ範圍内ニ於
第八條 農會ハ町村農會、市農會、郡農會、道
第九條 農會ハ町村農會ニ在リテハ町村
第十條 農會ノ名稱ニハ町若ハ村農會、市農
第十一條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十二條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十三條 郡農會、道府縣農會又ハ帝國農會
第十四條 町村農會及市農會ノ創立總會ニ於
第十五條 農會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時
第十六條 農會成立シタルトキハ其ノ區域内
第十七條 農會ニ總會ヲ置ク
第十八條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十九條 行政官廳ハ農業ニ關スル學識經驗
第二十條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經
第二十一條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第二十二條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ

副會長議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス
第二十三條 總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ規定
第二十四條 會則ノ變更ハ總會ニ於テ之ヲ組
第二十五條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ
第二十六條 町村農會及市農會ハ命令ヲ定ム
第二十七條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第二十八條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第二十九條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十一條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十二條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十三條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十四條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十五條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ

附則
明治三十二年法律第百三十三號農會法ハ之ヲ廢止
明治三十二年法律第百三十三號農會法ニ依リ設立
本法律施行ノ際現ニ存スル農會ハ之ヲ本法ニ
依リ設立シタルモノト看做ス
本法律施行ノ際現ニ前項ノ農會ノ役員、議員、職
員、職員ハ特別別議員ノ職ニ在リテハ其ノ任期
中仍舊ノ職ニ在リテモトス
(大正十一年勅令第三百五十七號施行)
(以テ同十二年一月一日ヨリ施行)

第三十六條 合併後存続スル農會又ハ合併ニ
第三十七條 合併後存続スル農會ハ合併前ノ規定
第三十八條 農會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的
第三十九條 農會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的
第四十條 行政官廳必要ト認ムルトキハ清算
第四十一條 本法ニ於テ市町村トアルハ市町
第四十二條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十三條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十四條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十五條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十六條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十七條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十八條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十九條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第五十條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ

農會法施行規則
第一條 町村農會又ハ市農會ノ區域内ニ於テ
第二條 農會ノ役員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三條 農會ノ議員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第五條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第六條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第七條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第八條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第九條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十一條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十二條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十三條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十四條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十五條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十六條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十七條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十八條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第十九條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第二十條 農會ノ職員ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ

組織
第六條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第七條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第八條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第九條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十一條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十二條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十三條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十四條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十五條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十六條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十七條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十八條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十九條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第二十條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル

第三十條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十一條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十二條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十三條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十四條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十五條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十六條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十七條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十八條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第三十九條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十一條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十二條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十三條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十四條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十五條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十六條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十七條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十八條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第四十九條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ
第五十條 農會ハ其ノ區域内ニ在リテハ其ノ

附則
明治三十二年法律第百三十三號農會法ハ之ヲ廢止
明治三十二年法律第百三十三號農會法ニ依リ設立
本法律施行ノ際現ニ存スル農會ハ之ヲ本法ニ
依リ設立シタルモノト看做ス
本法律施行ノ際現ニ前項ノ農會ノ役員、議員、職
員、職員ハ特別別議員ノ職ニ在リテハ其ノ任期
中仍舊ノ職ニ在リテモトス
(大正十一年勅令第三百五十七號施行)
(以テ同十二年一月一日ヨリ施行)

組織
第六條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第七條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第八條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第九條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十一條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十二條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十三條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十四條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十五條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十六條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十七條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十八條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第十九條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル
第二十條 發起人創立總會ヲ召集セムトスル

第六條 總代會之設置農會ニ在リテハ總代ノ定數任期、選任及解任ニ關スル規定...

第七條 農會ノ設立ヲ認可シタルトキハ行政官廳ハ其ノ農會ノ名稱、地區、事務所及認可ノ年月日ヲ告示ス...

第十八條 農會ハ其ノ農會ノ會員名簿ヲ開示シテ事務所ニ備ヘ置クヘシ會員名簿ニ...

第二十五條 農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス...

農會補助金交付規則

大正十一年八月十七日 農商部令第十七號

本則ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス...

第一條 農會ノ經費ノ分賦又ハ過當金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルト...

第二條 農會ノ經費ノ分賦又ハ過當金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルト...

第三條 農會ノ經費ノ分賦又ハ過當金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルト...

第七條 左に掲げる事項ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ
 一 收支預算
 二 經費ノ分賦收入方法
 三 事業報告及收支決算
 四 借入金
 五 基本財産ノ造成、管理及處分
 六 會則ノ變更
 第七條第一項、第二項、農會法第十二條第一項及同法第二十四條第二項ノ同意ヲ得

前項第一號、第二號、第四號及第六號ニ掲ケル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ效力ヲ生ズ

第八條 農會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一人
 副會長 一人
 評議員 數人
 會長及副會長ハ行政官廳之ヲ命ス
 評議員ハ總會ニ於テ通常議員及特別議員ノ中ヨリ之ヲ選舉ス

第九條 本會ニ規定スルモノノ外總會、通常議員、特別議員及役員ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

府郡農會ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ物件ヲ以テ經費ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得

府郡農會ノ經費又ハ過怠金ヲ納付スル者アル場合ニ於テ其ノ會長ノ請求アルトキハ府郡農會ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ農會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ五ヲ府郡ニ交付ス

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ府郡農會ニ次キ其ノ時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立及裁決ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十一條 行政官廳ハ農會ノ決議又ハ役員ノ行為方法若シテ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若シハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ役員、通常議員若シハ特別議員ヲ解任シ、農會ノ事業ヲ停止シ又ハ農會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第十二條 農會解散又ハ合併ヲ爲サシムルトキハ其ノ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得御合併ノ場合ニ在リテハ會則ヲ議定シ事由ニ準ジテ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

農會分割ヲ爲サシムルトキハ前項ノ規定ニ準ジテ同意ノ外分割ノ各農會ノ會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得農會ノ權利義務ノ限度ヲ定メ且會則ヲ議定シ事由ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

農會法第十二條第二項及第十五條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則
 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム
 (大正十五年朝鮮總督府令第六號)
 (大正十五年三月一日ヨリ施行)

朝鮮農會令施行規則
 朝鮮總督府令第三十五號
 朝鮮農會令施行規則ノ通定
 朝鮮農會令施行規則
 第一條 府郡農會ノ地區内ニ於テ左ノ各號ノ會員ヨリ之ヲ除外ス
 一 三段歩未滿ノ他人ノ土地ニ於テ行フ耕種
 二 一年ヲ通シテ根製種一種一枚未滿又ハ之ニ相當スル種ヲ播立テ行フ養蠶
 三 前二號ニ掲ケルモノヲ併セテ行フ農業
 前項ニ掲ケル者ノ外道知事ニ於テ特別府郡農會ノ會員ヨリ除外スルニ必要アリト認ムル者アルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ命命ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二條 府郡農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ニ居住セザル會員(在リテハ其ノ地區内ニ居住スル者)ヲシテ其ノ地區内ニ代理人ヲ

設ケシムルコトヲ得

農會ハ前項ノ代理人ニ對スル通知ヲ以テ本人ニ對スル通知ニ代フルコトヲ得

第三條 農會ヲ設立セムトスルトキハ會員タル資格ヲ有スル者發起人ト爲リ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ地區ノ創立費用、收支概算及經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

第四條 創立總會ハ府郡農會ニ在リテハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者、其ノ他ノ農會ニ在リテハ其ノ會員タル資格ヲ有スル農會ノ會長、會長事故アルトキハ副會長ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 發起人創立總會ヲ召集セムトスルトキハ朝鮮農會ニ在リテハ少クとも三十日前、其ノ他ノ農會ニ在リテハ少クとも十四日前ニ會議ノ日ヲ示シ、日時及場所ヲ創立總會ヲ組織スルヘキ者ニ通知シ尙府郡農會ニ在リテハ之ヲ公告スヘシ

第六條 創立總會ノ議事ハ之ヲ組織スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得

府郡農會ノ創立總會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ決議權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

創立總會ノ議長ハ出席者中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第七條 規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第八條 農會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第九條 創立總會終了シタルトキ發起人ハ選擧ナク設立認可申請書ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事録ノ原本ヲ添付スヘシ

朝鮮農會令第三條第二項及農會法第十二條第二項但書ノ場合ニ於テハ前項ニ掲ケルモノノ外其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第九條 會則ニハ本令及朝鮮農會令ニ規定スルモノノ外左ニ掲ケル事項ヲ記載スヘシ
 一 名稱
 二 事業
 三 事務所
 四 朝鮮農會令第三條第一項ノ區域ニ依リテ農會ニ在リテハ其ノ地區
 五 評議員ノ定數及選舉ノ方法
 六 通常議員ノ定數及通常議員候補者選出ノ方法
 七 會計ニ關スル規定
 八 財産ニ關スル規定
 九 會計ニ關スル規定

第十條 農會ノ設立ヲ認可シタルトキハ行政官廳ハ其ノ農會ノ名稱、地區、事務所ノ所在地及認可ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十一條 府郡農會ハ會員名簿ヲ編製シ之ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ
 一 會員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 會員ノ氏名及住所(事務所ノ所在地、代表者ノ氏名及住所)
 二 會員タル資格
 三 地稅納額其ノ他經費賦課ノ基礎ト爲ルヘキ事項
 四 代理人ノ氏名及住所
 會員名簿ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ農會ハ選擧ナク之ヲ訂正スヘシ
 會員名簿ノ閲覧ヲ求ムル者アリタルトキハ農會ハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得

第十二條 府郡農會ノ通常議員ノ定數ハ二十人以下ニ於テハ、府郡農會ノ通常議員ノ定數ハ其ノ地區内ノ面積ノ數ノ二倍以下ニ於テ會則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

道農會及朝鮮農會ノ通常議員ノ定數ハ其ノ會員タル農會ノ數トス

第十三條 前條ノ通常議員ノ定數ハ府郡農會ニ在リテハ其ノ地區内ノ各面ニ、道農會及朝鮮農會ニ在リテハ其ノ會員タル各農會ニ之ヲ配當スヘシ

第十四條 通常議員ノ候補者ノ定數ハ通常議

員ノ定數ノ二倍トス

第十五條 通常議員ノ候補者ハ府郡農會ニ在リテハ會員ニ於テ地區内ノ會員ノ中ヨリ、道農會及朝鮮農會ニ在リテハ其ノ會員タル農會ノ總會ニ於テ其ノ總會ヲ組織スル者ノ中ヨリ本令ノ定ムル所ノ外會則ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ選出スヘシ

第十六條 通常議員ノ候補者ヲ選出スルノ權利ハ各會員平等トス

前項ノ權利ハ代理人ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得代理人ハ會員又ハ同居ノ親族ナルコトヲ要ス

第一項ノ權利ハ未成年者及禁治産者ニ在リテハ法定代理人ヲ以テ之ヲ行フヘシ第二條ノ代理人ヲ設ケタル場合ニ在リテハ其ノ代理人ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十七條 農會ノ通常議員ノ候補者ノ選出ニ關スル事務ハ會長之ヲ管理ス

第十八條 通常議員、特別議員及役員ノ任期ハ農會ノ事業年度ニ從ヒ四年トス但シ補闕ノ評議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十九條 總會ヲ召集セムトスルトキハ朝鮮農會ニ在リテハ少クとも三十日前、道農會ニ在リテハ少クとも十四日前、府郡農會ニ在リテハ少クとも七日前に會議ノ日ヲ示シ、日時及場所ヲ總會ヲ組織スル者ニ通知スヘシ

前項ノ期間ハ會則ヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第二十條 總會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テハ議決スルコトヲ得但シ會則ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 總會ノ議長ハ議事録ヲ作リ左ニ掲ケル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上ノ署名スヘシ
 一 開會ノ日時及場所
 二 開會ヲ組織スル者ノ定數
 三 出席者ノ員數
 四 議事ノ要領
 五 議決シタル事項及賛否ノ數

第十六編 產業 第一章 農業 第二節 農會

第二十二條 農會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ理事、主事、技師、技手、書記其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

理事、主事及技師ノ命免ハ之ヲ行政官廳ニ提出スヘシ

第二十三條 農會ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十四條 府郡農會ノ經費ヲ分賦セムトスルトキハ左ノ賦課方法及金額ノ制限ニ依ルヘシ
 一 會員制 平均一人ニ付三十錢以内
 二 會員タル土地 地稅納額百分ノ七以内
 三 原野ニシテ農業ニ利用セザル土地ニ付テハ地稅納額百分ノ七以内
 四 特別ノ事由アル場合ニ於テハ府郡農會ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ第一項ノ賦課方法及金額ノ制限ニ依ラズシテ經費ヲ分賦スルコトヲ得

第二十五條 府郡農會ハ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ニ依リ穀物、繭其ノ他ノ農産物ヲ以テ經費ヲ負擔セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ物品ノ價格ハ經費ノ賦課額ニ相當スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ經費ヲ負擔セシムラレドモ會員ハ金銭ヲ以テ物件ノ納付ニ代フルコトヲ得

第二十六條 會長ハ府郡農會ノ經費ヲ分賦セザルモノ者ニシテ特別ノ事情アルモノニ限リ其ノ延納ヲ許可シ又ハ其ノ分賦ヲ減免スルコトヲ得但シ分賦ノ減免ニ付テハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第二十七條 農會ノ經費ヲ徵收セムトスルトキハ會長ハ納入義務者ニ對シ納金額、納期日及納付ノ場所ヲ記載シタル納入告知書ヲ發スヘシ過怠金ヲ徵收セムトスルトキ亦同シ

第二十八條 經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ納入告知書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ農會ノ會長ニ異議ノ申立ヲ爲ス

第二十九條 收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ毎年二月末日迄ニ之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ但シ設立ノ認可ヲ受ケタル年度ニ於テハ總會ノ議決ヲ經タル後選擧ナク之ヲ差出スヘシ

第三十條 會則、收支豫算及經費分賦收入方法ノ變更並借入金ノ認可申請書ニハ理由書ヲ添付シ借入金ノ認可申請書ニハ利率、期間、借入先及償還ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第三十一條 事業報告及收支決算ハ次ノ事業年度内ニ總會ノ承認ヲ受ケ選擧ナク之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

第三十二條 農會ノ解散、合併若シハ分割又ハ地區ノ管轄ニ關スル會則變更ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添付シ尙合併ノ場合ニ在リテハ合併後存続スル農會又ハ合併ニ依リテ設立スル農會ノ會則、分割ノ場合ニ在リテハ分割ノ各農會ノ會則及其ノ權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第三十三條 農會ノ解散、合併又ハ分割ヲ認可シタルトキハ行政官廳ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十四條 清算終了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其旨ヲ行政官廳ニ提出スヘシ

第三十五條 評議員ノ選任又ハ解任アリタルトキハ農會ハ選擧ナク其ノ旨ヲ行政官廳ニ提出スヘシ但シ朝鮮農會令第十一條ノ規定ニ依リ解任ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 府郡、郡守又ハ島司府郡農會ノ通常議員及特別議員ノ命免シタルトキハ通知事ニ報告スヘシ

第三十七條 左ノ場合ニ於テハ道知事ハ朝鮮總督ニ報告スヘシ
 一 府郡農會ノ設立、解散、合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキ
 二 朝鮮農會令第十一條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シ又ハ農會法第三十二條ノ規定ニ依リ會則、收支豫算若シハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命シタルトキ
 三 府郡農會ノ會長及副會長並道農會ノ通常議員及特別議員ヲ命免シタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ其ノ報告書ニ事由ヲ添付スヘシ

第三十八條 第八條、第十條、第二十二條、第二十九條、第三十一條、第三十三條乃至第三十五條、朝鮮農會令第七條、同令第八條、同令第十一條、同令第十二條、農會法第十二條、同法第十六條、同法第二十一條、同法第三十二條及同法第三十八條乃至第四十條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ府郡農會ニ在リテハ朝鮮總督トシ、道農會及朝鮮農會ニ在リテハ朝鮮總督トス

朝鮮農會令第六條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ府郡農會ニ在リテハ府郡、郡守又ハ島司、道農會ニ在リテハ道知事、朝鮮農會ニ在リテハ朝鮮總督トス

前項ノ場合ニ於テハ府郡農會ノ地區カ二郡以上又ハ府郡ニ涉ルトキハ道知事ハ其ノ行政官廳タル府郡又ハ郡守ヲ指定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ其ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ府郡農會ノ會員ニ在リテハ道知事ニ、道農會又ハ朝鮮農會ノ會員ニ在リテハ朝鮮總督ニ裁決ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ毎年二月末日迄ニ之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ但シ設立ノ認可ヲ受ケタル年度ニ於テハ總會ノ議決ヲ經タル後選擧ナク之ヲ差出スヘシ

第四十條 會則、收支豫算及經費分賦收入方法ノ變更並借入金ノ認可申請書ニハ理由

審計部附屬金ノ認可申請書ニハ利
率期間、借入先及償還ノ方法ヲ記載シタル
書面ヲ添付スヘシ

臺灣農會規則

明治四十一年十二月十五日
勅令第十八號
改正 大正二年第三號

臺灣農會規則明治三十九年法律第三十一號第
一條及第二條ニ依リ勅諭ヲ得テ茲ニ之ヲ公布
ス

臺灣農會規則

第一條 農會ハ農業及林業ノ改良發達ヲ計ル
ヲ以テ目的トス

第二條 農會ハ法人トス

第三條 農會ハ農長ノ具申ニ依リ臺灣總督之
ヲ設置ス

第四條 農會ハ規約ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ
受テ之ヲ變更セムトスルトキハ亦同シ

第五條 農會規約ニハ左ノ事項ヲ定ムルコト
ヲ要ス

一 事業

二 役員ノ職務權限、選任、解任及任期ニ關
スル事項

三 會議ニ關スル事項

四 會費ノ賦課徵收ニ關スル事項

五 財產ニ關スル事項

六 規約ノ變更ニ關スル事項

第七條 農會ノ費用ハ規約ノ定ムル所ニ依リ
會員ノ費用ノ徵收ニ關シテハ臺灣國稅徵收
規則中附屬分ニ關スル規定ヲ準用ス

第八條 本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項
ハ臺灣總督之ヲ定ム

臺灣農會規則施行規則

明治四十一年十二月十五日
勅令第十八號
改正 明治四十二年八月二十一日
大正五年四月六號七年第三八號

臺灣農會規則施行規則左ノ通相定ム

臺灣農會規則施行規則

第一條 農會ノ設置アリタルトキハ農長ハ會
員中ヨリ委員五名以上ヲ選任シ規約及經費
ノ預算ヲ議定セシメ臺灣總督ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第二條 臺灣農會規則ニ依リ設置シタル農會
ニ非サルハ農會ノ名稱ヲ附スルコトヲ得
ズ

第三條 農會規約ニハ臺灣農會規則第五條ニ
掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱

二 事務所

三 庶務及會計ニ關スル規定

四 規約ニ關シテハ第五條ニ定ムルモノニ
關シテハ之ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ
決議ヲ經テ申請書ニ其ノ變更ノ理由ヲ記載
シタル書面ヲ添付シ臺灣總督ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第五條 會費ノ賦課徵收ニ關スル規定中ニハ
左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 賦課ノ標準

二 徵收ノ時期

三 徵收ノ方法

第六條 會費ハ地租ヲ標準トシテ賦課スル場
合ニ於テハ其ノ百分ノ十以內トス

第七條 農會ノ負債額ヲ起サントスルトキハ
其ノ債主、金額、借入及償還ノ方法、期限、
利率及用途ニ付總會ノ決議ヲ經テ臺灣總督
ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ會員中
ヨリ選舉シタル代表者ヲ以テ之ヲ組織ス但
シ第一回ノ總會ニ召集セラルヘキ代表者ノ
選舉方法ハ農長之ヲ定ム

第九條 總會ノ決議ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時
急務ヲ要シ總會ヲ召集スルノ暇ナシト認ム
ルトキハ農長ハ專決處分スルコトヲ得但シ
此ノ場合ニ於テハ次ノ總會ノ承認ヲ求ムヘ
シ

第十條 農會ハ農業若シハ林業ニ功勞アル者又
ハ農業若シハ林業ニ關シテ學識經驗アル者ヲ名
譽會員トシ及シ農業者若シハ林業者ニ關係
アル者ヲ贊助會員トシ之ヲ得

第十一條 農會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 會長

二 副會長

三 評議員

四 幹事

五 支會委員

六 支會置キタルトキハ支會會長

七 支會副會長及評議員ハ規約ノ定ムル所ニ
依リ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ
但シ名譽會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選舉ス
ルコトヲ得

八 幹事、地方委員及支會會長ハ規約ノ定ムル所
ニ依リ會員中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽
會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第九條 農會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 會長

二 副會長

三 評議員

四 幹事

五 支會委員

六 支會置キタルトキハ支會會長

七 支會副會長及評議員ハ規約ノ定ムル所ニ
依リ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ
但シ名譽會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選舉ス
ルコトヲ得

八 幹事、地方委員及支會會長ハ規約ノ定ムル所
ニ依リ會員中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽
會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第九條 農會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 會長

二 副會長

三 評議員

四 幹事

五 支會委員

六 支會置キタルトキハ支會會長

七 支會副會長及評議員ハ規約ノ定ムル所ニ
依リ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ
但シ名譽會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選舉ス
ルコトヲ得

八 幹事、地方委員及支會會長ハ規約ノ定ムル所
ニ依リ會員中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽
會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第九條 農會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 會長

二 副會長

三 評議員

四 幹事

五 支會委員

六 支會置キタルトキハ支會會長

七 支會副會長及評議員ハ規約ノ定ムル所ニ
依リ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ
但シ名譽會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選舉ス
ルコトヲ得

八 幹事、地方委員及支會會長ハ規約ノ定ムル所
ニ依リ會員中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽
會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第九條 農會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 會長

二 副會長

三 評議員

四 幹事

五 支會委員

六 支會置キタルトキハ支會會長

七 支會副會長及評議員ハ規約ノ定ムル所ニ
依リ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ
但シ名譽會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選舉ス
ルコトヲ得

八 幹事、地方委員及支會會長ハ規約ノ定ムル所
ニ依リ會員中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽
會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第九條 農會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 會長

二 副會長

三 評議員

四 幹事

五 支會委員

農業倉庫法

大正六年七月二十一日
法律第十五號
改正 大正五年第三號

農業倉庫法ニ依リ設置シタル農會其ノ
他ノ農業團體ニシテ同規則施行ノ際臺灣總督
ノ認可ヲ受ケタルモノハ明治四十二年四月一
日ヨリ同規則ニ依リ設置シタルモノトシテ
第一條中委員選任ニ關スル規定ハ前項ノ規定
ニ依リ設置シタル農會ニ之ヲ適用セス

農業倉庫法

第一條 本法ニ於テ農業倉庫業者トハ左ノ各
種ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 農業ヲ營ムル者力其ノ生産シタル穀物、
菓實、他物等ヲ以テ指定スル物品ヲ所
有スル場合又ハ土地ニ付權利ヲ有スル
者力小作料トシテ受ケタル穀物其ノ他
物等ヲ以テ指定スル物品ヲ所有スル場
合ニ於テ其ノ者ノ爲ニ本法ニ依リ之ヲ
倉庫ニ保管スル者

二 販賣組合又ハ販賣組合聯合會力賣却ス
ル物品其ノ者ノ爲ニ本法ニ依リ倉庫ニ

保管スル者

三 徵收ノ時期

四 徵收ノ方法

五 支會委員

六 支會置キタルトキハ支會會長

七 支會副會長及評議員ハ規約ノ定ムル所ニ
依リ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ
但シ名譽會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選舉ス
ルコトヲ得

八 幹事、地方委員及支會會長ハ規約ノ定ムル所
ニ依リ會員中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽
會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第九條 農會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

保管スル者

前項ノ規定スル寄託物ニ付所有權ノ移轉
アリタルトキト雖農業者倉庫業者ハ其ノ寄託物
ノ保管期間内ニ限り之ヲ保管スルコトヲ
得

保管スル者

第一條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所
ニ依リ前條ノ事業ノ外左ノ事業ヲ爲スコト
ヲ得

一 受寄物ノ運送、改裝又ハ荷造ヲ爲スコ
ト

二 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコ
ト

三 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコ
ト

四 自己ノ作成シタル農業倉庫證券ヲ擔保
トシテ貸付ヲ爲スコト

五 受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託シ
タル場合ニ於テ其ノ物品ノ聯合農業倉庫
證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

六 他ノ農業倉庫業者力擔保トシテ受取リ
タル農業倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ
爲スコト

第七條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所
ニ依リ前條ノ事業ノ外左ノ事業ヲ爲スコト
ヲ得

一 受寄物ノ運送、改裝又ハ荷造ヲ爲スコ
ト

二 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコ
ト

三 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコ
ト

四 自己ノ作成シタル農業倉庫證券ヲ擔保
トシテ貸付ヲ爲スコト

五 受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託シ
タル場合ニ於テ其ノ物品ノ聯合農業倉庫
證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

六 他ノ農業倉庫業者力擔保トシテ受取リ
タル農業倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ
爲スコト

農業倉庫業者

農業倉庫業者ニ非サル者ノ作成スル預證券
及買入證券又ハ倉庫證券ニハ農業倉庫證券
ナル文字ヲ記載スルコトヲ得

農業倉庫業者

第九條 混合保管ノ場合ニ於テハ農業倉庫業
者ハ農業倉庫證券ニ其ノ旨ヲ記載スルコト
ヲ要ス

寄託物ノ保管期間

寄託物ノ保管期間ハ寄託ノ日ヨリ六
月以內トス

寄託物ノ保管期間

第一條 第一項ノ規定スル寄託物ニ付テハ保
管期間ヲ更新スルコトヲ得但シ寄託者ハ更
新ノ際同條第一項又ハ第三項ニ掲ケタル者
ヲ以テ要ス其ノ期間ハ六月ヲ越スルコト
ヲ得

寄託物ノ保管期間

第一條 第三項ノ規定スル寄託物ニ付テハ同
條第一項及第二項ノ規定ニ依リ保管ニ支障

アリ又ハ所屬組合若ハ所屬聯合會ノ爲ニ前項
ノ事業ヲ爲スノ外附隨シテ該組合員又ハ所
屬組合若ハ所屬聯合會ニ非サル者ノ爲ニ之
ヲ爲スコトヲ得但シ第二條第四號乃至第六
號ノ事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

農業倉庫業者タル農會又ハ公益法人ハ第二
條第四號乃至第六號ノ事業ヲ爲スコトヲ得
ス

第六條 農業倉庫業者タル農會又ハ公益法人ハ業務
規程ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所
ニ依リ種類及品位ノ同一ナル寄託物ヲ混合
シテ保管スルコトヲ得

第七條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所
ニ依リ前條ノ事業ノ外左ノ事業ヲ爲スコト
ヲ得

一 受寄物ノ運送、改裝又ハ荷造ヲ爲スコ
ト

二 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコ
ト

寄託物ノ保管期間

寄託物ノ保管期間ハ寄託ノ日ヨリ六
月以內トス

寄託物ノ保管期間

第一條 第一項ノ規定スル寄託物ニ付テハ保
管期間ヲ更新スルコトヲ得但シ寄託者ハ更
新ノ際同條第一項又ハ第三項ニ掲ケタル者
ヲ以テ要ス其ノ期間ハ六月ヲ越スルコト
ヲ得

寄託物ノ保管期間

第一條 第三項ノ規定スル寄託物ニ付テハ同
條第一項及第二項ノ規定ニ依リ保管ニ支障

アリ又ハ所屬組合若ハ所屬聯合會ノ爲ニ前項
ノ事業ヲ爲スノ外附隨シテ該組合員又ハ所
屬組合若ハ所屬聯合會ニ非サル者ノ爲ニ之
ヲ爲スコトヲ得但シ第二條第四號乃至第六
號ノ事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

農業倉庫業者タル農會又ハ公益法人ハ第二
條第四號乃至第六號ノ事業ヲ爲スコトヲ得
ス

第六條 農業倉庫業者タル農會又ハ公益法人ハ業務
規程ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所
ニ依リ種類及品位ノ同一ナル寄託物ヲ混合
シテ保管スルコトヲ得

第七條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所
ニ依リ前條ノ事業ノ外左ノ事業ヲ爲スコト
ヲ得

一 受寄物ノ運送、改裝又ハ荷造ヲ爲スコ
ト

二 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコ
ト

三 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコ
ト

四 自己ノ作成シタル農業倉庫證券ヲ擔保
トシテ貸付ヲ爲スコト

五 受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託シ
タル場合ニ於テ其ノ物品ノ聯合農業倉庫
證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

六 他ノ農業倉庫業者力擔保トシテ受取リ
タル農業倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ
爲スコト

第九條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第十條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第十一條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第十二條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第十三條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第十四條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第十五條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第十六條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第十七條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第十八條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第十九條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第二十條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第二十一條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第二十二條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第二十三條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第二十四條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第二十五條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第二十六條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第二十七條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第二十八條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第二十九條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第三十條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第三十一條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第三十二條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第三十三條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第三十四條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第三十五條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第三十六條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第三十七條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第三十八條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第三十九條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第四十條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第四十一條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第四十二條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第四十三條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第四十四條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第四十五條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第四十六條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第四十七條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第四十八條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第四十九條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

第五十條 倉庫法第三十七條ノ規定ハ受寄物ノ運搬ニ關シテハ同法第三十七條ノ規定ニ依リテ之ヲ準用ス

農業倉庫法施行規則

附則(大正十五年法律第三十二號)
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 本法施行ノ際ニ農業倉庫業者力從前ノ第一條第三項ノ規定ニ依リ保管スル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
 本法施行ノ際現ニ存スル預證券及質入證券ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
 (大正十五年勅令第二百五十七號)
 (大正十五年九月一日ヨリ施行)
 改正 大正九年第六號、一五年農林省令第一九號
 農務省令第十五號

一 申請ノ理由
 二 倉庫ニ於テ取扱ヘキ物品ノ種類別數量ノ確定
 三 倉庫ノ所在地
 四 倉庫ノ構造、建坪、主要ナル構造又ハ工事及收容力並倉庫經營ニ要スル敷地ノ面積ニ關スル事項
 五 倉庫及敷地ハ申請者ノ所有ニ係ルモノナリトシテ其ノ別及所有ニ係ラサルモノニ付テハ其ノ使用ノ權利ニ關スル事項倉庫ハ既設ノモノナリトシテ其ノ別及新ニ建築、改築又ハ修繕ヲ爲スモノニ付テハ其ノ竣工ノ確定期日及既設ノモノニ付テハ建築ノ時期
 六 附屬ノ設備ニ關スル事項
 七 貸付事業ヲ爲ス場合ニ於テハ貸付金額ノ確定及其ノ調達方法
 八 起業費及一箇年ノ收支概算
 九 申請者タル法人ニ於テハ農業倉庫業開始

一 決定ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ決定ヲ要スル書面
 二 公益法人ニ在リテハ定款又ハ寄附行為及財産目録
 三 農業倉庫業者ノ第一項第二號ノ規定ニ依リテ其ノ區域内ニ於ケル販賣組合及販賣組合聯合會ノ賣却スル物品ノ數量
 四 農業倉庫業者ノ業務規程ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
 一 事業ノ種類及農業倉庫業者ノ第一項第三項ノ規定ニ依リテ保管スル物品ノ種類
 二 保管スヘキ物品ノ名稱
 三 農業倉庫業者ノ第一項第三項ノ規定ニ依リテ保管スヘキ物品ニ付保管ノ順位ヲ定ムルモノトシテ其ノ順位並同條第一項及第二項ノ規定ニ依リテ保管上必要アルトキハ何時ニテモ同條第三項ノ規定ニ依リテ保管物ノ出庫ヲ爲サシメ得ヘキ旨及其ノ出庫ノ順位
 四 保管ノ方法及保管上特殊ノ作業ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ作業
 五 保管料ニ關スル規定
 六 保管期間ニ關スル規定
 七 聯合農業倉庫業者又ハ倉庫業者ニ受寄物ノ寄託ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨及寄託スヘキ聯合農業倉庫業者又ハ倉庫業者ノ名稱
 八 受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託スル場合ニ於ケル受寄物及農業倉庫業者ノ取扱並受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ引渡スル際ニ於ケル危險ノ負擔ニ關スル規定
 九 受寄物ノ入庫及出庫ニ關スル規定
 十 證券發行ニ關スル規定
 十一 保險ニ關スル規定アルモノニ付テハ之

十二 二箇スル規定
 一 混合保管ノ範圍
 二 受寄物ノ返還ニ關スル規定
 三 共同倉庫及共同貯藏裝置助成規則ニ依リ共同倉庫ノ助成金交付ノ許可ヲ受ケル者又ハ助成金ノ交付ヲ受ケル倉庫ヲ有スル者
 四 共同倉庫及共同貯藏裝置助成規則ニ依リ共同倉庫ノ助成金ノ交付ヲ受ケル倉庫ニ準スヘキ規模及構造ヲ具備スル倉庫ヲ有スル者
 五 農業倉庫業者ノ非サレハ其ノ名稱中ニ農業倉庫ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス
 六 農業倉庫業者ノ農業倉庫業者ノ第一條第三項ノ規定ニ依リ保管スル物品ニ付テハ同條第一項及第二項ノ規定ニ依リ保管スル物品ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ
 七 農業倉庫業者倉庫ノ所在地、棟數、建

八 倉庫ノ構造、建坪、主要ナル構造又ハ工事及收容力並倉庫經營ニ要スル敷地ノ面積ニ關スル事項
 九 倉庫及敷地ハ申請者ノ所有ニ係ルモノナリトシテ其ノ別及所有ニ係ラサルモノニ付テハ其ノ使用ノ權利ニ關スル事項倉庫ハ既設ノモノナリトシテ其ノ別及新ニ建築、改築又ハ修繕ヲ爲スモノニ付テハ其ノ竣工ノ確定期日及既設ノモノニ付テハ建築ノ時期
 十 附屬ノ設備ニ關スル事項
 十一 貸付事業ヲ爲ス場合ニ於テハ貸付金額ノ確定及其ノ調達方法
 十二 起業費及一箇年ノ收支概算
 十三 申請者タル法人ニ於テハ農業倉庫業開始

十四 倉庫ノ構造、建坪、主要ナル構造又ハ工事及收容力並倉庫經營ニ要スル敷地ノ面積ニ關スル事項
 十五 倉庫及敷地ハ申請者ノ所有ニ係ルモノナリトシテ其ノ別及所有ニ係ラサルモノニ付テハ其ノ使用ノ權利ニ關スル事項倉庫ハ既設ノモノナリトシテ其ノ別及新ニ建築、改築又ハ修繕ヲ爲スモノニ付テハ其ノ竣工ノ確定期日及既設ノモノニ付テハ建築ノ時期
 十六 附屬ノ設備ニ關スル事項
 十七 貸付事業ヲ爲ス場合ニ於テハ貸付金額ノ確定及其ノ調達方法
 十八 起業費及一箇年ノ收支概算
 十九 申請者タル法人ニ於テハ農業倉庫業開始

農業倉庫法第一條第一項第一號ノ規定ニ依ル物品指定ニ

農業倉庫法第一條第一項第一號ノ規定ニ依ル物品指定ニ關スル件ヲ裁可シ得ニシテ之ヲ公布セシム(大臣官署)

農業倉庫獎勵規則

昭和三年六月二十九日 農林省令第八號

農業倉庫獎勵規則ノ通改正ス
第一條 農林大臣ハ農業倉庫及聯合農業倉庫獎勵ノ爲本則ニ依リ毎年度算算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

農業倉庫法施行規則

提出シタル補助金交付ニ關スル規程ニ變更ナキトキハ第二號ノ書類ハ之ヲ添付スルコトヲ要ス
一 補助金算書及其ノ説明書
二 補助金交付ニ關スル規程
三 補助金算書又ハ補助金交付ニ關スル規程ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

農業倉庫法施行規則

昭和三年六月二十九日 農林省令第八號
農業倉庫法施行規則ノ通規定ス

第四款 害蟲驅除豫防

害蟲驅除豫防法

明治二十九年三月二十五日 法律第七號

帝國議會ノ協贊ヲ經テ(農林省)
第一章 此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ
第二章 驅除豫防ニキキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

主ニ賦課スルコトヲ得

町村制(第百二十七條)ヲ適用ス

第六條 地方長官ハ驅除豫防ノ爲必要ナルトキハ町村費ヲ以テ清潔ヲ設ケ又ハ農作物、糞料、刈草、雜草ヲ拔棄スルハ農業スルコトヲ得
第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得

府縣

害蟲驅除豫防法取扱手續

第一條 害蟲驅除豫防法第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ各害蟲ニ付キ左ノ事項ヲ記載スルヘシ
一 名稱、方面
二 主ナル被害農作物ノ種類
三 驅除豫防ノ方法

Table with columns: 市名, 郡名, 何郡, 何市, 計. It lists administrative divisions and their corresponding agricultural products and pest control measures.

病蟲害防除獎勵規則

Article 1: Purpose of the rule. Article 2: Eligible areas. Article 3: Application process. Article 4: Award criteria. Article 5: Award types. Article 6: Award procedure. Article 7: Award amount. Article 8: Award payment. Article 9: Award review. Article 10: Award cancellation. Article 11: Final provisions.

害蟲驅除防除規則

Article 1: Scope of application. Article 2: Definitions. Article 3: Reporting requirements. Article 4: Prevention measures. Article 5: Control measures. Article 6: Penalties. Article 7: Final provisions.

一、介殼蟲 果樹
二、介殼蟲 果樹
三、介殼蟲 果樹
四、介殼蟲 果樹
五、介殼蟲 果樹

一、介殼蟲 果樹
二、介殼蟲 果樹
三、介殼蟲 果樹
四、介殼蟲 果樹
五、介殼蟲 果樹

一、介殼蟲 果樹
二、介殼蟲 果樹
三、介殼蟲 果樹
四、介殼蟲 果樹
五、介殼蟲 果樹

一、介殼蟲 果樹
二、介殼蟲 果樹
三、介殼蟲 果樹
四、介殼蟲 果樹
五、介殼蟲 果樹

一、介殼蟲 果樹
二、介殼蟲 果樹
三、介殼蟲 果樹
四、介殼蟲 果樹
五、介殼蟲 果樹

一、介殼蟲 果樹
二、介殼蟲 果樹
三、介殼蟲 果樹
四、介殼蟲 果樹
五、介殼蟲 果樹

一、介殼蟲 果樹
二、介殼蟲 果樹
三、介殼蟲 果樹
四、介殼蟲 果樹
五、介殼蟲 果樹

一、介殼蟲 果樹
二、介殼蟲 果樹
三、介殼蟲 果樹
四、介殼蟲 果樹
五、介殼蟲 果樹

Table with 6 columns: 害虫種類 (Pest Type), 被害植物 (Host Plant), 防除方法 (Control Method), 防除時期 (Control Period), 防除場所 (Control Location), 防除費用 (Control Cost). Rows include 根腐病 (Root Rot), 紋羽病 (Leaf Miner), 稻飛虱 (Rice Planthopper), etc.

Table with 6 columns: 害虫種類 (Pest Type), 被害植物 (Host Plant), 防除方法 (Control Method), 防除時期 (Control Period), 防除場所 (Control Location), 防除費用 (Control Cost). Rows include 好虫類 (Beneficial Insects), 天牛類 (Cicada), 象鼻虫類 (Weevils), etc.

第三條 病害虫果樹若ハ田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ農政署長又ハ農政支署長ハ農政令ニ依リテ農政令ニ依リテ農政令ニ依リテ...

第五款 肥料 第一條 本法ニ於テ肥料ト稱スルハ植物ノ營養ニ供スルニ於テ...

病害虫防除規則 第一條 本規則ニ於テ病害虫ト稱スルハ農作物ノ病害虫ニシテ...

病害虫防除規則 第二條 第一項ニ依リテ病害虫ノ種類及防除方法左ノ通定ス...

●肥料改良獎勵規則

大正十年四月一日
農商部令第五號

道府縣

- 一 肥料改良獎勵規則左ノ通定スル
- 二 農商部大臣ハ左ニ掲ケル道府縣ノ費用ニ對シ毎年度預算ノ範圍内ニ於テ道府縣ニ獎勵金ヲ交付ス
- 三 專ラ肥料ノ改良増殖及其ノ使用方法ノ改良ニ關スル獎勵事務ニ從事スル技術員ヲ道府縣ニ設置スルニ要スル費用府縣立農事試驗場ニ於テ施設標準調査ヲ行フニ要スル費用
- 四 北海道具又ハ府縣立農事試驗場ノ設置ナキ府縣ニ於テ農商部大臣ノ適當ト認ムル機關ニ依リ前條ニ掲ケル調査ヲ行フニ要スル費用
- 五 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル道府縣ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ前年度二月末日迄ニ農商部大臣ニ提出スルニシ
- 六 事業計畫
- 七 獎勵金ノ交付ヲ受ケムル道府縣前條各號ニ掲ケル事項ヲ變更シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ農商部大臣ニ報告スヘシ但シ輕易ナル事項ニ關スル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 八 獎勵金ノ交付ヲ受ケムル道府縣ハ事業成績及決算書ニ對シ九月三十日迄ニ農商部大臣ニ報告スヘシ
- 九 獎勵金ノ交付シタル道府縣ノ經費支出額ハ第二條ノ添附書類ニ記載シタル總額ヨリ減少シタルトキ又ハ事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキハ農商部大臣ハ獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルヘシ

- 一 事業計畫
- 二 獎勵金ノ交付ヲ受ケムル道府縣前條各號ニ掲ケル事項ヲ變更シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ農商部大臣ニ報告スヘシ但シ輕易ナル事項ニ關スル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 三 獎勵金ノ交付ヲ受ケムル道府縣ハ事業成績及決算書ニ對シ九月三十日迄ニ農商部大臣ニ報告スヘシ
- 四 獎勵金ノ交付シタル道府縣ノ經費支出額ハ第二條ノ添附書類ニ記載シタル總額ヨリ減少シタルトキ又ハ事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキハ農商部大臣ハ獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルヘシ

- 一 肥料ノ取締ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外肥料取締法ニ依リ但シ同法第五條及第十一條第二號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 朝鮮肥料取締令
- 三 肥料ノ取締ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外肥料取締法ニ依リ但シ同法第五條及第十一條第二號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ
- 四 肥料取締法中主務大臣アルハ朝鮮肥料取締令ニ依リテ之ヲ施行ス
- 五 肥料ノ取締ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外肥料取締法ニ依リ但シ同法第五條及第十一條第二號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 肥料ノ取締ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外肥料取締法ニ依リ但シ同法第五條及第十一條第二號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 肥料ノ取締ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外肥料取締法ニ依リ但シ同法第五條及第十一條第二號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 肥料ノ取締ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外肥料取締法ニ依リ但シ同法第五條及第十一條第二號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ
- 四 肥料ノ取締ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外肥料取締法ニ依リ但シ同法第五條及第十一條第二號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ
- 五 肥料ノ取締ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外肥料取締法ニ依リ但シ同法第五條及第十一條第二號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

●朝鮮肥料取締令施行規則

昭和二年朝鮮總督府令第百一十一號
（以テ昭和三年一月一日ヨリ施行）
朝鮮總督府令第八十七號

- 一 肥料製造營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ免許願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ道知事ニ提出ス
- 二 營業者ノ氏名及住所（法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名）
- 三 營業所所在ノ場所
- 四 製造所所在ノ場所
- 五 肥料ノ種類
- 六 肥料ノ成分
- 七 肥料ノ製造方法
- 八 肥料ノ品質
- 九 肥料ノ貯藏方法
- 十 肥料ノ運送方法
- 十一 肥料ノ取扱方法
- 十二 肥料ノ其他事項

- 一 肥料製造營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ免許願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ道知事ニ提出ス
- 二 營業者ノ氏名及住所（法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名）
- 三 營業所所在ノ場所
- 四 製造所所在ノ場所
- 五 肥料ノ種類
- 六 肥料ノ成分
- 七 肥料ノ製造方法
- 八 肥料ノ品質
- 九 肥料ノ貯藏方法
- 十 肥料ノ運送方法
- 十一 肥料ノ取扱方法
- 十二 肥料ノ其他事項

- 一 肥料製造營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ免許願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ道知事ニ提出ス
- 二 營業者ノ氏名及住所（法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名）
- 三 營業所所在ノ場所
- 四 製造所所在ノ場所
- 五 肥料ノ種類
- 六 肥料ノ成分
- 七 肥料ノ製造方法
- 八 肥料ノ品質
- 九 肥料ノ貯藏方法
- 十 肥料ノ運送方法
- 十一 肥料ノ取扱方法
- 十二 肥料ノ其他事項

- 一 肥料製造營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ免許願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ道知事ニ提出ス
- 二 營業者ノ氏名及住所（法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名）
- 三 營業所所在ノ場所
- 四 製造所所在ノ場所
- 五 肥料ノ種類
- 六 肥料ノ成分
- 七 肥料ノ製造方法
- 八 肥料ノ品質
- 九 肥料ノ貯藏方法
- 十 肥料ノ運送方法
- 十一 肥料ノ取扱方法
- 十二 肥料ノ其他事項

- 一 肥料製造營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ免許願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ道知事ニ提出ス
- 二 營業者ノ氏名及住所（法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名）
- 三 營業所所在ノ場所
- 四 製造所所在ノ場所
- 五 肥料ノ種類
- 六 肥料ノ成分
- 七 肥料ノ製造方法
- 八 肥料ノ品質
- 九 肥料ノ貯藏方法
- 十 肥料ノ運送方法
- 十一 肥料ノ取扱方法
- 十二 肥料ノ其他事項

前二項ノ規定ハ肥料ノ買賣業者其ノ營業ノ免許ヲ受ケルル知事又ハ廳長ノ所轄内ニ於テ行商スル場合ニ之ヲ適用セシメ...

廿五添附書類、免許書、認可書、届書又ハ其ノ寫ヲ備ヘ置クヘシ...

ノ他特別ノ事故ニ因リ其ノ主成分量ニ異動ヲ生シタルコトヲ知リタルトキ...

「トーマス」磷肥ニ溶解セスシテ水ニ溶解スル磷酸...

第二十九條 肥料ノ製造業者ハ製造場別ニ前年中ニ製造シタル肥料ノ製造ノ原料ニ供...

ニ付テテ準用ス 第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス...

肥料製造業者ノ製造場及設置所ニ掲ケヘキ標札 第二條...

Table with columns for fertilizer name, manufacturer, and chemical composition. Includes sections for '肥料ノ名稱' and '原料ノ名稱'.

免許 肥料製造(輸入、移入、賣買)營業所 住所 氏 名(名稱) 幅二〇釐以上 長六〇釐以上

第一條 肥料製造業者ノ營業所ニ掲ケヘキ標札...

Table with columns for fertilizer name, manufacturer, and chemical composition. Includes sections for '肥料ノ名稱' and '原料ノ名稱'.

テ分計スルコトヲ得
 第二十一條 製造業ノ製造品ノ標立口ノ區別ニ付テハ
 第二十二條 製造業ノ製造品ノ標立口ノ區別ニ付テハ
 第二十三條 製造業ノ製造品ノ標立口ノ區別ニ付テハ
 第二十四條 製造業ノ製造品ノ標立口ノ區別ニ付テハ
 第二十五條 製造業ノ製造品ノ標立口ノ區別ニ付テハ
 第二十六條 製造業ノ製造品ノ標立口ノ區別ニ付テハ
 第二十七條 製造業ノ製造品ノ標立口ノ區別ニ付テハ
 第二十八條 製造業ノ製造品ノ標立口ノ區別ニ付テハ
 第二十九條 製造業ノ製造品ノ標立口ノ區別ニ付テハ
 第三十條 製造業ノ製造品ノ標立口ノ區別ニ付テハ

六 原種製造用菌ニ在リテハ一升ノ原種
 第二十五條 普通菌種ノ製造ニ供用スヘキ種
 第二十六條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第二十七條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第二十八條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第二十九條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十條 菌種製造者普通菌種製造用菌

第三十一條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十二條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十三條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十四條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十五條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十六條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十七條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十八條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十九條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十條 菌種製造者普通菌種製造用菌

增加若ハ排清ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
 地方官前項ノ規定ニ依リテハ一升ノ原種
 第三十四條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十五條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十六條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十七條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十八條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十九條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十條 菌種製造者普通菌種製造用菌

製造スル爲メニ依リテ原種ノ製造ヲ許可
 第三十七條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十八條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第三十九條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十一條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十二條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十三條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十四條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十五條 菌種製造者普通菌種製造用菌

在ニ代リ但シ地方官必要ト認ムルトキハ
 第四十二條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十三條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十四條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十五條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十六條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十七條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十八條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十九條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十條 菌種製造者普通菌種製造用菌

第四十三條 地方官必要ト認ムルトキハ
 第四十四條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十五條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十六條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十七條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十八條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第四十九條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十一條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十二條 菌種製造者普通菌種製造用菌

地方官前項ノ規定ニ違反シタルモノ
 第五十條 地方官必要ト認ムルトキハ
 第五十一條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十二條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十三條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十四條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十五條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十六條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十七條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十八條 菌種製造者普通菌種製造用菌
 第五十九條 菌種製造者普通菌種製造用菌



第十二號 圓形 外圍直徑一寸 內色朱



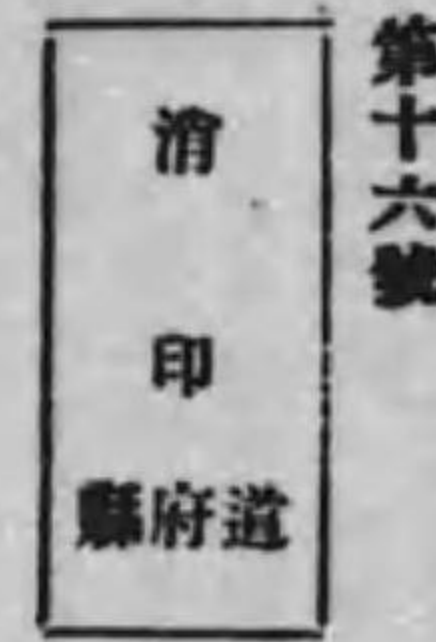
第十三號 橢圓形 外圍長徑一寸 外圍短徑八分 內色朱



第十四號 圓形 直徑六分 內色青



第十五號 橢圓形 長徑三分 短徑二分 內色朱



第十六號 長方形 長五分 寬八分 內色黑



第十七號 圓形 外圍直徑一寸 內色朱



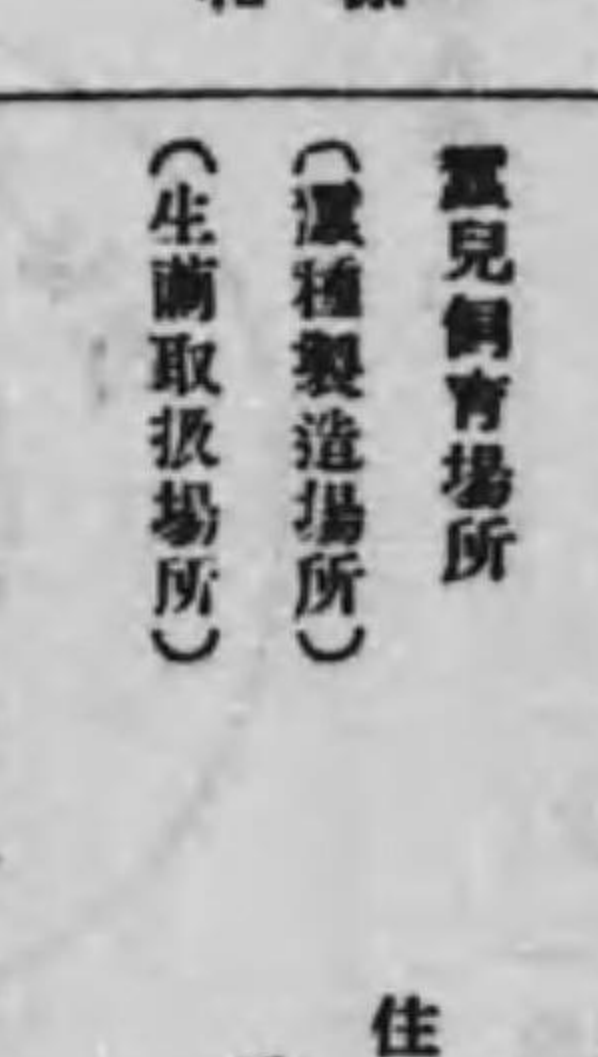
第十八號 橢圓形 外圍長徑一寸 外圍短徑八分 內色朱



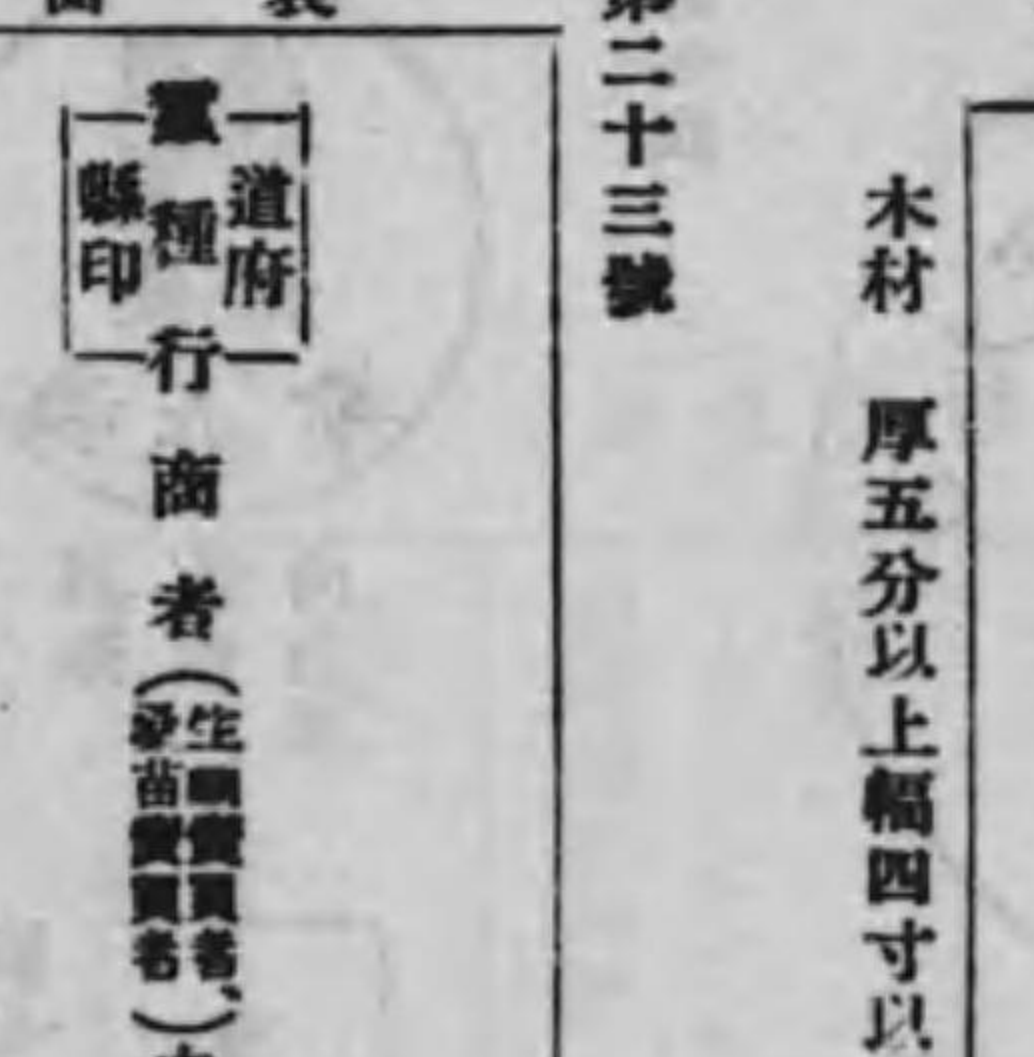
第十九號 圓形 外圍直徑一寸 內色朱



第二十號 橢圓形 外圍長徑一寸 外圍短徑八分 內色朱



第二十一號 木村 縱一尺五寸以上 橫四寸以上 厚四分



第二十二號 木村 厚五分以上 幅四寸以上 高地上より四尺以上



第二十三號 厚紙 縱三寸 橫二寸

第二十四號 蠶絲業法施行事務取扱規程 道府 蠶種行商者(生蠶製造者)從業者之證

第二十五號 蠶絲業法施行事務取扱規程 道府 蠶種行商者(生蠶製造者)從業者之證

第一條 蠶絲業法施行事務取扱規程 蠶種行商者(生蠶製造者)從業者之證

第二條 蠶絲業法施行事務取扱規程 蠶種行商者(生蠶製造者)從業者之證

第三條 蠶絲業法施行規則第二十八條第二項 蠶種行商者(生蠶製造者)從業者之證

第四條 蠶絲業法施行規則第二十八條第二項 蠶種行商者(生蠶製造者)從業者之證

第五條 蠶絲業法施行規則第二十八條第二項 蠶種行商者(生蠶製造者)從業者之證

第六條 蠶絲業法施行規則第二十八條第二項 蠶種行商者(生蠶製造者)從業者之證

第七條 蠶絲業法施行規則第二十八條第二項 蠶種行商者(生蠶製造者)從業者之證

第十八條 蠶桑取締所ニ於テ蠶種又ハ蠶繭ノ貯蔵、處理、取裁ノ場所及蠶繭使用ニ供スル場所ハ消毒ヲ行ヒ検査用具ヲ洗滌シテ汚水ハ之ヲ消毒シ且置リニ他ニ放流スヘカラス

第十九條 蠶桑取締法施行規則第九條、第十條、第十一條、第十二條及第十三條ノ蠶繭ハ標記蠶種ニ付テハ蠶繭ノ表面適宜ノ箇所ニ之ヲ押捺スヘシ

以上ノ火熱又ハ蒸氣熱ヲ用キ生菌重量百ニ對シ四十以内ニシテラシムヘシ

蠶繭取締法施行規則第十一條ノ蠶繭重延ノ處アル場合トハ病勢弱ニシテ蠶繭ノ過半重延ナリトシ場合ヲ關フ

蠶繭取締法施行心得 蠶繭取締法施行心得ノ通定メ大正七年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 蠶繭取締法施行規則第九條ニ依リ蠶繭又ハ其ノ繭若ハ蠶ヲ匿殺、熱殺又ハ水殺スル方法左ノ如シ

第一條 蠶繭取締法施行規則第十條ニ依リ蠶繭又ハ其ノ繭若ハ蠶ヲ匿殺、熱殺又ハ水殺スル方法左ノ如シ

蠶繭取締法施行規則第七十六條ノ規定ニ依リ發育不良ノ蠶繭トハ實生苗ニ在リテハ幹長八寸、其ノ他ノ苗ニ在リテハ幹長二尺ニ達スルヲ要シ

又ハ之ヲ低減シタル場合ニ於テ其ノ廢止又ハ低減シタル額

蠶繭取締法施行規則第十一條ノ蠶繭重延ノ處アル場合トハ病勢弱ニシテ蠶繭ノ過半重延ナリトシ場合ヲ關フ

蠶繭取締法施行規則第十一條ノ蠶繭重延ノ處アル場合トハ病勢弱ニシテ蠶繭ノ過半重延ナリトシ場合ヲ關フ

蠶繭取締法施行規則第十一條ノ蠶繭重延ノ處アル場合トハ病勢弱ニシテ蠶繭ノ過半重延ナリトシ場合ヲ關フ

蠶種検査手数料ニ關スル件

大正六年十二月十二日 農商省令第二十號 蠶種検査手数料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 蠶種検査手数料ノ規定ニ依リ蠶種検査手数料左ノ如シ

第一條 蠶種検査手数料ノ規定ニ依リ蠶種検査手数料左ノ如シ

第一條 蠶種検査手数料ノ規定ニ依リ蠶種検査手数料左ノ如シ

蠶繭取締法施行規則

第一條 蠶繭取締法施行規則第十一條ノ蠶繭重延ノ處アル場合トハ病勢弱ニシテ蠶繭ノ過半重延ナリトシ場合ヲ關フ

第一條 蠶繭取締法施行規則第十一條ノ蠶繭重延ノ處アル場合トハ病勢弱ニシテ蠶繭ノ過半重延ナリトシ場合ヲ關フ

Table with columns for '種木' (Species), '苗圃' (Nursery), '付付' (Planting), and '改設者' (Reviser). It lists various types of mulberry trees and their cultivation methods.

蠶業試驗場分析手數料ノ件

蠶業試驗場分析手數料ノ件ヲ裁可シテ之ニ依リテ蠶業試驗場分析手數料ノ件ヲ裁可シテ之ニ依リテ蠶業試驗場分析手數料ノ件ヲ裁可シテ之ニ依リテ...

蠶業試驗場ニ分析依頼者心得

蠶業試驗場ニ分析依頼者心得 蠶業試驗場ニ分析依頼者心得 蠶業試驗場ニ分析依頼者心得...

蠶種配付規程

蠶種配付規程 蠶種配付規程 蠶種配付規程...

桑ノ接穂及苗木配付規程

桑ノ接穂及苗木配付規程 桑ノ接穂及苗木配付規程 桑ノ接穂及苗木配付規程...

朝鮮蠶業令

朝鮮蠶業令 朝鮮蠶業令 朝鮮蠶業令...

蠶業令

蠶業令 蠶業令 蠶業令...

蠶業試驗場分析手數料ノ件

蠶業試驗場分析手數料ノ件ヲ裁可シテ之ニ依リテ蠶業試驗場分析手數料ノ件ヲ裁可シテ之ニ依リテ蠶業試驗場分析手數料ノ件ヲ裁可シテ之ニ依リテ...

蠶業試驗場ニ分析依頼者心得

蠶業試驗場ニ分析依頼者心得 蠶業試驗場ニ分析依頼者心得 蠶業試驗場ニ分析依頼者心得...

蠶種配付規程

蠶種配付規程 蠶種配付規程 蠶種配付規程...

桑ノ接穂及苗木配付規程

桑ノ接穂及苗木配付規程 桑ノ接穂及苗木配付規程 桑ノ接穂及苗木配付規程...

朝鮮蠶業令

朝鮮蠶業令 朝鮮蠶業令 朝鮮蠶業令...

蠶業令

蠶業令 蠶業令 蠶業令...

第八條 道長官(長官)蠶業取締委員ヲ命ズル...

第九條 蠶(其ノ氏名ヲ告示スヘシ)...

植桑獎勵補助規程

第一條 桑樹ノ栽培普及ヲ獎勵スル...

第一號表式 植桑苗木本數其ノ他

Table with columns for Prefecture Name (府縣名), Planting Area (增加桑田段別), and various counts (計, 所要桑苗木本數, 段當桑苗木本數).

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル...

第一號表式 植桑苗木本數其ノ他

原蠶種配付規程 第一條 朝鮮總督府勸業獎勵場蠶業試驗所...

Table with columns for Prefecture Name (府縣名), Planting Area (增加桑田段別), and various counts (計, 所要桑苗木本數, 段當桑苗木本數).

關東州蠶業取締規則

昭和二年十月一日

第一條 本令ニ於テ蠶業製造者トハ他人ニ...

第二條 本令ニ於テ蠶業製造者トハ他人ニ...

第三條 蠶業製造者ハ...

第四條 蠶業製造者ハ...

第五條 蠶業製造者ハ...

第五條 蠶業製造者ハ...

第六條 蠶業製造者ハ...

第七條 蠶業製造者ハ...

第八條 蠶業製造者ハ...

第九條 蠶業製造者ハ...

關東州蠶業取締規則

昭和二年十月一日

第一條 蠶業製造者ハ...

第二條 蠶業製造者ハ...

第三條 蠶業製造者ハ...

第四條 蠶業製造者ハ...

第五條 蠶業製造者ハ...

第六條 蠶業製造者ハ...

第七條 蠶業製造者ハ...

第八條 蠶業製造者ハ...

第九條 蠶業製造者ハ...

第十條 蠶業製造者ハ...

五 輸入期日
輸入セントスル米及穀ノ數量二千五百斤未
滿ナルトキハ輸入ノ際口頭ヲ以テ許可ヲ申
請スルコトヲ得
第二條 前條第一項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ
許可ヲ受ケタル者ハ輸入申告ノ際其ノ許可
書ヲ稅關ニ提出スベシ
第三條 第一條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受
ケタル者許可ノ日ヨリ六十日以内ニ於テ朝
鮮總督ノ指定スル期間内ニ其ノ米及穀ヲ輸
入セザルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ
朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ
在ラズ
附則
本令ハ昭和三年勅令第二十二號施行ノ日ヨリ
之ヲ施行ス

米穀検査規則

米穀検査規則 大正十一年七月十一日
改正 大正十二年三月三十一日
昭和三年九月九日 第一四號
昭和四年三月三十一日 第二七號 三年第五
五號 四年第二號
米穀検査規則左ノ通改正ス
第一條 通知事ノ指定スル地ヨリ朝鮮産ノ玄
米又ハ白米ヲ輸出シ移出又ハ他ノ道ニ搬出
セムトスル者ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケヘシ
但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ
此ノ限ニ在ラス
一 他ノ地ニ於テ検査ヲ受ケタルモノ
二 商品見本ニシテ一口一斗未満ノモノ
三 試驗調査ノ用ニ供シ又ハ博覽會ノ共進
會ノ出品等ノ出品ノ用ニ供スルモノ
ニシテ官公署ノ證明アルモノ
第二條 検査ハ道地方長官ノ行フ
第三條 検査ハ水稻及陸稻ニ區分シ左ノ事項
ニ付テ行ヒ合格ヲ定ム
一 品質ノ良否
二 乾燥ノ程度
三 石、土、砂、粉、糠、米、死米、赤米、碎
米其ノ他ノ夾雜物混入ノ多少
四 異年度産米混入ノ有無
五 容量又ハ重量及包裝ノ適否

六 前各號ノ外白米ニ在リテハ搗精ノ良否
第四條 検査ニ合格シタル米ニハ左ノ標準ニ
依リ等級ヲ附シ但シ赤米ノ混入割合ニ付テ
ハ通知事ニ於テ別段ノ定メ爲スコトヲ得
支米(水稻及陸稻ニ區分ス)
特等
品質 優良ナルモノ
乾燥 十分ナルモノ
石、糠、粉、米、死米、赤米、碎米、
碎米其ノ他ノ夾雜物ノ
混入割合ノ二以内ノモノ
一等
品質及乾燥 特等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 蝦米及異年度産米ノ混
入割合ノ二以内ノモノ
二付十粒以内ノ赤米ノ混
入割合ノ二以内ノモノ
ニシテ土、砂、粉、糠、
死米、碎米其ノ他ノ夾
雜物ノ混入割合ノ三以
内ノモノ
二等
品質及乾燥 二等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 蝦米及異年度産米ノ混
入割合ノ三以内ノモノ
ニ付十粒以内ノ赤米ノ混
入割合ノ三以内ノモノ
ニシテ土、砂、粉、糠、
死米、碎米其ノ他ノ夾
雜物ノ混入割合ノ五以
内ノモノ
三等
品質及乾燥 二等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 蝦米及異年度産米ノ混
入割合ノ五以内ノモノ
ニ付十粒以内ノ赤米ノ混
入割合ノ五以内ノモノ
ニシテ土、砂、粉、糠、
死米、碎米其ノ他ノ夾
雜物ノ混入割合ノ六以
内ノモノ
四等
品質及乾燥 三等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 蝦米及異年度産米ノ混
入割合ノ六以内ノモノ
ニ付十粒以内ノ赤米ノ混
入割合ノ六以内ノモノ
ニシテ土、砂、粉、糠、
死米、碎米其ノ他ノ夾
雜物ノ混入割合ノ六以
内ノモノ

白米(水稻及陸稻ニ區分ス)
特等
品質 優良ナルモノ
搗精 十分ナルモノ
石、糠、粉、米、死米、赤米、碎米、
碎米其ノ他ノ夾雜物ノ
混入割合ノ二以内ノモノ
一等
品質及乾燥 特等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 蝦米及異年度産米ノ混
入割合ノ二以内ノモノ
ニ付十粒以内ノ赤米ノ混
入割合ノ二以内ノモノ
ニシテ土、砂、粉、糠、
死米、碎米其ノ他ノ夾
雜物ノ混入割合ノ三以
内ノモノ
二等
品質及乾燥 二等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 蝦米及異年度産米ノ混
入割合ノ三以内ノモノ
ニ付十粒以内ノ赤米ノ混
入割合ノ三以内ノモノ
ニシテ土、砂、粉、糠、
死米、碎米其ノ他ノ夾
雜物ノ混入割合ノ五以
内ノモノ
三等
品質及乾燥 二等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 蝦米及異年度産米ノ混
入割合ノ五以内ノモノ
ニ付十粒以内ノ赤米ノ混
入割合ノ五以内ノモノ
ニシテ土、砂、粉、糠、
死米、碎米其ノ他ノ夾
雜物ノ混入割合ノ六以
内ノモノ
四等
品質及乾燥 三等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 蝦米及異年度産米ノ混
入割合ノ六以内ノモノ
ニ付十粒以内ノ赤米ノ混
入割合ノ六以内ノモノ
ニシテ土、砂、粉、糠、
死米、碎米其ノ他ノ夾
雜物ノ混入割合ノ六以
内ノモノ

所ニ備付ケ等級ノ決定ニ資スヘシ
第五條 検査ヲ受ケヘキ米ノ包裝ノ容量及重
量ハ左ノ標準ニ依ルベシ
包裝
構造完全ニシテ一枚ノ重量六百包以上
ノ吹チ用掛繩ハ一枚以上ノ吹チ用掛繩ニ
シテ二筋ヲ用掛繩四筋所懸ニ二筋所懸
シ懸繩ハ兩端ノ掛繩ニ本掛トス
白米
吹入又ハ布袋入トシ吹入ニ付テハ支米
ニ準シ布袋入ニ付テハ構造強固ニシテ
一枚ノ重量三十キログラム以上ニハ
二十五包以上ノ布袋ヲ用ヒ掛繩ハ三十
キログラム以上ノミ施シ一筋十一包
以上ノ懸繩ニ筋ヲ用ヒ掛繩ニ筋所懸繩
一箇所トシ懸繩ハ横繩ニ本掛トス
支米
一吹ニ付四斗
吹入一吹ニ付四斗ノ布袋入一袋ニ付三
十キログラム以上ハ十五キログラム
通知事ノ特別ノ事由アルトキハ前項ノ規定
ニ異リタル標準ニ依ラシムルコトヲ得
第六條 前二條ノ標準ニ該當セザル米ハ不合
格トス
第七條 不合格米ハ之ヲ輸出シ移出又ハ他ノ
道ニ搬出スルコトヲ得ス
第八條 品質ノ良否、乾燥ノ程度、夾雜物
ノ混入ノ多少及異年度産米混入ノ有無ノ検査
ハ吹入ニ在リテハ見割法ニ依リ布袋入ニ在
リテハ解口シテ之ヲ行フ但シ検査員必要ト
認ムルトキハ解袋シテ之ヲ行フコトヲ得
第九條 検査員必要ト認ムルトキハ吹入又ハ袋
中ノ相當數ノ吹入又ハ袋ヨリ一升以上ヲ抽出シ粒
選シテ之ヲ行フ
第十條 検査員必要ト認ムル費用ハ検査請求人ノ負
擔トス
第十一條 検査ノ順序ニ從ヒ日ヨリ日

検査ノ間ニ検査所ニ於テ之ヲ行フ但シ特別
ノ事由ニ因リ検査請求人ノ請求アリタルト
キハ現品所在地ニ就キ之ヲ行フコトヲ得
第九條ノ二 検査請求人ハ其ノ住所、氏名又
ハ商號以外ノ事項ヲ記載セル物件ヲ検査ヲ
受ケヘキ米ノ包裝ニ添附シ又ハ包裝内ニ挿
入スルコトヲ得ス
第十條 検査ニ從事スル者其ノ職務ヲ行フト
キハ第一號様式ノ證券ヲ携帯スヘシ
第十一條 検査ヲ爲シタル米ニハ其ノ包裝ニ
第二號様式ノ検査印及第三號様式ノ道名
記載ヲ捺捺シ陸稻ニ在リテハ第三號様式ノ
二ノ陸稻検査印ヲ捺捺ス但シ第七條第
三項ノ規定スルモノニ付テハ第四號様
式ノ検査印ヲ捺捺ス第七條第四項ノ規定スル
モノニ付テハ第四號様式ノ二ノ検査印
ヲ捺捺ス
検査ヲ爲シタル玄米ニシテ石ノ混入ナク
製良好ナリト認ムルモノニハ検査請求人ノ
請求ニ依リ第五號様式ノ石抜き検査印ヲ
捺捺ス
第十二條 検査員必要ト認ムルトキハ再検査
ヲ行フコトヲ得
第十三條 検査ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第十四條 検査ヲ爲シタル米ニシテ左ノ各號
ノ一ニ該當スルモノハ更ニ検査ヲ受ケルニ
非サレハ輸出シ移出又ハ他ノ道ニ搬出スル
コトヲ得ス
一 包裝ノ更ニシタルモノ
二 検査印及道名記載ノ磨滅若ハ汚損
シテ識別シ難キモノ
三 封緘紙ノ毀損シタルモノ
四 變質其ノ他異狀ヲ呈シタルモノ
第十四條 前二條ノ規定スル検査ヲ爲シタル
トキハ前項ノ規定ニ依リ取消シタルトキハ第八號
前項ノ規定ニ依リ取消シタルトキハ第八號

第十五條 消印ヲ捺捺ス
第十六條 検査ノ決定ニ對シテハ異議ヲ述フ
ルコトヲ得ス
第十七條 検査印、道名記載又ハ記載アル
空袋又ハ空袋ハ其ノ印及記載ヲ抹消ス
ルニ非サレハ輸出シ移出又ハ他ノ道ニ搬出
スルモノノ包裝ニ使用スルコトヲ得ス
第十八條 検査ニ從事スル吏員ニ於テ本令違
反ノ疑アリト認ムルトキハ米ノ運搬ヲ停止
又ハ積戻及關係資料ノ提出ヲ命スルコトヲ
得
第十九條 輸出シ移出又ハ他ノ道ニ搬出セム
トスル米ノ包裝ニハ検査印、道名記載又
ハ消印類似ノ商標、記載其ノ他ノ標記ヲ爲
スコトヲ得但シ通知事ノ定ムル所ニ依リ
米ノ大小粒其ノ他ニ付特別ノ標記ヲ爲スハ
此ノ限ニ在ラス
第二十條 朝鮮産以外ノ米ヲ輸入シ移出
又ハ他ノ道ニ搬出セムトスルモノハ其ノ旨チ直
ニ所轄検査所ニ届出シ之ヲ輸出シ移出
又ハ他ノ道ニ搬出セムトスルモノハ亦同シ
第二十一條 朝鮮産以外ノ米ヲ輸出シ移出
又ハ他ノ道ニ搬出セムトスル場合ニ於テ第
五條ノ規定スル包裝ニ類似ノ包裝ヲ用ヒム
トスルトキハ所轄検査所ノ承認ヲ受ケヘシ
検査所前項ノ承認ヲ受ケタルモノハ第十號
様式ノ要領ニ添附シ支那米ニ在リテハ第十
一號様式(イ)號ノ記載ヲ、臺灣米ニ在リテ
ハ第十一號様式(ロ)號ノ記載ヲ、内地米ニ
在リテハ第十一號様式(ハ)號ノ記載ヲ捺捺
スヘシ
第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百
圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第一條第七條第一項、第二項若ハ第十
三條ノ規定ニ違反シタル者
二 検査ヲ爲ル目的ヲ以テ不正ノ行爲ヲ
爲シタル者
三 検査ヲ爲シタル米、其ノ包裝若ハ容量、
検査印、道名記載又ハ封緘紙ニ不正
ノ手段ヲ施シタル者
四 不正ノ手段ヲ以テ検査ヲ受ケ又ハ受ケ
ムトシタル者

第二十三條 第九條ノ二、第十二條第二項、第十
六條、第十八條、第十八條ノ二若ハ第十八條
ノ三第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第十七條ノ
命令ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又
ハ科料ニ處ス
第二十四條 本令ニ依リ處罰ヲ受ケヘキ者カ
未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ニ依
リ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用
ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力
ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從
業者其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタル
トキハ本人ノ指彈ニ出テサレモト雖其
ノ罰則ヲ本人ニ適用ス
法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者
法人ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタル
場合ニ於テハ本令ノ規定ニ從テ罰則ヲ法人
ニ適用ス
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者
ヲ以テ該當人トス
第二十五條 本令ハ富分ノ内蔵鏡北道ニ之ヲ
適用セス
附則
本令ハ大正十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタル
米ハ本令ノ検査ニ合格シタルモノト看做ス
本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタル
玄米ヲ輸出シ移出又ハ他ノ道ニ搬出セムトス
ル者ハ其ノ旨チ検査所ニ届出シヘシ
前項ノ届出アリタルトキハ検査所ハ第九號様
式ノ記載ヲ捺捺スヘシ
(様式省略)

大豆検査規則 大正十一年七月十一日
改正 大正十三年第一二號 四年第一〇
大豆検査規則左ノ通改正ス
第一條 通知事ノ指定スル地ヨリ朝鮮産大豆
ヲ輸出シ移出又ハ他ノ道ニ搬出セムトスル
者ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケヘシ但シ左ノ各
號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在
ラス
一 他ノ地ニ於テ検査ヲ受ケタルモノ
二 商品見本ニシテ一口一斗未満ノモノ
三 試驗調査ノ用ニ供シ又ハ博覽會ノ共進
會ノ出品等ノ出品ノ用ニ供スルモノ
ニシテ官公署ノ證明アルモノ
第二條 検査ハ左ノ事項ニ付テ行ヒ合格不
合格ヲ定ム
一 品質ノ良否
二 乾燥ノ程度
三 異品種混入ノ多少
四 夾雜物混入ノ多少及異年度産大豆混入
ノ有無
五 容量及包裝ノ適否
第三條 検査ニ合格シタル大豆ニハ左ノ標準
ニ依リ等級ヲ附ス但シ異品種ノ混入割合ニ
付テハ通知事ニ於テ別段ノ定メ爲スコトヲ
得
特等
品質 優良ナルモノ
乾燥 十分ナルモノ
異品種ノ混入割合ノ一
以内ノモノ
夾雜物ノ混入割合ノ一
以内ニシテ異年度産大
豆ノ混入割合ノ二以
内ノモノ
一等
品質及乾燥 特等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 異品種ノ混入割合ノ五
以内ノモノ
二等
品質及乾燥 一等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 異品種ノ混入割合ノ十
以内ノモノ
三等
品質及乾燥 二等ニ次クモノ
夾雜物其ノ他 異品種ノ混入割合ノ二十
以内ノモノ

本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタル大豆ヲ輸出シ又ハ他ノ道ニ輸出セムトスル者ハ其ノ旨検査所ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ検査所ハ第三號樣式ノ記帳ヲ押捺スヘシ

米穀法第二條ノ規定ニ依ル米及粗ノ輸入制限ニ關スル勅令ノ施行ニ關スル件

昭和三年勅令第二十二號ノ施行ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條 臺灣ニ輸入スル米及粗ニ付昭和三年勅令第二十二號第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ別記樣式ニ依リ申請書ニ通テ用途ニ關スル説明書一通添附シ上臺灣總督ニ提出スヘシ

第二條 前項ノ許可ヲ受ケタル者米及粗ヲ輸入シタル月日ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

第三條 昭和三年勅令第二十二號第二項ノ場合同ニ於テ米及粗ヲ輸入スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ輸入手續ヲ爲スヘキ書類ニ提出スヘシ

一 生産地

二 種類別數量

前項ノ書面ニハ生産地、仕入地又ハ輸出地ノ帝國領事館、帝國領事館ヲキリキ、其ノ地ノ官廳、公署又ハ商工會館所ノ證明アルコトヲ要ス

第一項ノ種類別數量、等級及粗、玄米又ハ白米ノ區別別九粒又ハ碎米ノ區別別記載スヘキ

第四條 前條ノ規定ニ依リ米及粗ヲ輸入シタル者ハ臺灣總督ノ種類別數量、生産地、輸入地及輸入月日ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

本令ハ大正十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタル大豆ハ本令ニ依リ検査ニ合格シタルモノト看做ス

本令ハ大正十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタル大豆ヲ輸出シ又ハ他ノ道ニ輸出セムトスル者ハ其ノ旨検査所ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ検査所ハ第三號樣式ノ記帳ヲ押捺スヘシ

本令ハ昭和三年勅令第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式

外米(粗)輸入許可申請書

一 種類

二 數量

三 用途

四 輸入地

五 輸入期日

六 輸入許可申請候也

昭和 年 月 日

住居 輸入委託者 氏名(名稱)印

住居 輸入者 氏名(名稱)印

臺灣總督 殿

臺灣米穀検査規則

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ米穀ト稱スルハ本島產玄米又ハ精米ヲ謂フ

第二條 米穀ノ検査ニ依リ検査ヲ受ケ包裝面ニ合格シタルモノハ本令ニ依リ非サレハ之ヲ移出シタルモノト看做ス

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケタル米穀ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ日ヨリ五十年ヲ滿スル以前ノ有效期間ハ本令施行ノ日ヨリ五十年ヲ滿スル以前ノ有效期間ニ依リ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケタル米穀ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ日ヨリ五十年ヲ滿スル以前ノ有效期間ハ本令施行ノ日ヨリ五十年ヲ滿スル以前ノ有效期間ニ依リ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケタル米穀ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ日ヨリ五十年ヲ滿スル以前ノ有效期間ハ本令施行ノ日ヨリ五十年ヲ滿スル以前ノ有效期間ニ依リ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケタル米穀ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ日ヨリ五十年ヲ滿スル以前ノ有效期間ハ本令施行ノ日ヨリ五十年ヲ滿スル以前ノ有效期間ニ依リ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケタル米穀ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ日ヨリ五十年ヲ滿スル以前ノ有效期間ハ本令施行ノ日ヨリ五十年ヲ滿スル以前ノ有效期間ニ依リ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前舊令ニ依リ検査ヲ受ケタル米穀ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケタルモノト看做ス

Table with 2 columns: 第一號樣式 (別記) and 第二號樣式. Includes fields for 木板, 米穀検査員之印, 總督府印, 分五寸一, 分五寸一, 官職氏名.